

地域の大学連携による 学生の国際キャリア開発プログラム

平成 23 年度総合報告書

平成 21 年度文部科学省
大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム

宇都宮大学 作新学院大学 白鷗大学

目 次

刊行にあたって	1
第1部 事業実績	
1. 事業計画の策定	3
1-1 平成 21 年度事業案	
(1) 選定の経緯	
(2) 事業案	
(3) 予算案	
1-2 平成 22 年度事業案	
(1) 事業案	
(2) 予算案	
1-3 平成 23 年度事業案	
(1) 事業案	
(2) 予算案	
2. 事業の実施	12
「国際キャリア開発プログラム」の開講にあたって	
2-1 国際キャリア合宿セミナー	
(1) 国際キャリア開発基礎	
(2) 国際キャリア開発特論	
(3) 国際実務英語 I	
(4) 国際実務英語 II	
2-2 国際キャリア実習	
(1) 国際キャリア実習 I	
(2) 国際キャリア実習 II	
2-3 国際キャリア開発プログラム企画講演会	
(1) 国際人権活動から日本を見つめ直す	
(2) アクティブ思考法セミナー	
(3) これまでの経験を振り返り、将来を考えよう	
2-4 国際キャリア開発プログラム企画・公開講義	
(1) アフリカの将来を問う—開発と人権確立をいかに両立させるか？	
(2) ファンリテーター研修会	
3. 事業の広報	32
3-1 ホームページ	
3-2 ポスター・チラシ・パンフレット	
3-3 メールマガジン	
3-4 ブログ	
3-5 新聞、雑誌記事	
4. 事業の管理体制	37
・説明と組織図	
4-1 国際キャリア教育会議	
(1) 役割	
(2) 活動実績	
4-2 国際キャリア FD 委員会	
(1) 役割	
(2) 活動実績	

- 4-3 国際キャリア教育点検・評価委員会
 - (1) 役割
 - (2) 活動実績
- 4-4 国際キャリア合宿セミナー実行委員会
 - (1) 役割
 - (2) 活動実績
- 4-5 国際キャリア合宿セミナー学生実行委員会
 - (1) 役割
 - (2) 活動実績

第2部 地域社会からの支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42

1. 物的支援

- (1) 内容
- (2) 実績

2. 人的支援

- (1) 内容
- (2) 実績

第3部 点検評価

1. 事業評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44

1-1 達成状況の評価結果と判断理由

- (1) 国際キャリア教育会議
- (2) 定量的評価

1-2 平成 21、22、23 年度の総括

2. 授業評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 61

2-1 「国際キャリア合宿セミナー」の成果

2-2 「国際キャリア実習」の成果

2-3 受講生の追跡調査

附表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 64

1. 委員会規定

- (1) 国際キャリア教育会議
- (2) 国際キャリア FD 委員会
- (3) 国際キャリア教育点検・評価委員会
- (4) 国際キャリア合宿セミナー実行委員会

2. 委員会名簿

- (1) 国際キャリア教育会議
- (2) 国際キャリア FD 委員会
- (3) 国際キャリア合宿セミナー実行委員会
- (4) 国際キャリア合宿セミナー学生実行委員会

3. シラバス

- (1) 宇都宮大学国際学部・コンソーシアムとちぎ
- (2) 白鷗大学経営学部

刊行にあたって

「地域の大学連携による学生の国際キャリア開発プログラム」（以下、本プログラム）は、平成 16 年度から毎年夏に行ってきた「国際キャリア合宿セミナー」を発展させたプログラムで、今年度で 8 年目となります。「国際キャリア合宿セミナー」は、国際分野でのキャリア教育を全国に先駆けて実施した取組であり、高校生や社会人も参加する産学官および高大連携の企画として、全国規模のセミナーへと発展しています。ちなみに平成 23 年度の参加者は、連携 3 大学（宇都宮大学、白鷗大学、作新学院大学）の学生が 6 割を占め、共愛学園前橋国際大学、大東文化大学、日本大学、愛知淑徳大学、東洋大学、東京外国語大学、広島大学、山口県立大学、島根大学、早稲田大学、琉球大学など、県外の大学生が平成 22 年度の 3 割から 4 割に増加しました。

本プログラムでは、前年度開講の「国際キャリア開発基礎」「国際キャリア開発特論」「国際実務英語Ⅰ」に加え、平成 23 年度は新たに「国際実務英語Ⅱ」を「国際キャリア合宿セミナー」として開講し、平成 23 年度の「国際キャリア合宿セミナー」は 9 月に 2 回、1 月に 1 回開催されました。また、国内インターンシップとして前年度に開講した「国際キャリア実習Ⅰ」に加えて、平成 23 年度は新たに海外インターンシップとして「国際キャリア実習Ⅱ」を開講しました。「国際キャリア実習Ⅰ」では、国内の企業、自治体、NPO/NGO で国際分野の実務を経験し、「国際キャリア実習Ⅱ」では、モンゴル、ネパール、ルワンダ等で様々な現場体験をしています。

本プログラムの企画・運営・評価を行う「国際キャリア教育会議」では、連携 3 大学、栃木県、公的機関、市民団体、経営者団体からの委員が参加し、本プログラムの企画や評価に関する活発な討論が行われました。企画や評価に関する外部委員の意見は、これまで本プログラムの随所に反映されています。「国際キャリア教育 FD 委員会」は「国際キャリア教育会議」の決定に従い、実務面で本プログラムの運営と改善に取り組みました。

本プログラムは、平成 21 年度文科省補助金「戦略的大学連携支援事業」に採択され、文部科学省の助成金で運営されています。本プログラムは、宇都宮大学、白鷗大学、作新学院大学、栃木県、国際協力機構・JICA 地球ひろば、大学コンソーシアムとちぎ、いっくら国際文化交流会、(株)国際開発ジャーナル社、栃木県 JICA 専門家連絡会、栃木県青年海外協力隊 OB 会、あしぎん国際交流財団、キリンビール(株)など、多くの大学・企業・団体及び学生実行委員のご協力を得て実施しています。関係者の皆様のご支援、ご協力に対して、心よりお礼を申し上げます。

平成 21 年度から 23 年度の活動実績と評価結果を記した平成 23 年度総合報告書を、これまでご協力頂きました皆様にお届けいたします。

「地域の大学連携による学生の国際キャリア開発プログラム」
取組責任者 友松 篤信

第1部 事業実績

1. 事業計画の策定

1-1 平成 21 年度事業案

(1) 選定の経緯

平成 16 年度からの過去5年間の実績をもとに、文部科学省の平成 21 年度「大学改革推進等補助金(大学改革推進事業)」に応募するように、渡邊直樹副学長(企画・広報担当)から国際学部友松篤信教授に平成 21 年4月に指示があった。友松教授は、渡邊一幸財務部長及び飯野明正人事課長の示唆等を参考に基本案を作成し、これに渡邊副学長が検討を加え、さらに國友孝信副学長(総務・財務担当)の意見を求めた。こうして、「地域の大学連携による学生の国際キャリア開発プログラム」の事業案が「平成 21 年度『大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム』申請書」としてまとめられた。本申請書に示された取組の概要は、次の通りである。

本取組は、過去5年間に亘り宇都宮大学と近隣の私立大学が共同で実施してきた「国際キャリア合宿セミナー」の実績を踏まえ、大学連携の強化と地域産業界の人的資源の有効かつ効率的活用により、学生に国際的学術分野の専門性を身につけさせ、地域企業や自治体の国際化ニーズに応えるものである。新規国際キャリア開発科目として「国際キャリア開発特論」「国際実務英語」「国際キャリア実習」(国内・国外)等を開設し、講師として大学教員以外に地域企業の海外勤務経験者を特任教員として招聘し、短期間の集中的合宿形式を採用して学生を教育する。本教育プログラムを履修し、国際的キャリアを獲得した修了生は、海外展開する地域の企業や国際的課題解決に取組む自治体、また国際協力・貢献活動分野への就業が可能となる。本取組は3大学連携の強化と地域の企業や自治体の全面的協力によりその教育力を活用する点において、助成終了後も継続可能である。

同申請書は平成 21 年5月に文部科学省に送付され、同省から同年8月に採択内定の連絡を受け、同8月に採択決定の通知を受けた。この事業案の予算規模は、平成 21 年度から 23 年度までの3年間で、総額 143,049 千円である。

採択決定後、文部科学省の要請により、平成 21 年度の事業案は「平成 21 年度大学改革推進等補助金(大学改革推進事業)調書」(以下、「平成 21 年度調書」)としてまとめられ、文科省に送付された。平成 21 年9月に、文科省から平成 21 年度の予算案が満額認められた旨の連絡があった。

(2) 事業案

「平成 21 年度調書」に示された事業の概要は、次の通りである。

宇都宮大学、作新学院大学、白鷗大学、国際医療福祉大学(協力大学)は連携して「国際キャリア合宿セミナー」(「国際キャリア開発基礎」)を宇都宮・コンセールを会場として、すでに作成された具体案に基づき9月に実施する。「国際キャリア教育会議」を設置し、特任教員と事務職員を 11 月までに採用し、本プログラムを本格的に始動する。まず特任教員主導で FD 活動のみならず業務方針や運営方針も検討する「国際キャリア教育 FD 委員会」を設置する。つぎに平成 22 年度に実施する「国際キャリア開発基礎」(平成 21 年度の見直し)「国際キャリア開発特論」「国際キャリア実習 I」「国際実務英語 I」に関わる基礎調査を国内外で行い、カリキュラム開発と講師の人選を行う。年度末には「国際キャリア教育評価委員会」を開催し、地元関係者を交えて業務評価と教育評価を行い、総合報告書をまとめる。

「平成 21 年度調書」に示した事業項目は、次の 13 項目からなる。

- ① 8月「国際キャリア合宿セミナー実行委員会」の改組充実による「国際キャリア教育会議」の設置(会議規程、人事方針、国際キャリアFD委員会設置(案)等)
- ② 8月特任教員及び雇用職員の募集・選考
- ③ 9月「国際キャリア合宿セミナー」(計画済み)を「国際キャリア開発基礎」として開講に必要な機材設備の充実(パソコン、プロジェクター、ビデオカメラ等)

- ④ 11月特任教員及び雇用職員を採用及び業務に必要な機材設備の充実(パソコン、周辺機器等)
- ⑤ 11月「国際キャリア教育FD委員会」の設置(事業管理(案)・職務分掌(案)・ポートフォリオ管理(案)・国際キャリア教育評価委員会規程(案)の作成等)
- ⑥ 11月「国際キャリア教育会議」の開催(⑤の審議・決定)
- ⑦ 12月HPの開設とコンテンツの充実、ポートフォリオ管理の実施
- ⑧ 1月「国際キャリア開発基礎」「国際キャリア開発特論」「国際キャリア実習Ⅰ」「国際実務英語Ⅰ」カリキュラムの基礎調査、開発及び講演者・講師の人選(平成22年度前期に完了)
- ⑨ 2月パンフレットの作成、メーリングリスト等の整備による広報活動の充実
- ⑩ 3月「国際キャリア教育評価委員会」の設置(事業評価、教育評価)
- ⑪ 3月「国際キャリア教育FD委員会」による「平成21年度総合報告(案)」及び「平成22年度事業計画(案)」の策定
- ⑫ 3月「国際キャリア教育会議」の開催(⑪の審議)
- ⑬ 3月平成21年度総合報告書の作成・印刷

「平成21年度調書」に示した各事業項目(13項目)の具体的内容は、次の通りである。

- ① 「国際キャリア教育会議」を開催し、会議規程、特任教員・雇用職員の新規採用・選考方針を決める。
- ② 各大学は人事選考委員会を組織して、候補者の選考を行ない、「国際キャリア教育会議」で承認する。
- ③ 「国際キャリア開発基礎」(国際キャリア合宿セミナー)の開講によって、3大学が有する教育研究分野の特徴を活かした、国際的な仕事に求められる知識や能力、これらの仕事に至るキャリアパスを考える教育を提供する。
- ④ 特任教員及び雇用職員を採用し、業務に必要な機材設備の購入を行う。
- ⑤ 「国際キャリア教育FD委員会」を開催し、事業管理(案)・職務分掌(案)・ポートフォリオ管理(案)・国際キャリア教育評価委員会規程(案)の作成等を行う。
- ⑥ 「国際キャリア教育会議」を開催し、⑤の審議・決定を行う。
- ⑦ HPの開設とコンテンツの充実を図り、広く本事業の内容を公開・提供する。また、学生指導を記録し効率化するポートフォリオ管理を行う。
- ⑧ 「国際キャリア開発基礎」「国際キャリア開発特論」「国際キャリア実習Ⅰ」「国際実務英語Ⅰ」に関する調査研究を国内外で開始し、カリキュラム開発や講演者・講師の人選を平成22年度前期までに完了する。
- ⑨ 平成22年度国際キャリア教育プログラムのパンフレット作成を行う。また、メーリングリスト等の整備により広報活動の充実を図る。
- ⑩ 「国際キャリア教育評価委員会」を開催し、事業評価(案)・教育評価(案)をまとめる。
- ⑪ 「国際キャリア教育FD委員会」を開催し、「平成21年度総合報告(案)」及び「平成22年度事業計画(案)」をまとめる。
- ⑫ 「国際キャリア教育会議」を開催し、⑩、⑪の審議・決定を行う。
- ⑬ 平成21年度事業報告書を作成し、参加学生や関係部署に配付する。

「平成21年度調書」に示した各事業項目(13項目)の具体的な学生教育の効果は、次の通りである。

- ① 本プログラムの今後の方針や取組内容を決定することにより、学生教育の枠組みが確立する。
- ② 特任教員の採用により、本プログラムの具体的な教育取組を実施する主体(特任教員)が確立する。
- ③ 地域ニーズに応える本格的な国際キャリア教育が開始される。
- ④ 特任教員の3大学への配置により、学生に対する効率的かつ迅速なサポート・指導体制が始動する。
- ⑤ 学生指導や事業・教育評価の体制、特任教員・雇用職員の新規採用・職務分掌を検討し、学生教育を効率的に行う

基盤が確立する。

- ⑥ 学生指導や事業・教育評価の体制、特任教員・雇用職員の職務分掌を、地域の関係者を交えて多面的に検討することにより、学生教育に地域のニーズや観点が反映される。
- ⑦ HP 開設により文科省や一般社会への情報発信が可能となり、本プログラムへの学生の広範な参加が可能となる。また、学生指導を記録し効率化するポートフォリオ管理の導入により、学生個々のキャリア開発支援が実施される。
- ⑧ 「国際キャリア実習Ⅰ」については、カリキュラム、インターンシップ協定、インターンシップ支援体制が整備される。「国際実務英語Ⅰ」については、ディベート、ライティング、会議英語、交渉などの実践的英語教育のカリキュラムが整備される。
- ⑨ 入学時及び他大学向けの広報媒体(パンフレット)が整備される。メーリングリストの整備により、国内外の関係機関や参加学生への情報発信が可能となり、本教育プログラムの広報・普及が促進される。
- ⑩ 事業評価と教育評価のとりまとめにより、教育改善を図り、学生支援に役立つ基本資料が整備される。
- ⑪ 特任教員がFD活動の一環として「平成21年度総合報告(案)」及び「平成22年度事業計画(案)」をまとめることにより、学生教育の質的向上を図る。
- ⑫ 本プログラムの実施報告や評価、次年度事業計画案を、地域の関係者を交えて多面的に検討することにより、学生教育に地域のニーズや観点が反映させ教育改善に役立つ。
- ⑬ 本プログラムの成果を受講生に認知させることにより、受講生のキャリア意識を高める。

(3) 予算案

「平成21年度調書」に記した平成21年度の補助事業経費の総額は28,596千円であり、その内訳は、補助金(申請予定額)28,596千円、自己収入その他0千円である。

補助金(申請予定額)28,596千円の費目別内訳は、設備備品費8,880千円、旅費1,765千円、人件費12,535千円、事業推進費5,416千円である。

補助金(申請予定額)28,596千円の大学別内訳は、宇都宮大学17,853千円、作新学院大学5,307千円、白鷗大学5,436千円である。

1-2 平成 22 年度事業案

(1) 事業案

「平成 22 年度調書」に示した事業の概要は次の通りである。

本補助事業の目標である、地域の為の国際的人材養成を達成するために「国際キャリア開発基礎」「国際キャリア開発特論」「国際実務英語 I」の実施に当たっては実行委員会を設置し、とちぎ海浜自然の家と芳賀町・芳賀青年の家を会場として、二泊三日の日程で、「国際キャリア開発基礎」を 9 月 4 日から 6 日まで、「国際実務英語 I」を 9 月 18 日から 20 日まで、「国際キャリア開発特論」を平成 23 年 2 月に順次実施する。「国際キャリア実習 I」については、実習先との協定を順次結び、夏期と春期を中心に随時実施する。本年度はこれら 4 科目のカリキュラムを開発し、互いに関連付けて開催することにより、学生の国際キャリア開発を図っていく。

「平成 22 年度調書」に示した事業項目は、次の 20 項目からなる。

- ① 4 月平成 21 年度に採用した特任教員及び事務職員は継続雇用
- ② 4 月「国際キャリア FD 委員会」を開催し、平成 22 年度活動方針案を作成
- ③ 5 月「国際キャリア教育会議」で平成 22 年度活動方針の審議・決定
- ④ 5 月「国際キャリア合宿セミナー実行委員会」を開催
- ⑤ 5 月「国際キャリア実習 I」に関する基礎調査及び国内実習先の開拓
- ⑥ 5 月平成 22 年度開講科目の広報資料を作成し、「大学コンソーシアムとちぎ」構成大学や全国の大学へ参加を依頼する
- ⑦ 6 月「国際キャリア FD 委員会」企画講演会開催
- ⑧ 7 月「国際キャリア FD 委員会」企画講演会開催
- ⑨ 9 月「国際キャリア開発基礎」「国際実務英語 I」を開講
- ⑩ 9 月キャリア個別相談の開始
- ⑪ 10 月「国際キャリア教育点検・評価委員会」の開催
- ⑫ 11 月「国際キャリア実習 II」に関して実習先と協定を結ぶ
- ⑬ 11 月「国際実務英語 II」に関して講師の人選を行なう
- ⑭ 11 月「国際キャリア教育会議」を開催
- ⑮ 1 月「国際キャリア FD 委員会」企画講演会開催
- ⑯ 2 月「国際キャリア開発特論」開講
- ⑰ 2 月「国際キャリア教育点検・評価委員会」の開催
- ⑱ 2 月「国際キャリア教育 FD 委員会」の開催
- ⑲ 3 月「平成 22 年度総合報告書」の策定
- ⑳ 3 月「国際キャリア教育会議」を開催

「平成 22 年度調書」に示した各事業項目（20 項目）の具体的内容は、次の通りである。

- ① 平成 21 年度に採用した特任教員及び事務職員は継続雇用する。
- ② 「国際キャリア FD 委員会」を開催し、本年度開催の 4 科目のカリキュラム実施内容や広報活動など、本年度の活動方針案を作成する。
- ③ 「国際キャリア教育会議」を開催し、本年度の活動方針を協力団体の意見も含め様々な角度から審議し決定する。
- ④ 「国際キャリア開発基礎」「国際キャリア開発特論」「国際実務英語 I」の実施にあたっては実行委員会を設け、それぞれの科目は各大学の特任教員の担当とする。
- ⑤ 「国際キャリア実習 I」に関し、3 大学が有する教育研究資源を活かして調査を行ない、国内実習先を選定する。
- ⑥ チラシ等広報資料を作成し、全国の大学等に発送すると共に、県内の大学へは協力教員を通じて参加者を募集する。

- ⑦ 「国際キャリアFD委員会」は4科目のカリキュラムを補完する事業として、3大学持ち回りの講演会を実施する。
- ⑧ 同上
- ⑨ 「国際キャリア開発基礎」では、国際協力、国際ビジネス、国際理解の3分野8分科会において、国際的な第一線の実務者を講師陣として招き、講義及びキャリア意識を高めるワークショップを行なう。「国際実務英語Ⅰ」では、1クラス10人前後の3分野6クラスに分かれ、国際的なコミュニケーションを体験学習させる。それぞれ二泊三日の合宿セミナー形式で行なう。
- ⑩ 3大学は、履修内容・指導内容を記録するポートフォリオ管理によって学生の個別指導を開始する。
- ⑪ 「国際キャリア教育点検・評価委員会」を開催し、⑨で行なった「国際キャリア開発基礎」「国際実務英語Ⅰ」の評価及び22年度本補助事業全体の中間評価を行う。
- ⑫平成23年度開講の「国際キャリア実習Ⅱ」に関して、国際協力、国際ビジネス、国際理解の3分野で海外実習先との協定締結を順次開始する。
- ⑬平成23年度開講の「国際実務英語Ⅱ」に関して、国際協力、国際ビジネス、国際理解の3分野で講師の人選を行なう。
- ⑭「国際キャリア教育会議」を開催し、⑨で行なった「国際キャリア開発基礎」「国際実務英語Ⅰ」の報告、及び⑪で行なった「国際キャリア教育点検・評価委員会」提案の評価案を審議する。
- ⑮「国際キャリアFD委員会」は4科目のカリキュラムを補完する事業として、3大学持ち回りの講演会を実施する。
- ⑯「国際キャリア開発特論」では、国際協力、国際ビジネス、国際理解の3分野6分科会において、国際的な第一線の実務者を講師陣として招き、専門知識習得やグループ・ディスカッション、高度な専門実務の模擬体験を取り入れたワークショップを二泊三日の少人数合宿セミナー形式で行なう。
- ⑰「国際キャリア教育点検・評価委員会」を開催し、⑯で行なった「国際キャリア開発特論」に関する評価、並びに平成22年度本補助事業全体の事業評価及び教育評価を行ない、改善方針を策定する。
- ⑱「国際キャリア教育FD委員会」を開催し、⑰で指摘された事項について改善策を作成する。
- ⑲一年間の活動を総括し平成22年度総合報告書を作成する。
- ⑳「国際キャリア教育会議」を開催し、「平成22年度総合報告」を審議・決定し、参加学生や関係部署に配付する。

「平成22年度調書」に示した各事業項目（20項目）の具体的な学生教育の効果は、次の通り。

- ① 平成21年度に採用した教員を継続雇用することで学生への効率的な教育指導体制がより確立する。
- ② 平成21年度の実績を発展させた、地域のニーズに即した国際的な仕事に求められる専門的な知識や能力、英語による国際的なコミュニケーション能力、国際的な実務能力を養成する教育プログラムが提供される。
- ③ 地域等の協力団体の観点を反映し地域のニーズや実情に即した教育プログラムが決定される。
- ④ 実行委員会の開設により組織体制が確立する。また、学生委員を加えることにより、学生のニーズや発想を取り入れた機動力のあるスムーズな運営が図れる。
- ⑤ 3大学が有する教育研究資源を活かして、実習生のニーズに合致した魅力的な国内実習先が選定される。
- ⑥ 既設のホームページに加え、ポスター・チラシの全国の大学等への配布、メーリングリストの整備によって、本教育プログラムの広報・普及が促進される。また、協力教員を通じ

てのきめ細かな対応で本プログラムの魅力を直接学生に伝えられる。

⑦ 「国際キャリア開発基礎」「国際実務英語Ⅰ」「国際キャリア実習Ⅰ」「国際キャリア開発特論」の開講に先立ち相乗効果のある講演会を行なうことにより、これら4科目履修への関心が高まる。

⑧⑦と同様

⑨ 「国際キャリア開発基礎」では、国際協力、国際ビジネス、国際理解の3分野に対する職業観と関心が生まれキャリア意識が高まる。「国際実務英語Ⅰ」では、これら3分野の国際的なコミュニケーション能力を高密度の少人数教育により身に付けられる。

⑩ 学生指導を記録し効率化するポートフォリオ管理の導入により、学生個々のキャリア開発支援を効率的に行う基盤が確立する。

⑪ ⑨で行なった「国際キャリア開発基礎」「国際実務英語Ⅰ」の評価を行うことで、⑩で行なう「国際キャリア開発特論」や次年度以降の開講科目の学生支援の改善を指摘する。

⑫国際協力、国際ビジネス、国際理解の3分野の海外実習先を確保することにより、国内実習から海外実習に至る国際分野での一貫した現場実習が経験できる。

⑬「国際実務英語Ⅱ」を開講する為の講師陣が確定する。

⑭ ⑨で行なった「国際キャリア開発基礎」「国際実務英語Ⅰ」の報告に対する、「国際キャリア教育会議」構成員の多方面にわたる意見によって、⑩で行なう「国際キャリア開発特論」や次年度以降の開講科目への改善に活かし学生教育の充実を図る。

⑮ 「国際キャリア開発特論」の開講に先立って、「国際キャリア開発基礎」「国際実務英語Ⅰ」「国際キャリア実習Ⅰ」と相乗効果のある講演会を行なうことにより、「国際キャリア開発特論」の教育効果が高まる。

⑯国際舞台で活躍する講師の指導による少人数のグループ・ディスカッションや高度な専門実務の模擬体験を行なうワークショップを経験することで、受講者は実践的な専門知識と技能を身に付け、キャリア意識がより明確になる。

⑰ ⑩で行なった「国際キャリア開発特論」に対する評価並びに平成22年度本補助事業全体の事業評価と教育評価を行ない改善案を作成することで、学生教育に地域ニーズ等を反映させ、教育改善に役立てる。

⑱ ⑰で行なった「国際キャリア開発特論」に対する評価並びに平成22年度本補助事業全体の事業評価と教育評価の報告に対する、「国際キャリア教育会議」構成員の多方面にわたる意見によって、次年度以降の開講科目への改善に活かし学生教育の充実を図る

⑲ 一年間の事業及び教育活動を受講生及び地域の観点から総括することにより、平成23年度以降のカリキュラムの改善策をまとめる。

⑳ ⑰で行なった事業評価と教育評価を含む平成22年度総合報告書を審議、決定する。平成22年度総合報告書の刊行と配布により、本プログラムの成果を受講生が認知し、受講生のキャリア意識が高まる。また、受講生及び地域の観点から総括された改善策が平成23年度以降のカリキュラムに反映される。

(2) 予算案

「平成22年度調書」に記した平成22年度の補助事業経費の総額は38,000千円であり、その内訳は、補助金(申請予定額)38,000千円、自己収入その他0千円である。

補助金(申請予定額38,000千円の費目別内訳は、旅費5,476千円、人件費28,373千円、事業推進費4,151千円である。

補助金(申請予定額)38,000千円の大学別内訳は、宇都宮大学20,311千円、作新学院大学9,130千円、白鷗大学8,559千円である。

1-3 平成 23 年度事業案

(1) 事業案

「平成 23 年度調書」に示した事業の概要は次の通りである。

本補助事業の目標である、地域の為の国際的人材養成を達成するために「国際キャリア開発基礎」「国際キャリア開発特論」「国際実務英語Ⅰ」「国際実務英語Ⅱ」の実行委員会を設置し、芳賀町・芳賀青年の家、とちぎ海浜自然の家などを会場として、二泊三日あるいは三泊四日の日程で夏期と冬期に順次開講する。「国際キャリア実習Ⅰ」「国際キャリア実習Ⅱ」については、協定を締結した企業・公的機関・NPO/NGOの中から学生が実習先を選択して、随時実施する。「国際キャリア実習Ⅱ」については、初の海外インターンシップであるため、実習先によっては特任教員等による臨地指導を行う。本年度はこれら 6 科目がすべて開講されるが、本プログラムの成果や課題を総括し、総合報告書をまとめる。

「平成 23 年度調書」に示した事業項目は、次の 14 項目からなる。

- ① 平成 23 年度に本取組は完成年度を迎える。「国際実務英語Ⅱ」及び「国際キャリア実習Ⅱ」（海外インターンシップ）が開講される。特任教員及び事務職員は継続雇用する。
- ② 「国際キャリア FD 委員会」を開催し、平成 23 年度活動方針案を作成
- ③ 「国際キャリア教育会議」で平成 23 年度活動方針の審議・決定
- ④ 「国際キャリア合宿セミナー実行委員会」を開催
- ⑤ 平成 23 年度プログラムのパンフレット作成、「大学コンソーシアムとちぎ」構成大学、全国の大学への広報と参加依頼
- ⑥ 「国際キャリア実習Ⅱ」に関する海外実習先の確定
- ⑦ 教科書刊行の計画策定
- ⑧ 「国際キャリア開発基礎」「国際キャリア実習Ⅰ」「国際キャリア実習Ⅱ」「国際実務英語Ⅰ」「国際実務英語Ⅱ」を開講。「国際キャリア実習Ⅰ」「国際キャリア実習Ⅱ」は随時開講
- ⑨ 本プログラムの見直し、本プログラムのマニュアル整備に着手
- ⑩ 「国際キャリア開発特論」を開講
- ⑪ 「国際キャリア教育点検・評価委員会」の開催（事業評価、教育評価）
- ⑫ 「平成 23 年度総合報告」を「国際キャリア教育会議」で審議・決定
- ⑬ 教科書の刊行
- ⑭ 総合報告書の作成

「平成 23 年度調書」に示した各事業項目（14 項目）の具体的内容は、次の通りである。

- ① 「国際実務英語Ⅱ」に関しては、4 月から国際協力、国際ビジネス、国際理解の分野で講師の人选を開始し、授業の構成、分科会のテーマなどを決定し、6 月から学生参加者募集を開始する。「国際キャリア実習Ⅱ」に関しては、国際協力、国際ビジネス、国際理解の 3 分野で海外実習先（アジア、アフリカ、北南米、ヨーロッパ 15 カ国における NGO や企業、自治体、教育機関等）との協定締結を順次開始する（平成 22 年度までの特任教員や協力教員等の海外出張により、JTB カナダ（カナダ）や大連中山大酒店（中国）、PRRM、GK、Batis（フィリピン）、LUMANTI、CONCERN、マナブ養護学校（ネパール）など実習先の開拓は概ね終了している）。また、事前研修や実習内容の詳細などを決定し、学生派遣の態勢を整える。
- ② 4 月「国際キャリア FD 委員会」を開催し、特任教員・協力教員が平成 23 年度活動方針案を点検する。
- ③ 5 月「国際キャリア教育会議」で平成 23 年度活動方針を審議・決定する。プログラム運営における重要項目を協力機関の参加により、客観的視点から評価検討、採択する。また、各プログラムの内容に関して助言を受け、プログラム運営に反映する。「国際キャリア実習Ⅰ、Ⅱ」に関しては、引き続き

きインターンシップの新たな受け入れ先を紹介してもらい、「国際キャリア教育会議」委員との連携を強固にする。

④ 5月「国際キャリア合宿セミナー実行委員会」を開催する。この実行委員会は、すでに「国際キャリア合宿セミナー」（「国際キャリア開発基礎」「国際キャリア開発特論」「国際実務英語Ⅰ」「国際実務英語Ⅱ」）に参加した学生を中心に構成し、協力機関・協力教員を加える。学生主体の実行委員会を組織することで、「国際キャリア合宿セミナー」への学生の主体的参加を促し、学生自身の企画運営能力向上を目指す。また、学生実行委員主体の検討を重ねることにより、「国際キャリア合宿セミナー」の企画運営に学生のニーズを反映させる。

⑤ 5月に平成23年度プログラムのパンフレットを作成し、「大学コンソーシアムとちぎ」構成大学や全国の大学への広報と参加依頼を行う。平成22年度までの経験から、広報活動は国際系学部のある大学に限定せず、より多様なバックグラウンドを持つ学生の参加を促す。また、「国際キャリア合宿セミナー」に参加経験のある学生が、直接プログラムを広報する説明会を実施する。

⑥ 5月「国際キャリア実習Ⅱ」における海外インターンシップ先を確定する。インターンシップに同意した実習先とは、順次、同意書を取り交わし、実習実施に向けた具体的な日程・内容の調整を行う。

⑦ 「国際キャリア合宿セミナー」の分科会の内容、各講師のキャリアパス、インターンシップでの留意点等をまとめた教科書刊行を計画し、3月までに刊行する。

⑧ 9月「国際キャリア開発基礎」「国際実務英語Ⅰ」「国際実務英語Ⅱ」を開講する。「国際キャリア実習Ⅰ」「国際キャリア実習Ⅱ」は主に夏・冬の休業期間に行うが、4月からの受講も可能とする。開講実績のある「国際キャリア開発基礎」「国際キャリア実習Ⅰ」「国際実務英語Ⅰ」に関しては、参加者のアンケートや「国際キャリア教育会議」での評価を内容に反映させて、授業内容の一層の向上を図る。「国際キャリア実習Ⅱ」に関しては、参加学生個々の希望を考慮して、アジア、アフリカ、北南米、ヨーロッパのインターンシップ先（NGO、企業、自治体、教育機関等）と派遣時期やインターンシップ内容を順次具体化し実施する。安全管理が必要な地域や更に詳細な調整が必要な実習先に関しては、随時、臨地指導をまじえる。

⑨ 10月に本プログラムの見直しと本プログラムのマニュアル整備に着手する。マニュアルには、プログラム実施により積み重ねてきた継続的な取り組みを可能にするノウハウを分かりやすくまとめる。マニュアル作成では、「国際キャリア合宿セミナー」の講師陣や協力教員・公的機関の助言を得る。

⑩ 1月に「国際キャリア開発特論」を開講する。国際分野の実務者を講師として招く分科会では、キャリア向上に必須の問題解決、ロジカル・シンキング、プレゼンテーションの能力向上を目指す。また、運営の権限をこれまで以上に学生に移譲する。

⑪ 2月「国際キャリア教育点検・評価委員会」を開催し、事業評価及び教育評価を実施する。これにより、本プログラムの学生へのインパクトなど、「国際キャリア開発プログラム」の成果を検証し、次年度以降の運営に活かす。

⑫ 3月に「平成23年度総合報告（案）」を「国際キャリア教育会議」で審議・決定する。

⑬ 平成22年度までの「国際キャリア開発プログラム」の内容や実績をもとに、国際キャリア教育の指針となる教科書を作成する。

⑭ 平成23年度に実施した「国際キャリア合宿セミナー」、国内外インターンシップ、講演会、研修会、ミニ合宿、教科書編纂等の実績を総合報告書にまとめる。

「平成23年度調書」に示した各事業項目（14項目）の具体的な学生教育の効果は、次の通りである。

① 「国際実務英語Ⅱ」に関しては、理論だけでなく現場での経験談ができる国際3分野の第一線で活躍する人材を講師陣に迎える。それにより、学生は実用的な英語コミュニケーション能力や国際的課題解決能力の向上を図ることができる。「国際キャリア実習Ⅱ」に関しては、実習先と実習生とのマッチングを図ることにより、学生の国際的視野を高めるとともに、実務体験を積むことで自己の適性を知ることができる。

- ② 4月「国際キャリアFD委員会」の実施に先立ち、学生実行委員会にも平成23年度活動方針案の検討を依頼する。これにより、学生のニーズを汲み上げ企画に反映することで、本プログラムの教育内容が改善される。(学生実行委員は自らファシリテータを引き受けるなど、積極的で意識の高い者が多く、本プログラムの内容を熟知し提案能力がある。)
- ③ 5月の「国際キャリア教育会議」では、平成23年度の合宿セミナーの内容を審議し改善点を提案する。これにより、今年度初めて開催される「国際実務英語Ⅱ」や「国際キャリア実習Ⅱ」では、より学生の能力やニーズにあったプログラムを提供できる。訪問国の情報を収集せず海外に行く学生が多数いるため、「国際キャリア開発基礎」ではJICAの協力で海外安全管理教育を実施する。これにより、学生の海外安全管理能力が高まり、「国際キャリア実習Ⅱ」の履修が容易となる。
- ④ 学生主体の「国際キャリア合宿セミナー実行委員会」を組織し、協力機関・協力教員の指導を受けて運営する。「国際キャリア合宿セミナー」の企画運営に係わる学生の中から、毎年優秀なファシリテータが養成される。学生参加による学生ニーズの反映とファシリテータ養成により、「国際キャリア合宿セミナー」の内容が充実し、国際キャリア形成への参加者のモチベーションが高まる。
- ⑤ 国際キャリアに固い、かつ遠いイメージを抱く学生がいることが過去の経験から確認されたので、多様で柔軟な広報活動でこうした偏見を解消する。こうした広報努力で、国際系学部のみならず医学、教育、政治経済学などの多様な学生が参加しやすくなり、学生は、グローバル時代の現在、どの学問分野でも国際キャリア形成の視点が必要であることを学ぶ。
- ⑥ 3大学の特色を生かした海外実習先の開拓により、学生は多様な組織・機関の中から実習先を選択できる。実習先の国の政情や治安は大変流動的な場合もあるため、最新情報の提供で、参加する学生はより安全に履修できる。また、個々の学生の要望を踏まえた実習先との具体的調整により、学生は自己のニーズや関心に合った実習を経験できる。
- ⑦ 「国際キャリア合宿セミナー」の分科会の内容や各講師のキャリアパス、インターンシップの心得等をまとめた教科書の刊行により、学生は自己のキャリア形成を考える参考にできる。全国の学生も国際キャリア教育の概念、内容、指針を学ぶことができる。
- ⑧ 「国際キャリア実習Ⅰ」と「国際キャリア実習Ⅱ」は休業期間のみに行う計画であったが、平成23年度は4月から通年開講する。学生は、自己のニーズや都合に合わせて、休業期間に実施したり、前期あるいは後期に週数回インターンシップを実施することもできる。「国際キャリア実習Ⅱ」では、実習先によっては、臨地指導を受けることが出来るため、履修が容易になる。
- ⑨ マニュアルは学生実行委員会と調整しながら作成する。マニュアル作成によって、学生は、「国際キャリア合宿セミナー」の企画・調整・運営のノウハウを先輩から学ぶ。
- ⑩ 「国際キャリア開発特論」は、他の大学行事などの日程上の都合から2泊3日に短縮して1月に開催する。「国際キャリア合宿セミナー実行委員会」では、企画運営の権限をこれまで以上に学生に移譲する。権限の委譲とマニュアル作成により、「国際キャリア合宿セミナー」の企画運営に学生の要望が反映される。
- ⑪ 外部からの客観的評価と「国際キャリア教育点検・評価委員会」への学生実行委員の参加により、事業の教育効果が学生および地域の視点からより明確になる。これにより、学生は、次年度以降、より教育効果の高いプログラムを受講できる。
- ⑫ 本プログラムの最終年度であるために、3年間の総合的な成果を発表する一般公開セミナーを開催する。これにより、「国際キャリア合宿セミナー」の参加学生は自己のキャリア形成の状況を点検し、一般学生は国際キャリア教育の概念・内容・指針を学ぶことで国際キャリア教育の意義を認識する。
- ⑬ これまで教育効果の観点から、学生の複数の分科会出席は認めてこなかった。しかし、「国際キャリア合宿セミナー」参加者の感想文を見ると、複数の分科会への出席を希望する意見が多い。「国際キャリア合宿セミナー」で、これまでに講師から集めた資料類をまとめて教科書を刊行す

ることにより、学生は、参加できなかった分科会の内容と講師のキャリアパスを学ぶことができる。

⑭ 一年間の事業及び教育活動を、受講生や学生実行委員、地域の観点から総括することにより、平成 24 年度以降のカリキュラム改善に反映できる。

(2) 予算案

「平成 23 年度調書」に記した平成 23 年度の補助事業経費の総額は 36,285 千円であり、その内訳は、補助金 36,285 千円、自己収入その他 0 千円である。

補助金 36,285 千円の費目別内訳は、旅費 3,169 千円、人件費 28,971 千円、事業推進費 4,145 千円である。

補助金 36,285 千円の大学別内訳は、宇都宮大学 20,463 千円、作新学院大学 8,395 千円、白鷗大学 7,427 千円である。

2. 事業の実施

平成 21 年度総合報告書に示された、渡邊直樹 宇都宮大学理事・副学長の巻頭言「国際キャリア開発プログラムの開講にあたって」は、つぎの通りである。

文科省平成 21 年度大学教育改革推進プログラムに選定された「地域の大学連携による国際キャリア開発プログラム」の取組も今年で 3 年目、完成年度を迎えます。今回は 100 名近くの学生の方々に参加されるとのこと、その成果が大いに期待されることです。国際社会で活動できるキャリアとは何か。それを身につけるためにはいかなる学修と訓練が必要か。国際社会に山積する課題とは何か。また、議論を通して国際社会といかにコミュニケーションしていくか。いかに適切に自己の考えをアピールするか。現在、こうしたキャリアを身につけたグローバル人材の必要は喫緊の課題となっているところです。この国際キャリア開発はその先端を行く取組です。いわゆる自己の人生設計や自己の能力開発の方法・技術というような、就職活動のためのキャリア創造ではありません。グローバルな事業活動に妥当する実際的かつ重要な能力、キャリアの修得、キャリアパスがこの取組の目的なのです。この意味で、現在、国際社会あるいは国際的分野で活動されている多彩なの方々をお迎えして、講義をお願いし、そのキャリアを教授していただくものです。普段、大学における授業は国際学の基本部分、理論を構成するとすれば、キャリア開発はその実践と応用ということができます。

この取組は何よりも学生の皆さんに国際キャリアパスへの案内とその実践・応用を修得していただくものであり、多様なプログラムが用意されているのもそのためです。皆さんが主役です。皆さんは、講義やワークショップに対しては受け身ではなく批判的姿勢において自己主張の方法・論理的思考力を磨いていただきたい。それが、グローバルな活動へのキャリアパスの第一歩となるものです。

このキャリアを修得する上で大切なことは、現地において直接活動体験を積むことであり、それは、本取組では国内外での「国際キャリア実習」、つまり「インターンシップ」という形において実施されております。さらに合宿による「国際実務英語」の授業にも是非ご参加いただき、国際キャリアパスに必須の英語力とは何かを、同じく国際社会でご活躍中の講師の方々から直接学んでいただきたい。そして、この国際キャリア開発プログラムを受講された皆さんには将来是非国際社会でご活躍いただき、再びこうしたセミナーで皆さんの体験を語ることで、後輩へのよきメッセージをお伝えいただきたい。

最後になりましたが、この企画を連携して推進している白鷗大学、作新学院大学、またご協力いただいている国際医療福祉大学、その他 J I C A、栃木県を初めとする関係機関の方々、国際交流団体に衷心より御礼申し上げます。

2-1 国際キャリア合宿セミナー

(1) 国際キャリア開発基礎

今年度で第8回目を迎える国際キャリア合宿セミナーは、国際協力や国際交流に関心を持ち、国際機関や国際交流団体、あるいは世界を舞台に活動するNGOや企業などで活躍したいと考える若者たちに、そうした仕事に関する正しい知識と、そこで求められる能力、そこにいたる具体的な道筋（キャリア形成）について学ぶ機会を提供してきた。

本年度は、平成21年度文部科学省「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」に採択された最終年度であり、これまでの成功を土台に、栃木県・JICA等からの引き継ぎの支援に加え、作新学院大学・白鷗大学・国際医療福祉大学からの組織的な協力を得て、宇都宮大学の学生をはじめ、広く栃木県内外の学生・青年、社会人の参加を得た。

国際キャリア合宿セミナー（「国際キャリア開発基礎」）の運営は、宇都宮大学が中心となって行った。

セミナー初日は、参加型方式で質問力の重要性を通じて自己のキャリア形成について振り返ってもらい、学生リーダー自身の人生を紙芝居を通して参加者に共有してもらった。2日目は、東日本大震災の教訓も含めて、災害緊急援助に関するワークショップを行った。2日目と3日目は、テーマ別の分科会に分かれ、各分野の仕事の内容や抱える課題について学び、話し合いを行った。4日目は、各分科会での学びの成果とアクションプランを発表した。セミナーの概要は、次の通りである。

・開催スケジュール

1日目(9月2日 金曜日)

時間	プログラム内容		
11:30 12:10	開講式・オリエンテーション (挨拶、プログラム説明)	13:30 17:30	ワークショップ「クリティカル・シンキング～「開かれた心」で「問い」を持つ～」
12:10 12:40	講義「レポートの書き方・プレゼン方法」	18:00 19:00	夕食
12:40 13:30	昼食	19:00 20:00	学生トークライブ・アンケート配布

2日目(9月3日 土曜日)

時間	プログラム内容		
8:30 10:00	ワークショップ「防災マネジメント」	13:30 15:30	講師と参加者間のフリートーク ファシリテーター打合せ
10:10 12:30	各分科会の講師による自己紹介と分科会の 内容紹介(12分+質疑応答3分)	15:30 18:30	分科会・アンケート配布
12:30 13:25	昼食	18:30 21:00	夕食(BBQ) 交流会(キャンプファイヤー)

3日目(9月4日 日曜日)

時間	プログラム内容		
9:00 12:00	分科会	16:00 17:30	中間発表
12:00 13:00	昼食・記念撮影	17:30 18:30	夕食
13:00 16:00	分科会発表準備	18:30 20:00	分科会発表準備・アンケート配布

4日目(9月5日 月曜日)

時間	プログラム内容		
9:00 12:30	各分科会による全体発表	13:30 14:30	総括と意見交換
12:30 13:25	昼食	14:30 15:15	振り返り・閉講式・アンケート回収 (閉講の挨拶、証書の授与)

・講義及び講師、分科会

	講義・分科会	参加講師	ファシリテーター
A	外国人にとって魅力的な日本の観光資源をさぐる	大野 邦雄(作新学院大学経営学部 特任教授) 中島 洋行(作新学院大学経営学部 准教授)	佐藤 志保里 佐藤 公紀
B	社会に貢献する企業をおこす	木原 麻里 (株式会社 H-D Project 代表取締役)	今野 善伸
C	災害・紛争における自立支援を考える	木山 啓子 (特定非営利活動法人ジェン理事・事務局長)	片岡 千佳
D	住宅デザインから生活文化を考える	ウスビ サコ (京都精華大学 人文学部 准教授)	岡本 志穂
E	世界を舞台にビジネスチャンスを広げよう	佐々木 敏行 (株式会社 FAR EAST 代表取締役)	山本 健大朗 佐々木 慎太郎 佐川 想
F	小形風車とソーラークッカーで世界を救え！	中條 祐一 (足利工業大学工学部 自然エネルギー・環境学系教授) 西沢 良史 (足利工業大学工学部 自然エネルギー・環境学系助教)	千葉 詩織
G	国際ボランティアとしてコミュニティーで働く	福田 わかな (白鷗大学 特任講師)	兼城 凜子 高塚 大揮 飯田 真梨子 渡辺 貴大
H	夢のある映画をつくろう	益子 昌一 (映画監督)	菊地 裕美香 逸見 栞 今 咲乃 和田 隆

・参加者内訳(合計 97 名:女性 71 名、男性 26 名)

宇都宮大学	29 名	大東文化大学	1 名	法政大学	1 名
作新学院大学	4 名	龍谷大学	1 名	成蹊大学	1 名
白鷗大学	40 名	九州国際大学	1 名	岩手県立大学	1 名
共愛学園前橋国際大学	3 名	東京理科大学	1 名	高校生	1 名
愛知淑徳大学	2 名	静岡県立大学	1 名	その他	1 名
山口県立大学	2 名	島根大学	1 名	社会人	1 名
東洋大学	2 名	下関市立大学	1 名		
獨協大学	1 名	桜の聖母短期大学	1 名	合計	97 名

・学年別参加者内訳

学年		学年	
1年	28 名	3年	32 名
2年	30 名	4年	4 名
その他	3 名	計	97 名

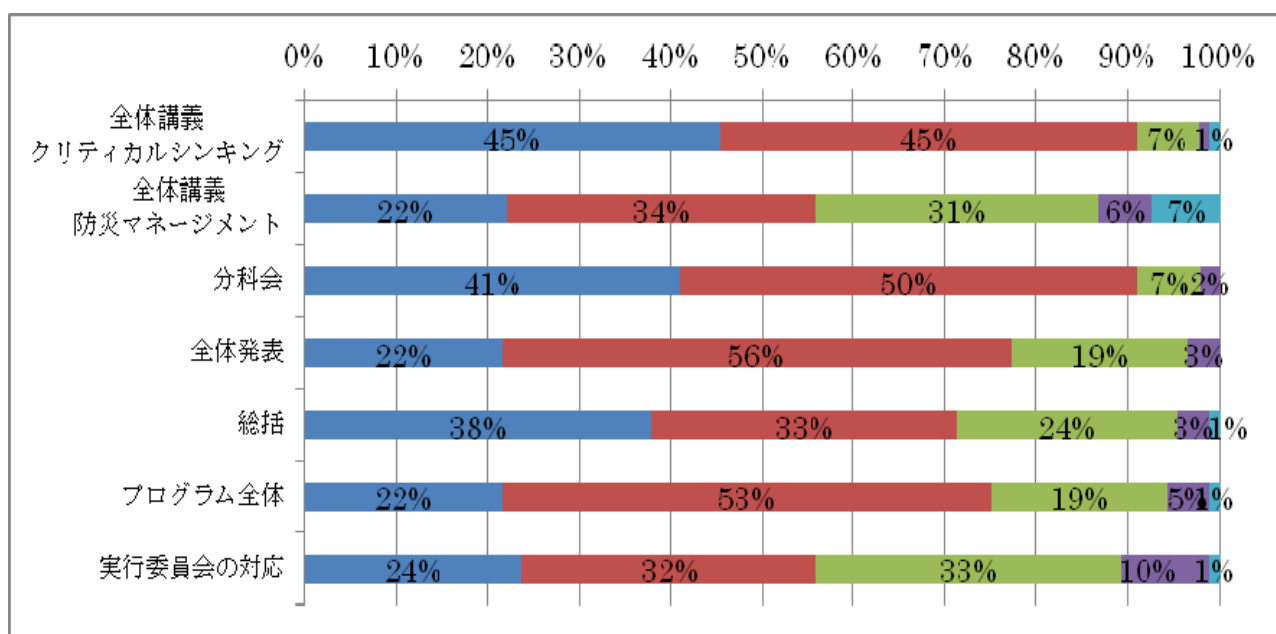
・参加者の感想

国際と一口で言っても、ビジネスなどの経営の立場や建築、科学といった多種多様な分野からのアプローチがあることを知った。それまで、私は国際ボランティアや災害支援など直接現地の人たちとかかわりのあるような仕事をイメージをしていた。各分科会の発表を聞いて、考えが変わった。(宇都宮大学1年生 女性)

・参加者アンケートの結果

国際キャリア合宿セミナーの参加者に対して、最終日にアンケート調査を行った。参加者97名のうち、有効回答数は84名(有効回答率86%)であった。

アンケートの自由記述では、「普段真剣に考えることのないクリティカルシンキングや専門知識を学び、今後の教育やキャリア形成に役立った」「議論を通して自分を振り返り意欲が高まった」など積極的な意見が見られた。



■ 大変満足 ■ 満足 ■ 普通 ■ あまり満足しなかった ■ 全く満足しなかった ■ 不参加、未回答

(2) 国際キャリア開発特論

「国際キャリア開発特論」は、9月に開催した「国際キャリア開発基礎」の発展として、第一線で活躍する講師を招き、国際的な分野で仕事をするための問題解決能力向上に向けた演習を通して高度な専門知識や技能、仕事への姿勢を学び、国際キャリアの具体化を目指すことを目的としている。

平成22年度の「国際キャリア開発特論」は、学生同士の議論や交流を深めたいという学生側からの強い要望があったため、3泊4日とした。平成23年度は、時間的に不可能であったために2泊3日とした。従来の合宿セミナーでは、事前に各分科会のファシリテーターを募っていたが、本セミナーでは当日各分科会の参加者の間でファシリテーターを選んだ。

「国際キャリア開発特論」の初日は、自分のキャリアについて固定観念にとらわれず自由に発想する(クリエイティブ・シンキング)場を設けた。1日目の夕方と2日目のテーマ別の分科会では、各分野が抱える問題について議論した。2日目の各分科会による中間発表後、学生や教員からの意見をもとに、発表内容に改善が加えられた。3日目の最終日には、それぞれの分科会で、学びの成果と社会への提案などが発表された。

セミナーの概要は次の通りである。

・開催スケジュール

1日目(1月7日 Sat)

時間	プログラム内容	時間	プログラム内容
9:15 9:30	開講式・オリエンテーション (挨拶、プログラム説明)	14:40 15:25	講師と参加者間とのフリートーク
9:30 12:00	ワークショップ「固定観念に捕われず自分のキャリアをみつめよう！」	15:40 17:00	芳賀青年の家へ移動 チェックイン・分科会発表
12:00 13:00	昼食	17:30 18:30	分科会
13:00 14:30	各分科会講師の自己紹介・分科会の説明	18:30 21:00	夕食、交流会

2日目(1月8日 Sun)

時間	プログラム内容	時間	プログラム内容
9:00 12:00	分科会	15:30 17:30	各分科会で発表準備
12:00 12:45	昼食	17:30 18:30	中間発表
12:45 13:15	分科会発表のためのプレゼン方法の説明・記念写真	18:30 19:30	夕食
13:15 15:15	分科会	19:30 22:30	発表準備・自由・入浴

3日目(1月9日 Mon)

時間	プログラム内容	時間	プログラム内容
8:50 9:50	各分科会で発表準備	13:40 15:00	キャリアデザインに関する意見交換(別の分科会の人と)
10:00 12:30	各分科会による全体発表	15:10 15:30	講師や教員からの講評
12:30 13:40	昼食 振り返り(分科会毎)	15:30 15:40	閉講式(修了書授与)

・ 講義及び講師、分科会

	講義・分科会	参加講師
A	途上国のコミュニティ開発に日本の経験を活かす	太田 美帆 (玉川大学 文学部 比較文化学科 助教)
B	アフリカの紛争とメディアの役割	大津 司郎 (フリージャーナリスト)
C	途上国の貧困層を救うBOPビジネス	小田 兼利 (日本ポリグル株式会社 代表取締役会長)
D	日系ブラジル人とその児童が地域で直面する教育課題	小貫 大輔 (東海大学教養学部国際学科准教授)
E	クリーンエネルギービジネスと起業モデルの構築	ケンジ ステファン スズキ (『風のがっこう』(再生可能エネルギー研修センター) 代表)
F	食文化を尊重した輸出入ビジネス	塚越 将童 (株式会社東京フード 取締役部長)
G	開発と人権	米川 正子 (宇都宮大学 国際学部 特任准教授)

・ 参加者内訳 (合計 54 名、男性 21 名、女性 33 名)

宇都宮大学	12 名	玉川大学	1 名	中央大学	1 名
白鷗大学	9 名	茨城大学	1 名	島根県立大学	1 名
作新学院大学	2 名	三重大学	1 名	北九州市立大学	1 名
大東文化大学	7 名	成蹊大学	1 名	琉球大学	1 名
共愛学園前橋国際大学	7 名	摂南大学	1 名	ブラッドフォード大学	1 名
創価大学	2 名	早稲田大学	1 名	社会人	2 名
静岡県立大学	1 名	東京都立国際高校	1 名	合計	54 名

・ 学年別参加者内訳

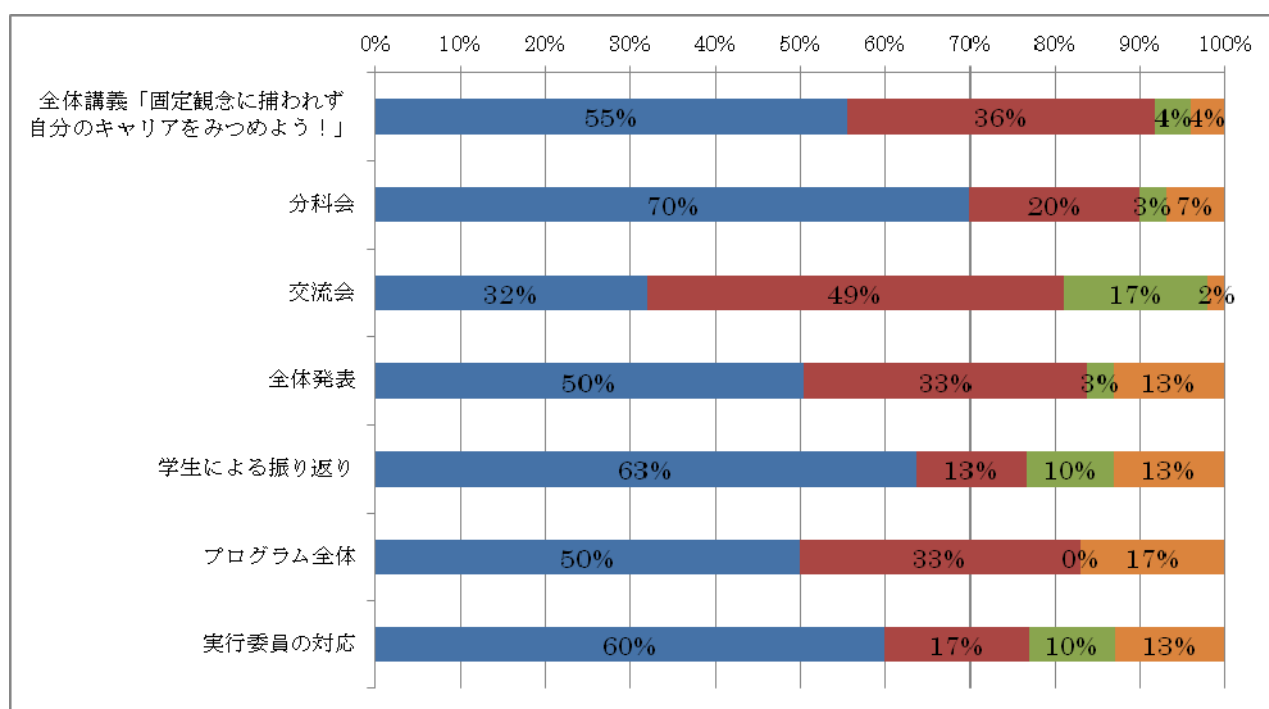
学年		学年	
1年	19 名	3年	11 名
2年	13 名	4年	4 名
		その他	7 名
		合計	54 名

・参加者の感想

本セミナーを通して自分の関心ごとに対してより具体的なビジョンを持つことができた。さらに、今回のセミナーで、批判的な意見を恐れずに言うことの重要性を再認識できたと思う。これまで自分の中で疑問や納得できないことがあっても、多くの場合、自己解決してしまうことが多かった。本セミナーでは積極的に思ったことを口にし、他人と共通認識することで、疑問点を明確化したり、問題の改善に役立つ可能性があることが確認できた。(宇都宮大学1年生 男性)

・参加者アンケートの結果

「国際キャリア開発特論」の参加者に対して、最終日(3日目)にアンケート調査を行った。参加者54名のうち、有効回答数は35名(有効回答率65%)であった。また、アンケートの自由記述では、「専門知識を学ぶとともに、議論をすることでより知識を深めることができ意欲が高まった」「2泊3日という期間が短く、特に分科会以外の参加者や講師との意見交換の時間が欲しい」という意見が多かった。



■ 大変満足 ■ 満足 ■ 普通 ■ あまり満足しなかった ■ 全く満足しなかった ■ 不参加、未回答

(3) 国際実務英語 I

「国際実務英語 I」は、国際社会で活躍するために、さまざまなキャリアや専門分野を英語で学ぶ科目である。国際的な舞台では、英語などの外国語をツールとして様々な背景を持つ人々と関係を築きながら仕事をしていく必要がある。「国際実務英語 I」では、「英語を」学ぶのではなく、「英語で」国際分野の知識を学びながら、国際人として不可欠なコミュニケーション能力を高めることを目的としている。プログラムの進行や授業、議論、グループ発表等は英語で行われた。本合宿セミナーには大学生や社会人、合計 43 名が参加した。

「国際実務英語 I」の 1 日目は、議論やプレゼンテーションに役立つ英語表現の演習をワークショップ形式で行った後、各界の第一線で活躍されている講師が体験に基づいて、それぞれのキャリアパスや仕事について英語でプレゼンテーションを行った。その後のフリートークでは、参加者が関心のある講師を囲んでキャリアや仕事について自由に質疑応答を交わした。2 日目は、テーマ別分科会に分かれ、各講師がそれぞれのテーマや仕事の背景や実状、やりがいと課題、求められる資質・能力、専門知識等について、学生と話し合った。また、最終日のグループ発表に向けた中間発表とそれへの教員の指導により、英語でのプレゼンテーション能力向上を目指した。3 日目の最終日は、参加者による英語でのプレゼンテーションによって、学びの成果やアクションプランが発表された。

参加者の英語能力のバラツキを補正する目的で、セミナー開催に先立つ時期に、参考文献や専門用語のリストが提供され、参加者の事前学習を支援した。セミナーの概要は次の通りである。

・開催スケジュール

1 日目 (9 月 23 日)

時間	プログラム内容	時間	プログラム内容
9:15 9:35	開講式・オリエンテーション	14:10 15:10	分科会講師によるキャリアと分科会概要の講義(各 15 分)
9:35 9:50	分科会グループ発表の説明	15:20 15:50	分科会講師とのフリートーク
9:50 10:20	アイスブレイク	16:00 18:00	昭和ふるさと村へバスで移動
10:30 12:00	全体講義: Useful expressions in group discussions and presentations	18:00 18:30	分科会メンバー発表
12:00 13:00	昼食	18:30 19:00	講師・ファシリテーター打合せ
13:00 14:00	全体講義 続き	19:00 21:00	夕食・交流会

2 日目 (9 月 24 日)

時間	プログラム内容	時間	プログラム内容
7:30 8:30	朝食	14:30 17:30	発表準備
8:30 12:00	分科会	17:30 18:30	夕食
12:00 13:00	昼食、集合写真	18:30 19:30	中間発表
13:00 14:30	分科会	19:30 22:30	発表準備・自由

3 日目 (9 月 25 日)

時間	プログラム内容	時間	プログラム内容
8:30 9:30	発表準備	12:20 12:35	講師や教員からの講評
9:30 10:30	分科会グループ発表 実務英語 I	12:35 13:35	昼食
10:30 10:45	講師や教員からの講評	13:35 14:45	学生による振り返り 全体総括
11:00 12:20	分科会グループ発表 実務英語 II	14:45 14:55	閉講式(修了証授与)

・講義及び講師、分科会

	講義・分科会	講師
A	アートを使った紛争解決 ～個人間から国家レベルまで Using art to resolve conflict - from individuals to state level	アズビー・ブラウン Azby Brown 金沢工業大学 未来デザイン研究所所長
B	ツーリズムとグローバルビジネスにおける 異文化コミュニケーション Cross-cultural communication in tourism and global business	高宮暖子 Atsuko Takamiya Band Pro Film and Digital 社 日本市場担当
C	国際援助～紛争被害者の社会復帰支援 International aid : Support for reintegrating victims of conflict	トシャ・マギー Tosha Maggy NPO 法人テラ・ルネッサンス コンゴ事業担当
D	食と農業から私たちの暮らしを考える Reviewing our life through food and agriculture	ベルナルド・ティモシー・アパウ Bernard Timothy Appau 学校法人アジア学院 講師、宣教師

・参加者内訳(合計 43 名、女性 33 名、男性 10 名)

宇都宮大学	15 名	成蹊大学	1 名	広島大学	1 名
白鷗大学	16 名	獨協大学	1 名	立命館大学	1 名
足利工業大学	1 名	日本大学	4 名	社会人	1 名
島根県立大学	1 名	日本女子大学	1 名		

・学年別参加者内訳

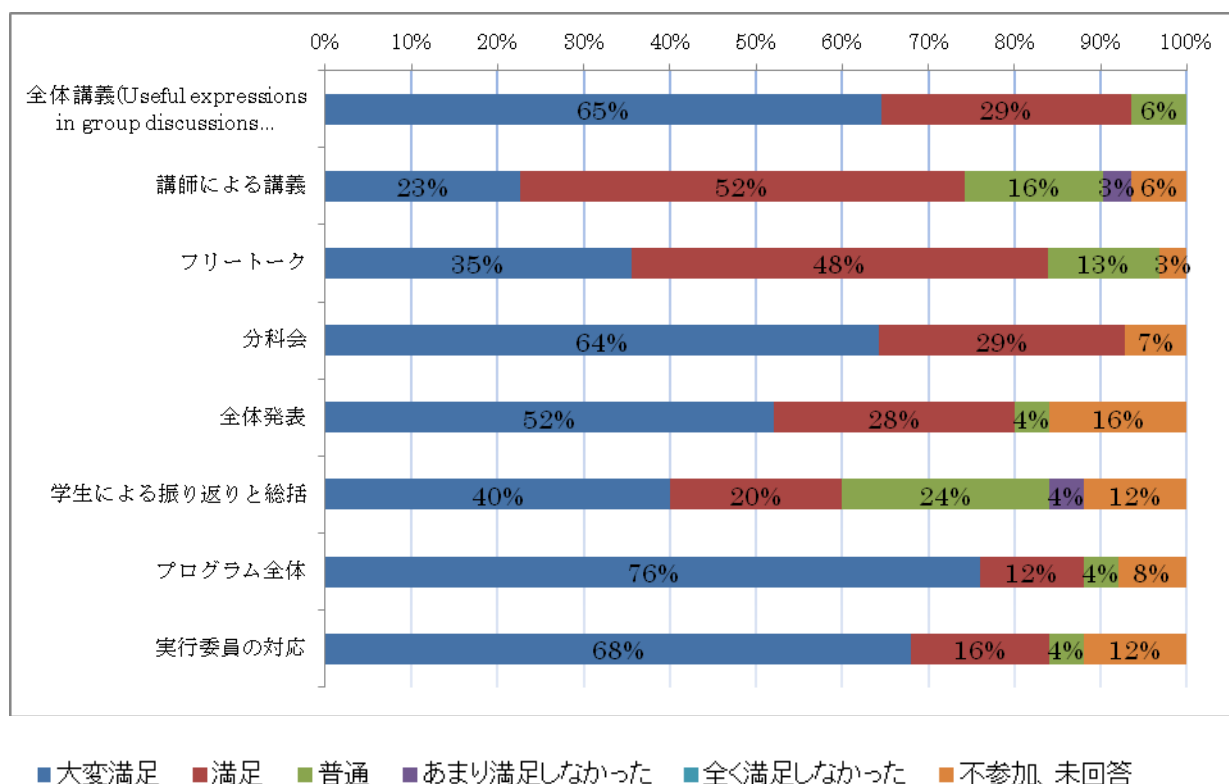
学年	人数
1 年生	16 名
2 年生	11 名
3 年生	12 名
4 年生	3 名
一般、その他	1 名
計	43 名

・参加者の感想

I learned that the most important thing is to be positive and enthusiastic about speaking English. It is difficult to say everything we want to tell to people, but if we are positive and enthusiastic, people will understand what we want to say. I also learned that it is important to hear the other person's opinion. I met many people in this camp. They had various opinions and I learned about different ideas from them. It is important to say our own ideas, but it is also important to hear other people. I learned a lot of things through this seminar and I would like to use this experience to advantage. (白鷗大学 2年)

・参加者アンケートの結果

本セミナーの参加者に対して3日間それぞれアンケート調査を行った。参加者43名のうち、有効回答数の平均は23名（平均有効回答率53%）であった。プログラム全体の評価に対し、90%近い回答者が「大変満足」または「満足」と答えている。特に「議論とプレゼンテーションに役立つ英語表現」の演習や分科会への満足度は高く、ともに「大変満足」または「満足」と回答した人が90%を超えた。実務経験豊かな講師による参加型授業は、参加者と講師及び参加者同士の交流を深め、楽しみながら英語でのコミュニケーションを図り、各分野の知識を深める機会となったことがうかがえる。



(4) 国際実務英語Ⅱ

「国際実務英語Ⅱ」は、平成23年度新規科目として「国際実務英語Ⅰ」と同時開催された。「国際実務英語Ⅱ」の目的は、国際舞台で即戦力として活躍するためのより実践的な英語運用能力、各分野の専門知識の習得及び問題解決能力の向上である。全国から大学生と社会人31名が参加し、様々な背景を持つ参加者が英語で学び、議論を重ね、交流する場となった。「国際実務英語Ⅰ」と同様、日常の使用言語は英語とし、プログラムの進行や授業、議論、グループ発表等が行われた。

1日目は、「問題解決スキル」をテーマとした全体講義および各分科会講師によるキャリアパスや分科会のテーマについての講義が行われた。その後のフリートークでは、参加者が関心のある講師を囲んでキャリアや仕事について自由に質疑応答を交わした。2日目は、テーマ別分科会に分かれ、各講師が、仕事やテーマの背景や実状、課題を話し、課題解決にむけてグループで議論を重ねた。その後、最終日のグループ発表に向けて、参加者が主体となり各分科会で学んだことや提言・アクションプランをまとめた。中間発表では、他の分科会参加者や講師から意見やコメントをもらい、プレゼンテーション力の向上を目指した。3日目の最終日には、分科会での学びの成果と社会への提言・アクションプランを分科会毎にグループで発表した。参加者の英語能力の違いを補い、分科会における理解や活発な議論を促すため、「国際実務英語Ⅱ」の開講に先立つ時期に参考文献や専門用語のリストが提供され、事前学習をサポートした。セミナーの概要は次の通りである。

・開催スケジュール

1日目(9月23日)

時間	プログラム内容	時間	プログラム内容
9:15 9:35	開講式・オリエンテーション	14:10 15:10	分科会講師によるキャリアと分科会概要の講義(各15分)
9:35 9:50	分科会グループ発表の説明	15:20 15:50	分科会講師とのフリートーク
9:50 10:20	アイスブレイク	16:00 18:00	昭和ふるさと村へバスで移動
10:30 12:00	全体講義: Learning about problem solving skills	18:00 18:30	分科会メンバー発表
12:00 13:00	昼食	18:30 19:00	講師・ファシリテーター打合せ
13:00 14:00	全体講義 続き	19:00 21:00	夕食・交流会

2日目(9月24日)

時間	プログラム内容	時間	プログラム内容
7:30 8:30	朝食	14:30 17:30	発表準備
8:30 12:00	分科会	17:30 18:30	夕食
12:00 13:00	昼食、集合写真	18:30 19:30	中間発表
13:00 14:30	分科会	19:30 22:30	発表準備・自由

3日目(9月25日)

時間	プログラム内容	時間	プログラム内容
8:30 9:30	発表準備	12:20 12:35	講師や教員からの講評
9:30 10:30	分科会グループ発表 実務英語Ⅰ	12:35 13:35	昼食
10:30 10:45	講師や教員からの講評	13:35 14:45	学生による振り返り 全体総括
11:00 12:20	分科会グループ発表 実務英語Ⅱ	14:45 14:55	閉講式(修了証授与)

・ 講義及び講師、分科会

	分科会	講師	ファシリテーター
A	環境先進国デンマークに学ぶ クリーンエネルギー政策 Clean energy policy: Learning from Denmark, environmentally- advanced country	ケンジ・ステファン・スズキ Kenji Stefan Suzuki 「風のがっこう」代表	Manabu Takahashi Hiroshi Seki
B	日本と欧米のビジネス文化の違い Differences in Japanese and Western business culture	ジェフリー・C. ミラー Jeffery C. Miller 白鷗大学 教育学部教授、国際交流 センター長	
C	開発と人権 Development and human rights	米川正子 Masako Yonekawa 宇都宮大学 国際学部特任准教授	Katsuaki Takahashi Yuka Nakakita
D	アフリカの紛争解決と国際司法 Conflict resolution in Africa and international justice	ローランド・アジョビー Roland Adjovi アルカディア大学(タンザニア分校) 教授	

参加者内訳 (合計31名、男性15名、女性16名)

宇都宮大学	6名	東京国際大学	1名	南山大学	1名
共愛学園前橋国際大学	1名	東京薬科大学	1名	早稲田大学	1名
埼玉県立大学	1名	東京理科大学	1名	東京理科大学大学院	1名
静岡県立大学	1名	獨協大学	1名	法政大学大学院	1名
下関市立大学	1名	日本女子大学	1名	横浜国立大学大学院	1名
東京外国語大学	1名	広島大学	1名	その他	9名
合 計					31名

学年別参加者内訳

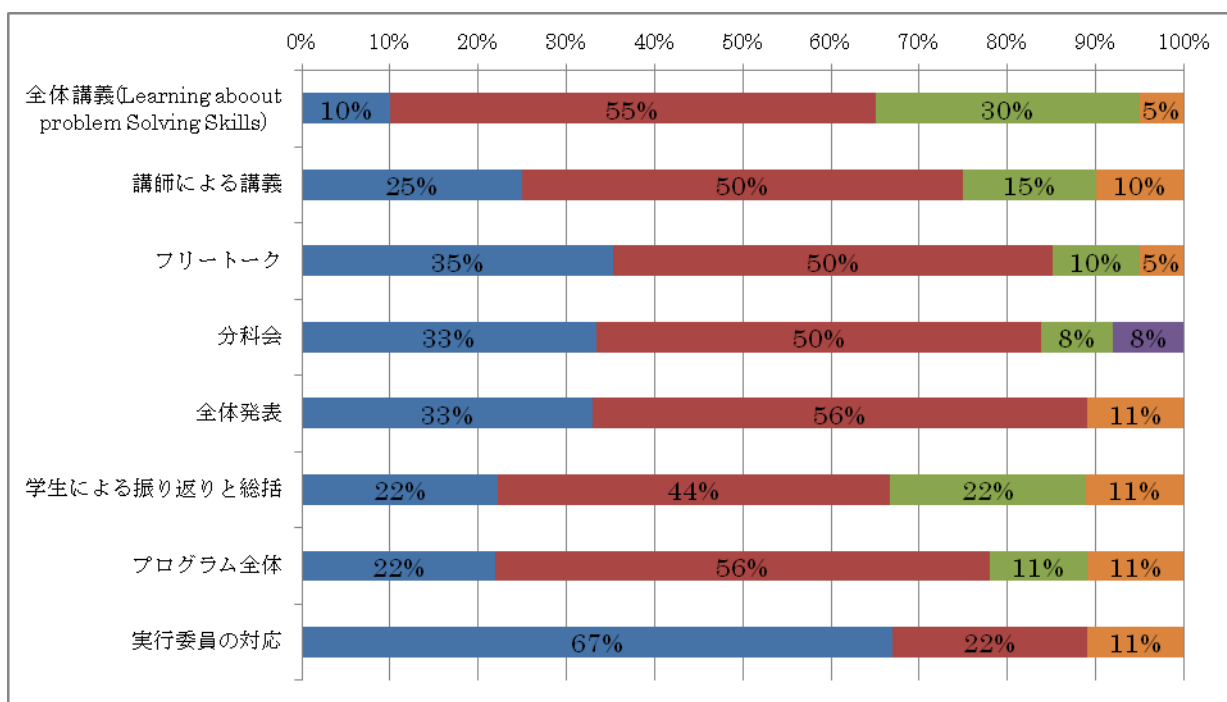
学年	人数	学年	人数
1年生	1名	一般、その他	13名
2年生	3名		
3年生	9名		
4年生	5名	合 計	31名

・ 分科会参加者の感想

- ・ I understood that development and human rights are closely related to each other.
We could discuss many topics in our group workshop. (社会人)
- ・ It was easy to understand because we learned about the cases of famous companies such as Uniqlo, Rakuten and others. It was interesting and refreshing to learn by using videos, too. (日本女子大3年)

・参加者アンケートの結果

本セミナーの参加者に対して3日間それぞれアンケート調査を行った。参加者31名のうち、有効回答数の平均は14名（平均有効回答率45%）であった。プログラム全体への評価は、80%近くの回答者が「大変満足」「満足」としている。



■ 大変満足 ■ 満足 ■ 普通 ■ あまり満足しなかった ■ 全く満足しなかった ■ 不参加、未回答

2-2 国際キャリア実習

(1) 「国際キャリア実習Ⅰ」

国際キャリア実習Ⅰでは、学生が将来国際協力、国際ビジネス・観光まちづくりや国際交流活動などで活躍することを目指し、国内の企業、NGO、公的機関、地方自治体、国際機関などでの実習経験（インターンシップ）を積むことで、各分野への理解を深めると同時に、実務能力を高めることを目的とする。

履修対象者は宇都宮大学、作新学院大学、白鷗大学の3大学生に限られ、これは受入先が海外の実習Ⅱも同様である。

開講時期は春・夏の長期休暇など随時で、実習時間 80 時間以上の条件を満たせば大学コンソーシアムとちぎの公開講座として2単位が付与される。

平成 23 年度の実習実績としては 16 名、10 か所で、そのうち履修者は11名である。

表1-1には分野別の受入協力先数を、表1-2には実習先と人数実績を、表1-3には実習者内訳を示す。また、表1-4には受入協力先と概要を示す。

「国際キャリア実習Ⅰ」実習先(団体数)

分野	実習先 (団体数)
国際協力	13
国際理解	4
国際ビジネス	3
観光まちづくり	6
複合	2
団体・機関・企業数合計	27

「国際キャリア実習Ⅰ」実績

No.	実習先	場所	人数
1	国際キャリア開発プログラム	栃木県	1名
2	JTB 関東法人営業宇都宮支店	栃木県	3名
3	那須烏山観光協会	栃木県	3名
4	小山市国際交流協会	栃木県	3名
5	いっくら国際文化交流会	栃木県	1名
6	福島乳幼児妊産婦支援プロジェクト	福島県	1名
7	特定非営利活動法人自然塾寺子屋	群馬県	1名
8	十日町市地域おこし実行委員会	新潟県	1名
9	JICA 地球ひろば	東京都	1名
10	特定非営利活動法人 HANDS	東京都	1名
合計			16名

「国際キャリア実習Ⅰ」実習者内訳

宇都宮大学	4名
作新学院大学	4名
白鷗大学	8名
合計	16名

「国際キャリア実習Ⅰ」実習先一覧(国内インターンシップ)

■国際協力分野

No.	受入協力先	場 所	テーマ・活動内容(例)
1	十日町地域おこし委員会 /JEN(ジェン)	新潟県	村おこし、農業、食の安全保障、都市化、高齢化、自然との共生、草刈り、稲刈り、雪かき、盆踊り企画(地域おこしに関する調査や研究も可能)
2	NPO 法人自然塾寺子屋	群馬県	地域活性化、農村開発、農業、青年海外協力隊:1) 地域活性化事業 ① 農家ネットワーク組織と連携した農業活性化イベント(農活プロジェクト)の企画・広報・運営等のコーディネート、事務全般。② 地域ブランドの普及イベントの企画・運営。地域ブランド商品のマーケティング、イベント出店企画・運営の補助等。 2) 青年海外協力隊研修事業① 農村開発研修のサブ・コーディネーターとしてスケジュール管理、研修所の運営、事務等、研修の運営、管理の補助等
3	JICA 青年海外協力隊二本松訓練所	福島県	JICA ボランティアの派遣前訓練支援 青年海外協力隊派遣前訓練の業務補佐、国際協力関連の講義・実習への参加
4	やしの実の会	茨城県	フィリピン、セブ島のスラムにおける教育支援(奨学金プロジェクト等)/小・中学校等での国際理解ワークショップの実施/イベント参加
5	学校法人アジア学院	栃木県	食と農、共生社会、自給自足、農業を通じた国際協力:農場作業、給食作り、食品加工、事務補佐等(インターン希望者のニーズによって調整)
6	宇都宮市清原地区市民センター	栃木県	①清原地区外国人在住者など向けのブログ作成 ②宇都宮市(清原地区市民センター)のホームページ作成 ③清原地区住民へのアンケート結果の分析
7	国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)	東京都	難民に関する宣伝活動、イベント会場マネジメント、その他の職員のアシスト業務
8	JEN(ジェン)	東京都	宣伝活動、イベント会場マネジメント、その他の職員のアシスト業務
9	ヒューマン・ライツ・ウォッチ(HRW)	東京都	外交政策の調査、HRW が発表するニュースリリースの翻訳、イベントサポート、データベース管理など
10	ヒューマン・ライツ・ナウ(HRN)	東京都	人権侵害に苦しむ地域に駆けつけて現地 NGO と協力して事実調査を行い、世界にむけて報告し、人権状況の改善を訴える。平和構築における人権・法の支配の尊重の実現、現地NGOと連携したエンパワーメント型の法整備支援
11	NPO 法人 HANDS	東京都	途上国における保健活動、国内で出来る国際協力活動、NPO の広報活動:海外プロジェクトの業務補佐、広報・マーケティング関連業務、庶務業務等
12	NGO 草の根援助運動	神奈川県	国際協力関連イベント手伝いや広報などの業務補佐等
13	独立行政法人 国際協力機構JICA	国内各事務所	一般業務補助もしくは配属先が設定した特定テーマに関する業務(補助)

■国際理解分野

No.	受入協力先	場 所	テーマ・活動内容（例）
14	公益財団法人 栃木県国際交流協会	栃木県	失職した外国人などを対象とした、再就職に向けての日本語講座での講師の補助、国際理解セミナー・国際交流イベントでの補助、多文化共生の地域づくり事業の補助、これらの広報業務の補助など
15	国際NGOいっくら	栃木県	いっくら主催事業(多文化共生、国際理解、日本語指導など)の企画・立案やアシスタント。その他、国際観光ガイドアシスタント、観光ガイド用資料作成など
16	小山市国際交流協会	栃木県	国際交流、地域の外国人問題を考える:地域の外国人を対象とした日本語教室でのボランティア活動、国際交流イベントの手伝い、広報等業務補佐等
17	JICA 地球ひろば	東京都	展示コーナー(体験ゾーン)の見学、説明方法についての概説、ジュニア地球案内人として来訪者への応対、展示の説明、ワークショップの作成、国際協力に関する講義、国際協力関係者との交流プログラム

■国際ビジネス分野

18	(株)中村製作所	栃木県	海外工場との連携業務の実務体験。海外では研修期間を通じて、“世界の工場”と言われている中国の実情を肌で体験する
19	(株)上原園	栃木県	種苗関係の国際雑誌の翻訳、現場実習
20	株式会社 FAR EAST	埼玉県	開発途上国との開発輸入ビジネスの現場と実際を知る

■観光まちづくり分野

21	(合)福田製紙所	栃木県	和紙鞆の体験と、和紙を用いたペーパーアートを実習
22	AHV(アーティストホームヴィレッジ)	栃木県	国際コンクール日本予選の企画立案やコンクールの運営補助。カザフスタンではコンクール本選での日本からの参加者のアテンドや文化施設を視察する
23	那須烏山市観光協会	栃木県	市の歴史や観光資源を学び、伝統工芸の体験やタウンウォッチングを通じて観光隆盛を提言する
24	那須烏山市商工観光課	栃木県	各職場の実務体験、並びに、観光隆盛のテーマに対して企画・立案を行なうことで観光行政の一端を経験する
25	(株)JT東 法人営業宇都宮支店	栃木県	実習内容:①大学マーケットの旅行市場調査、②大学マーケットの新規ツアープランの作成、③資料整理、工法業務補助、データ入力等。実習期間:2011年8月1日~12日(10日間(80時間)) 受入人数:2~4名

■複合分野

26	宇都宮大学・国際学部・国際キャリア開発プログラム	宇都宮大 作新学院大 白鷲大	プログラムの宣伝活動、会場設定とマネジメント、関連資料の作成
27	宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター	宇都宮大	プロジェクトの広報活動(ブログ更新含む)、他大学を拠点とする福島乳幼児ニーズ対応プロジェクト(FnnnP)や学生ボランティア団体(FnnnP Jr.)との連携、関連資料の作成・整理、関連イベントへの協力

(2) 「国際キャリア実習Ⅱ」

平成23年度から開講の「国際キャリア実習Ⅱ」に関して、国際協力、国際ビジネス、観光まちづくり、国際理解の各分野において、海外実習先の開拓ならびに協定締結を順次行なってきた。実習先数は37団体・機関・企業であり、国数では18カ国に及ぶ。但し、独立行政法人国際協力機構(JICA)のように、受入先は1ヶ所でも派遣先が複数の国にわたる(平成23年度の場合の対象国は23カ国)場合もあり、これらを含めると更に対象国数は増える。協定締結に関しては国際キャリア実習Ⅰで作成した協定書のひな型を英訳、あるいは、現地語に翻訳し、受入先と調整した上で最終的な協定書を作成、そして順次締結してきている。

平成23年度の実習実績としては、県外大学および社会人を含め、延べ18名、6か所で、そのうち履修者は7名である。

表2-1には分野別の受入協力先数を、表2-2には実習先と人数実績を、表2-3には実習者内訳を示す。また、表2-4には受入協力先と概要を示す。

「国際キャリア実習Ⅱ」実習先(団体数)

分 野	実習先 (団体数)
国際協力	19
国際理解	2
国際交流	3
国際ビジネス	1
観光まちづくり	5
国際観光	1
人材育成	1
複合	5
団体・機関・企業数合計	37

「国際キャリア実習Ⅱ」実績

No.	実習先	場所	人数
1	モンゴル人文大学他	モンゴル	6名
2	ネパール生態文化研究所	ネパール	3名
3	ソムニード・インド	インド	1名
4	ルワンダの教育を支える会	ルワンダ	2名
5	ワンラブ・プロジェクト	ルワンダ	1名
6	ルワンダのフィールドワーク	ルワンダ	5名
合 計			延べ18名

「国際キャリア実習Ⅱ」実習者内訳

宇都宮大学	5名
作新学院大学	1名
白鷗大学	3名
県外大学	7名
社会人	1名
合 計	17名

*1名は2箇所実習

「国際キャリア実習Ⅱ」実習先一覧（海外インターンシップ）

■国際協力分野

No.	受入協力先	場 所	テーマ・活動内容（例）
1	国際 NGO ウランバートル いっくら	モンゴル	ウランバートルいっくら主催の観光案内手伝い・講演補助など
2	JICA モンゴル事務所	モンゴル	主催事業の手伝い、事務所の雑務など
3	モンゴル日本人材開発セ ンター	モンゴル	センター主催事業の市民講座である「日本語しゃべり場」「日本文化 紹介」などのアシスタント
4	①LUMANTI(NGO) ②CONCERN(NGO) ③マナブ養護学校(障害 者施設) ③パタン CBR(養護施設)	ネパール	子供や教員と接し、児童労働、子どもの権利、教育普及などの課題を 考える。さらに、同世代の学生を訪ね、現地の人々と交流する
5	(特 NPO)日本国際ボランテ ィアセンター(JVC)	タイ	農業作業・順民参加を通しての村おこし・活性化
6	EDF(Education Development Foundation)	タイ	車いすの提供や生活環境・通学就学環境改善など障害児支援活動 等を行なっている EDF 活動のアシスト。場合により出張もある。現地には 日本の民際センター(EDF-JAPAN)を通じて派遣される
7	シャンティ国際ボランティア 会	カンボジア	スラム開発、巡回図書館、学校建設等自分のテーマに合った活動を行 うことができる。例えば、図書館の整理、運びの手伝い、英語レポート・ データの翻訳等
8	王立プノンペン大学カンボ ジア日本人材開発センタ ー	カンボジア	毎年10月上旬1日開催される日本大学フェアの開催準備の手伝い、 2月中旬3日間開催されるセンター創設記念フェスティバルの開催準備 の手伝い、において翻訳、会議、ブース、HR作成準備を行う。毎年 8月開催の日本語コースにおいて、カンボジアの学生が書く日本語の チェックを行う
9	①NGO Gawat Kalinga (GK) ②NGO Kanlungan sa ER-MA Ministry,inc ③NGO Options	フィリピン	ストリート・チルドレンへの教育や、スラムでの住宅改善・水道及びトイレ の設置、学校建設などを通じ、都市貧困の現状を学ぶ
10	NGO Philippine Rural Reconstruction Movement (PRRM)	フィリピン	漁村やコーヒー生産者を訪ね、農村開発・有機農業普及など、フィリ ピンの農村の現状を学ぶ
11	NGO Batis Center for Women	フィリピン	海外移民労働者の家族や帰国者の訪問や、日比の間で生まれた子 ども達と交流や NGO のユース・グループの研修やワークショップに参加
12	テラ・ルネッサンス	ウガンダ、 カンボジア	元子ども兵の社会復帰や、元子ども兵と地域社会の和解に関する調 査やアドボカシーなど
13	EAANSA (Eastern Africa Action Network on Small Arms)	ウガンダ	小型武器の不法流入に関する情報収集、調査、アドボカシーや企画 作り、資金集め
14	Refugee Law Project	ウガンダ	難民、強制移動、人権、移動期正義などに関する研究、調査、研修な ど

No.	受入協力先	場 所	テーマ・活動内容（例）
15	ICTR (International Criminal Tribunal for Rwanda) ルワンダ国際戦犯法廷	タンザニア、オランダ、ルワンダ	司法に関する調査、報告書の原案書きなど
16	(社)シャンティ国際ボランティア会 (SVA)	タイ、カンボジア、ラオス、アフガニスタン、ミャンマー難民キャンプ	教育・文化分野での支援活動を行なっている団体。受講希望者と相談の上、インターンシップ先を斡旋。
17	ボゴダ市役所(どの NGO かは未定)	コロンビア	紛争からの復興支援の現場を訪ね、元兵士やその家族達の社会復帰のための起業や社会サービスなどの取り組みを学ぶ
18	INTERRAC	イギリス	研修セミナーの準備、調査の実施、調査報告書作成手伝い、等社会経験と英語力が求められる。短期研修コースは有料でモニターと評価、インパクトアセスメント、パートナーキャパシティ・ビルディング、組織改革、組織開発、アドボカシー、ジェンダー分析と計画、戦略計画、トレーナー教育等のコースがある
19	ソムニード・インディア(特定非営利活動法人ソムニード)	インド	コミュニティ開発とファシリテーションを学ぶ研修

■国際理解分野

20	早川千晶氏(フリーライター・旅案内人)	ケニア	環境保護、民族の文化・伝統の尊厳、開発、都市化、移住、ODA(による負の影響)といったテーマでのスタディーツアー
21	ヨーク ST ジョン大学グローバル教育センター	イギリス	毎年2月下旬に開催されているヨーク市のフェアトレードシティの取り組みの一環である、フェアトレード・フォー・ナイトのイベントの手伝いを行う

■国際交流分野

22	モンゴル人文大学	モンゴル	アジア言語文化研究学部研究室で行なう日本文化の紹介(折り紙、書道、まんが、着付けなど、一つでも日本文化を教えられること)その他、8:00から20:30まで研究室にて、担当教授、准教授の授業の手伝い
23	私立 新モンゴル高校	モンゴル	小中高生に対する日本語授業のアシスタント。日本文化(遊びの文化:ビー玉、メンコ、ジャンケン、けん玉など)の紹介ができること
24	私立 オユニトルガ学校	モンゴル	小中高生に対する日本語授業のアシスタント。日本文化(遊びの文化:ビー玉、メンコ、ジャンケン、けん玉など)の紹介ができること

■国際ビジネス分野

25	大連中村精密部件工業有限公司	中国	海外工場との連携業務の実務体験。海外では研修期間を通じて、“世界の工場”と言われている中国の実情を肌で体験する
----	----------------	----	---

■観光まちづくり分野

No.	受入協力先	場 所	テーマ・活動内容 (例)
26	中国旅行社総社(大連)有限公司	中国	中国観光業の<百強旅行社>の中の一社。観光事業の実務体験と日中相互の観光ツアーの企画立案、並びに、観光ビジネス現場の視察と実習を行なう
27	大連中山大酒店	中国	大連政府認定の対外国人向け優良ホテル(4つ星)。接客や部屋のセッティングなど、ホテル業現場の実体験を行なう
28	広州雲峰大酒店	中国	4つ星ホテル。接客や部屋のセッティングなど、ホテル業現場の実体験を行なう
29	AHV(アーティストホームヴィレッジ)	カザフスタン	国際コンクール日本予選の企画立案やコンクールの運営補助。カザフスタンではコンクール本選での日本からの参加者のアテンドや文化施設を視察する
30	JEIC(JTB Educational Institute of Canada)	カナダ	JTBカナダの各職場で観光事業の実務研修、並びに、観光ビジネスを視察しバンクーバーのまちづくりを視察する。24年3月12日~26日(15日間)。受入数は6名~15名まで

■国際観光分野

31	JATA (Japan Tanzania Tours Ltd) http://jatatours.intafrica.com/	タンザニア	総務といったオフィスワークだけでなく、日本人観光客の買い物にも添乗し、商人とスワヒリ語で値引きの手伝いもする
----	--	-------	--

■人材育成分野

32	Directory of Social Change(Information and Training for the Voluntary Sector)	イギリス	マーケティングはデータベース管理・入力、出版部門は編集、調査、校正。ロンドン事務所カリバプール事務所
----	---	------	--

■複合分野

33	Volunteer Projects Overseas	ウガンダ	教育や学校運営(カンバラ)、地方の生活体験をし、食糧の安全保障・農業・衛生・栄養(北部)。持続的な観光業と環境保全(西部)
34	非営利組織 REACH (Reconciliation Evangelism And Christian Healing for RWANDA)	ルワンダ	①アカデミックな部分を学ぶ(論文の聞き取り調査など)、②現場体験、③HPを更新・新規デザインなど、自分の得意・関心分野を考慮しながら、プログラムをつくることができる
35	Organic Solution Rwanda (株)	ルワンダ	ケニアでオリエンテーション後、ルワンダのキガリで環境・農業関連の事業活動に参加。テーマはコミュニティーの自立を目指したビジネス
36	フロムジャパン	イギリス	学校やイベントで日本の文化やエコを伝える文化活動をしながら、英国の市民社会やまちづくり、国際協力の取組みを学ぶ
37	独立行政法人国際協力機構(JICA)	23カ国	一般業務補助もしくは配属先が設定した特定テーマに関する業務(補助)

■「国際キャリア実習Ⅱ」における特筆すべき事例

「ウランバートルいっくら」での実習を、本プログラムのモデルケースの1つとして紹介する。「ウランバートルいっくら」での実習の特徴は、①外部資金として国際交流基金「知的交流会議人材育成グラント助成事業」助成額 100万円を活用して、参加者の金銭的負担を大幅に軽減した、②現地で盤石な安全対策（緊急医療など）を講じた、③現地学生との多彩な文化交流を行った、④出発前に綿密な事前学習を行った、⑤事後報告会を開催した、などである。

国際キャリア実習Ⅱ「モンゴルインターンシップ研修」滞在日程

主催：いっくら国際文化交流会（応募申請）、協働：ウランバートルいっくら（現地受入）、
 後援：在モンゴル日本国大使館、モンゴル人文大学、(JICA)モンゴル日本人材開発センター、
 駐日モンゴル国大使館、宇都宮大学、栃木県、宇都宮市、(公財)栃木県国際交流協会

月日	時間	日程	担当／会場／宿泊
9月 21日 (水)	8:10 11:00 11:30 13:30 17:40 19:30	チサンホテル前集合 8:30 発 6名 新東京国際空港(成田) 第1旅客ターミナル 南ウイング4F Hカウンター前 全員集合 出発式 団長が一括 搭乗手続き 国際空港発⇒Miyat 0M502 便 モンゴル国チンギスハーン国際空港着 ウランバートルいっくら出迎え Puma Imperial Hotel 着 チェックイン 「ウランバートルいっくら」担当者とは夕食会、滞在日程の打合わせ Purevsuren 会長, Banzai 副会長, Batsaikhn 事務局長、Puma Hotel 泊	成田国際空港 ロビー Puma Hotel Hotel 泊
22日 (木)	8:30 9:00 10:00 12:00 午後 17:30	モンゴル人文大学アジア言語文化研究学部 研究室集合 打合せ モンゴル人教師の日本語授業手伝い : 訪問団員全員 1. モンゴル人教師の「日本語授業」手伝い —1年生の日本語会話は、「日本語独特の挨拶とその使い方」 —3年生の日本語会話は、教科書「中級日本語Ⅱ」という読解テキストを使って「自然な会話の練習」 —4年生の比較文化研究は「就職活動」をテーマにしてディスカッション —3・4年生の日本事情は「書道」 この間 B. Chuluundorj 学長表敬、 12:00 昼食交流会：人文大学生 20名位参加 於：学生食堂 両国の学生が交流を深める機会にする 在モンゴル日本国大使館訪問、城所卓雄大使表敬、向井一等書記官 モンゴル外務省訪問 ジグジツ駐日モンゴル国大使(9/19 帰任)表敬 夕食「ウランバートルいっくら」と23日の打合せ、UBいっくら、訪問団10、 Join: 帰省中の宇大留学生 2、Gan-Od, Bolormaa, Khishige, 宇大国際学部卒業生: Erdenechimeg, 工学部卒業生: Ganaa 学生6名は人文大学 学生寮泊、長門、山口、芳賀、芳賀は、Puma Hotel 泊	人文大学 学生寮 Hotel
23日 (金)	8:30 9:30 12:00 13:00 14:30 15:30 16:00	人文大学集合 対話集会準備 帰省中の留学生 3名: Gan-od, Bolormaa, Hishge (通訳協力) 学生企画「日本・モンゴル学生対話集会」司会進行: 両国学生、 Purevsure 教授の返事: 日程表(案)を見て、訪問団の希望テーマでOK 人文大学学生担当者: 4年生 Tsogoo, Dulguun 対話集会: 開会 両国いっくら会長 挨拶 司会: 関寮, Gan-Od(宇大) 東日本大震災直後より、モンゴル政府・国民の温かい支援に対し謝意表明 ★対話集会 導入: 「3・11 東日本大震災ー各自の体験」 ★団員・各大学紹介(宇都宮・作新学院・共愛学園前橋国際・青山学院・名古屋・早稲田大学、紹介プレゼン: 30分 グループ別 討議 訪問団希望: テーマ①「震災からの教訓・気付き⇒エネルギー問題」関 龍、 ②「大学生活・国際キャリア形成・就職活動」芳賀菜々絵、青木未来、 ③「両国の日本語教育」熊田知絵美、ハマ、山口由紀子 ④「両国のジェンダー比較」川島正恵、芳賀栄子 ⑤「異文化交流⇒相互理解⇒平和構築」関 友哉 昼食交流会: 参加者は各自が 学生食堂 午後の部: 午前中に議論した内容を掘り下げ、纏める作業 グループ毎に両国担当者が、グループ討議の報告 & 各グループ 提言 文化紹介ー着物着付パフォーマンス: 青木、川島、熊田、関、芳賀、芳賀、山口	人文 大学

月日	時間	日程	担当/会場/宿泊
	16:30	① 三線演奏「沖縄民謡」 関友哉 ② 日本舞踊「梅の香」 川島正恵 みんなで輪になって踊りましょう！担当：芳賀、川島、熊田、ハマ、関、青木 被災地の復興・世界の平和を願い「日光和楽踊り」 閉会 学生：学生寮6名泊、長門、山口、芳賀、芳賀4名：Hotel泊	学生寮 Hotel
24日 (土)		モンゴル日本人材開発センターは、国際交流基金国際シンポジウム開催で 閉会 日本センター 終了後 民族音楽コンサート 夕食：モンゴル食文化 学生6名：学生寮泊 長門、山口、芳賀、芳賀4名：Hotel泊	JICA 日 本セン ター 学生寮 Hotel
25日 (日)	9:00 17:00	Puma Hotel 集合・発 市内観光及びウランバートル市周辺の日帰り観光 遊牧民の生活体験 Purevsuren 会長、Bannzai 副会長、Batsaikhn 事務局長： ホストファミリー出迎え・対面 場所：Puma Hotel ロビー ホームステイ：学生6名、社会人1名、長門、山口、芳賀3名：Hotel泊	ウランバートル 市内、近郊
26日 (月)	9:00 16:00 17:00	6日 or 27日 午前 or 午後 私立新モンゴル高校(日本式高校小中一貫教育) 26日 or 27日 午前 or 午後 私立 Oyunitulga School (小中高一貫教育十年制) 日本語教師の日本語授業補佐 日本文化—子どもの遊びの文化紹介」学生 Oyunitulga School は、26・27 半日 or 1日でも OK 日本文化紹介「日本舞踊紹介「梅の香り」「日本料理」希望 モンゴル日本人材開発センター訪問 森川所長表暎 センター見学 日本センターの活動紹介 Q&A：森川秀夫所長 ホストファミリー出迎え： 学生6名+社会人1名：ホームステイ7名 長門、山口、芳賀 3名 Puma Hotel	
27日 (火)	午前 or 午後 午前 or 午後 17:00	新モンゴル高校訪問 or Oyunitulga School 訪問 上記：日本語授業協力 ★モンゴル外務省表敬、9/19 帰任されるジグジット駐日モンゴル国大使、 Erdenedavaa 一等書記官 Asia Department Department Japan Desk (外務省 1992 年度研修生) ★JICA ウランバートル事務所 訪問 訪問団お礼の夕食会 訪問団全員：10名 Puma Htel	
28日 (水)	4:30 5:00 6:55 12:30	Puma ホテル発 チンギスハーン国際空港へ移動 搭乗時間前にチェックイン チンギスハーン国際空港発 成田国際空港着	帰国

2-3 国際キャリア開発プログラム企画講演会

学生に常に国際キャリアについて考えてもらうために、国際キャリア開発プログラムでは4つの合宿セミナー以外に、講演会や公開講義などの企画を年に数回行った。

(1) 国際人権活動から日本を見つめ直す

日時：平成23年4月20日（水）

会場：宇都宮大学 国際学部 1122 教室

参加者：123 名

講師：土井 香苗氏（弁護士、ヒューマンライツウォッチ東京事務所ディレクター）



【講演会の準備】

国際学部の赤坂優実（4年生）、秋元明日香（3年生）、川島正恵（2年生）の学生プレゼンターは、各自の関心分野について学習を進め、質問内容を決めた上で、講演会に臨んだ。

【土井香苗氏のキャリア】

東京大学在学中に司法試験に合格。その後、ピースボートの活動に参加し、エリトリアでの司法整備に関わる。卒業後、人権弁護士や世界的人権団体ヒューマンライツウォッチ東京事務所ディレクターとして様々な場面で活躍されている。

【講演の概要】

人権を守ることは、拷問、恣意的な拘禁などから人々を守ることであり、生まれながらの属性による差別をなくすことが人権の概念の根本のひとつである。第二次世界大戦から人権侵害を放っておくことは平和への脅威である考えが広まり、世界人権宣言が制定され、「人権は世界の関心事」とされ、戦後60年は人権が国家を縛る大きな規範になった。

【土井香苗氏と学生プレゼンターとの意見交換】

Q 政府開発援助（ODA）が生活改善といった役立つことだけでなく、虐殺や人権侵害にも使われる場合がある。これに対して学生が出来ることは何か。

A 誰もが実態を知らないから調査して明らかにする。そしてそれを、様々な人にネットなどのツールで知らせる。

Q 原発付近の住民が避難所や避難先の他県で、差別されている事実は人権の観点ではどのように見るのか。

A 差別をしてはならず、平等に扱われるべきなのにもかかわらず、原発により差別されることはいわれない差別である。また、原発従業員の安全は守られているのかということもこれから検証が必要である。

Q 女性性器切除（FGM）は、東南アジアや、サブサハラアフリカ、中東を中心として行われている女性の性器の一部を切り取る、または、全部を縫い閉じる慣習である。そのFGM廃絶アプローチについて現地の思想、文化と西洋の価値観がぶつかった時のアプローチとは何か。

A この質問は、人権は押しつけかという疑問に通じる。人権は押し付けではない。それを主張する権力者に着目する必要がある。

観客から、拉致被害者の家族の人権、リビアにおける人権侵害、同性愛者として差別されている友人の人権等について多くの質問が出され、大変活発な議論になった。土井氏の示唆に富む講演内容、土井氏と学生プレゼンターとのトークショーから、学生の興味関心の幅が広がった。この様なトークショーを今後も続けてほしいという要望も多くあった。

(2) アクティブ思考法セミナー

受動学習から『能動学習』へ

時代が求めるアクティブラーニングとは？

日時:平成 23 年6月 15 日(水)

会場:作新学院大学

講師:羽根拓也氏(株式会社アクティブラーニング代表取締役社長)

参加人数:204 名



【講演の概要】

授業の受け方や課外活動など、大学生活をより充実させるためには「能動学習法」が重要である。

受動的学習に対し、能動的学習の場合は脳が活性化する。能動的というのは、自分から進んで働きかけることで、例えば、初めての道を車を運転してしていった場合、帰り道を助手席に座っていた人が急に代わって運転する場合は、行きを運転した人に比べスムーズに戻れない。助手席の人は自分が運転に関し主体になっていなかったからである。

能動的になる方法の一つに、情報を受けるとき、直後にアウトプットすることを意識すれば、集中力があがる。

千利休に『守・破・離』という教えがある。「守」とは師匠の教えを忠実に守り、基本の作法や技法など基礎を身に付ける段階、「破」は身に付けたものを自分なりに応用する段階、「離」とは更に前進させ、新しい独自の道を確認させること。

【参加者の評価】

講演会参加者	204 名
アンケート回答者	189 名
回収率	93 %

1 とてもよい(50%)	2 よい(35%)	3 普通(13%)	4 よくな(2%)	5 全然よくない(0%)
--------------	-----------	-----------	-----------	--------------

【参加者の感想】 (アンケートより)

- ・受動的学習(正解コピー型学習)と能動的学習(成果探求型学習)、インプットアウトプットについて学べた。就職活動の始まる前に今日学んだことをしっかり利用できるようにしていきたい。(1年 男性)
- ・現在企業が求めている人材はどのようなものか知る事ができた。物を覚える際、人から教わるよりも人に教えたときの方が記憶に残りやすいことを学んだ。グループでの実験が楽しかった。(1年 男性)
- ・自分がどう思うかをグループ発表することにより、他人の意見も聞け見聞が広がる。あまり興味がない内容でも考える事により記憶に残る。苦手意識のある教科などは覚えたいことをアウトプットして自ら学んでいきたい。(1年 女性)
- ・自分の知らない事を多く学んだ。人間の脳の構造を知り、就職活動で自分が今何が必要かを学ぶことができた。前に踏み出す力(アクション)、考え抜く力(シンキング)、チームで働く力(チームワーク)を養い就職活動に活かしたい。(1年 男性)
- ・グループワークを取り入れたことで、アウトプットを使った学習の効果を実感できた。もっと早い時期にこの講義を聞けたらよかった。(3年 男性)

(3) キャリアセミナー「これまでの経験を振り返り、将来を考えよう」

日時：平成23年12月7日（水）

会場：白鷗大学東キャンパス3階301教室

参加人数：32名

講師：古河大輔氏（特定非営利活動法人とちぎユースサポーターズネットワーク理事、とちぎユースワークカレッジスタッフ）

略歴：小山市出身、大学卒業後一般企業へ就職。その後、青年海外協力隊に参加し、南米ボリビアで2年間国際協力活動を行う。現在、とちぎユースサポーターズネットワークで若者支援を行う。

ファシリテーター：岩井俊宗氏（(特活) とちぎユースサポーターズネットワーク共同代表）

略歴：大学卒業後、宇都宮市民活動サポートセンターボランティアコーディネーターに専従。2008年より社会を担う若者を育む「とちぎユースサポーターズネットワーク」を設立・運営。



【セミナーの概要】

このセミナーは、大学生がこれまでの経験や想いを振り返り、整理をしながら、将来の進路選択や就職、自己実現に向けて自分が納得した選択をしていくきっかけを提供する目的で実施された。

初めに、古河氏より「学生生活、就職、キャリアチェンジの過程で何を考えてきたか」「経験や能力をどのように積み上げ次へ繋げてきたか」について、それぞれの分岐点で「大切にしてきたこと」に触れながらお話いただいた。古河氏が「大学進学」を選択した際には「すきな事・自信・経済性」を重視し、就職活動の際は「普通／社会・自立・すきな事」、そして「キャリアチェンジ」時には「自信・達成感・社会貢献」ということを自分のキーワードとした等、ご自身の体験談をキーワードと共にお話いただいた。

次に、岩井氏のファシリテーションにより、4人ひと組のグループに分かれ、これまでの各自の経験を振り返るため「自分年表」を作成した。その後「自己選択分析」シートを使い、自分がこれまでに経験した「選択」を一つ選び、その選択をした理由やそれが与えた影響、そこからの学びを改めて考え、最終的に自己選択の際に「大切にしたい（い）キーワード」を挙げた。「大学の選択」「就職活動」「進学」「課外活動」等の選択経験が挙げられ、「大切にしたい（い）キーワード」として、「人」「すきな事」「仲間」「自分」「感謝」「可能性」「気づき」「夢」「責任」等が挙げられた。参加者はそれをグループ内で共有し、様々な選択や価値基準があることを認識した。

最後に、総括として、白鷗大学・結城史隆教授よりキャリア形成や就職、将来への準備や経験を積み上げていくことの重要性についてお話があった。

【参加者の感想】（アンケートより）

- ・自分を見つめ直す貴重な機会となった。いろいろな人生を聞いて刺激を受けた。
- ・何故今自分が目標を持っているのかを相手に説明できるようになった。講師の方のように自己分析・選択の項目を増やしていきたい。
- ・悩んでいるのは自分だけじゃない、同じ時期に同じような状況だった人もいるのだということを学んだ。
- ・自分の選択にマイナスのイメージをずっと持っていたが、今回のセミナーを受けてこの選択がなかったら今の自分はなかったと心の底から思った。
- ・学生のうちにしかできないこと、今からやらなきゃいけないことを全力で頑張ろうと思った。将来成長した自分がいるように、今から頑張りたい。
- ・ただ内定を得るために漠然と就職活動をしていたが、今後は興味のあることを軸に活動しようと思った。
- ・いろいろな価値観があるということに気づいた。
- ・深く掘り下げ、紙に書き出して客観的に見ることが大切だと感じた。

2-4 国際キャリア開発プログラム企画・公開講義

(1)「アフリカの将来を問う—開発と人権確立をいかに両立させるか?」—エチオピアにおける開発と人権の矛盾を例に

日時：平成23年7月5日（火）

会場：宇都宮大学

講師：ヨセフ・ムルゲタ氏（人権弁護士）、ベン・ロレンス氏（HRW・アフリカ担当）

参加人数：18人



【講義の概要】

エチオピアの開発と人権の状況をまとめた ヒューマン・ライツ・ウォッチ（HRW）報告書の『自由なき開発』が2010年10月に公表され、人権活動家のヨセフ・ムルゲタ氏と報告書の責任者のベン・ローレンス氏を講師に、公開セミナーが行われた。前者は幼少期時代、貧困の地で生まれ育ち、あらゆる形態の不公平や不当な行為に遭遇したこと、生きる上での基本的な公共サービスを受けるにも常に権力に畏縮させられたために、その改革のために弁護士になった。後者はタンザニアで英語を教えた時に、現地の人々の生活様式にショックを受け、大学でスワヒリ語と国際関係を学んだ。その後、英国議会の外交委員会に勤務し、タンザニア野党のアドバイザーとして選挙運動にも参加し、殺人、殴打、不当な拘禁などの人権侵害に関するレポートをHRWに送り始めた。

エチオピアでは、新しい憲法では人権や民主主義も謳っているが、2005年の総選挙以来、政治的な弾圧は日常的に行われ、人権侵害に対する不処罰も横行するなど人権状況が悪化している。そのエチオピアは、世界からの国際援助を国民の統治のために政治的に利用している。開発のアプローチとしては「中国型」をとり、教育を受ける権利などはあっても、言論の自由など基本的な市民権などない。それがなければ国民は何の選択権もなくなり、この点は開発する際によく考慮されなければならない。

本講義の準備のために2か月前から勉強会を開いた国際学部の学生7名が、「本報告書に対して世界銀行などはどのような反応をしめたのか」「日本の援助はそれを必要とする人に届いているのか」、「理想的な開発とは」「援助と飢餓に関連性について」「多国籍企業の役割とは」など英語で質問を投げかけた。

講師は「例えば『日本はエチオピアに巨額の援助を提供しているが、この報告書の人権に関する提言をどう思うか』などと国会議員に手紙を書いたり、エチオピアの人々とコミュニケーションをとるといい。理想的な開発などなく、そこの国民が本当に何を必要としているのか、じっと耳を傾け、どの人々が本当にこの国を代表しているのか見極めること。自分のアイデアばかり提示せず、むしろ謙虚に、ゆっくりと、静かに耳を傾けることが大切」とアドバイスをした。

講師は学生がよく事前勉強をされ、熱心に質問をしたこと、そして報告書をすべて読破したことに驚きと感激を覚えた。（文責：HRW インターン生 渡邊理佐子）

(2) ファシリテーター研修会

日時：平成 23 年 6 月 29 日（水）

会場：宇都宮大学

講師：長畑 誠氏（一般社団法人あいあいネット専務理事、明治大学専門職大学院ガバナンス研究科教授）

参加人数：10 人

概要：国際キャリア開発プログラムでは、「国際キャリア基礎」「国際実務英語Ⅰ」の合宿セミナーのファシリテーター希望者を対象に研修会を行った。



3. 事業の広報

3-1 ホームページ

学生、地域の企業や機関への情報発信のツールの1つとして、本プログラム専用のHPを平成21年度に立ち上げた。本プログラムの概要や教員紹介、カリキュラムやイベントの内容を掲載している他、国際キャリア合宿セミナーへの参加申込および国際キャリア実習への申込をHPから行えるよう整備した。適宜、HPの更新を行うことで、活動状況を常時発信している。

サイト構成とトップページデザインは、つぎの通りである。

・サイト構成

プログラムについて

- 挨拶
- プログラム概要
- 運営体制
- 委員会規定
- 委員会名簿
- 報告書
- メディア掲載

カリキュラム

- 教員紹介
- カリキュラム
- シラバス
- 実習先
- キャリア相談
- 講義映像

参加者の声

- 参加者の声
- インタビュー

イベント情報

- イベント記録
- 会議記録

受講申込

- 受講方法
- 申込フォーム
- よくある質問
- パンフレット

資料請求・お問い合わせ

- お問い合わせ先
- チラシ・パンフレット
- メールマガジン登録

サイトポリシー

サイトマップ

・トップページデザイン



3-2 ポスター・チラシ・パンフレット

学生や地域の企業、機関への紙媒体での情報発信ツールとして、パンフレット・受講者募集チラシ・同ポスターを作成し、連携3大学の学生以外に全国の大学や協力機関・企業・教員などに送付した。広く本プログラムへの参加を呼びかけたことで、東北から沖縄まで全国各地からの参加者を獲得した。また、学生の意見を取り入れながら、掲載内容の充実を図った。

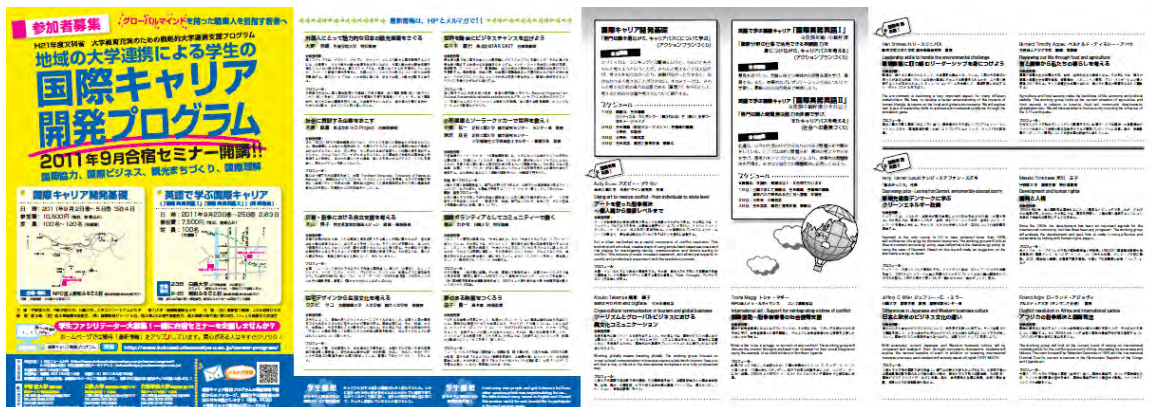
パンフレット、チラシ、ポスターのデザインは、つぎの通りである。

・パンフレット (A3サイズ両面2つ折り)



・チラシ

平成 23 年 6 月発行 国際キャリア開発基礎、国際実務英語 I・II 参加者募集用 (A3サイズ両面2つ折り)



平成 23 年 10 月発行 国際キャリア開発特論参加者募集用 (A4サイズ両面)



3-3 メールマガジン

平成 22 年度より「国際キャリア開発基礎」「国際キャリア開発特論」「国際実務英語 I」「国際実習 I」の受講生募集に当たっては、HP、パンフレットやチラシの配布などの他に、メールマガジンを活用している。平成 23 年度より新たに開講した「国際実務英語 II」「国際キャリア実習 II」の受講生募集についても、メールマガジンを活用した。購読者の募集については、HP、チラシ、ポスターへの記載および国際キャリア合宿セミナーや国際キャリア FD 委員会企画・講演会等で広報活動を行った。また、QR コードの活用で登録を容易にする工夫を行い、メールマガジン登録者数は 184 名となった。メールマガジンの発行日及び発行部数と内容は、つぎの通りである。

配送月	発行部数	発行回数	発行内容
2011 年 4 月	124 部	5 回	インターン募集のお知らせ 国際キャリア FD 委員会企画講演会開催のお知らせ等
2011 年 5 月	126 部	5 回	国際キャリア FD 委員会企画公開講義、インターンシップ説明会、ファシリテーター研修会のお知らせ等
2011 年 6 月	135 部	7 回	国際キャリア FD 委員会企画公開講義、国際キャリア合宿セミナー開催のお知らせ等
2011 年 7 月	158 部	7 回	国際キャリア FD 委員会企画公開講義開催報告 国際キャリア合宿セミナー参加者募集のお知らせ等 国際キャリア実習の受入れ先紹介
2011 年 8 月	167 部	2 回	国際キャリア合宿セミナー参加者募集のお知らせ
2011 年 9 月	170 部	1 回	白鷗大学生への国際キャリア開発特論履修登録のお知らせ
2011 年 10 月	172 部	6 回	国際キャリア合宿セミナー参加者募集のお知らせ 国際キャリア実習 II のお知らせ
2011 年 11 月	168 部	5 回	国際キャリア FD 委員会企画講演会のお知らせ 国際キャリア開発特論、国際キャリア実習 II 参加者募集
2012 年 2 月	169 部	1 回	国際キャリア実習 II の近況報告 講師のメディア出演のお知らせ

3-4 ブログ

連携 3 大学間の密な連携、円滑な情報交換および資料の共有を目的に、関係者のみが閲覧可能なブログを立ち上げた。「記事」では、カリキュラムの内容および講師の選定状況など、常に最新の情報を交換することが可能となり、「共有資料」では年間スケジュール、各種委員会の規定・内規、シラバス、インターンシップ協定書等、必要な書類を常時閲覧することが可能となった。



3-5 新聞、雑誌記事



『国際協力ガイド 2012』 国際開発ジャーナル社、平成 23 年 10 月

本プログラムの有力な広告媒体の一つとして、新聞広告がある。本プログラムでは、対象者を限定した効果的な広告媒体という観点から、「大学コンソーシアムとちぎ」が発行している『とちぎキャンパスネット』(以下、T c - n e t) を活用した。

『T c - n e t 』は、栃木県内の①大学等高等教育機関 19 校と全高校 80 校、②全商工会 40 か所・商工会議所 10 か所、に配布されている。即ち、本プログラムの広報は、県内の全大学生・高校生、産業界を網羅している。また『T c - n e t 』は、県外の一部の進学高校や県内公共施設を中心に、約 300 か所に年 4 回、3 万部が配布されている。

平成 23 年度以降の掲載実績は以下の通りである。

- ・ 25 号 (2011 年夏号) 合宿セミナー基礎、実務英語 I ・ II、インターンシップの募集案内
- ・ 26 号 (2011 年秋号) 合宿セミナー基礎、実務英語 I ・ II の結果、合宿セミナー特論の募集案内
- ・ 27 号 (2012 年冬号) 合宿セミナー特論の結果

夏号



秋号



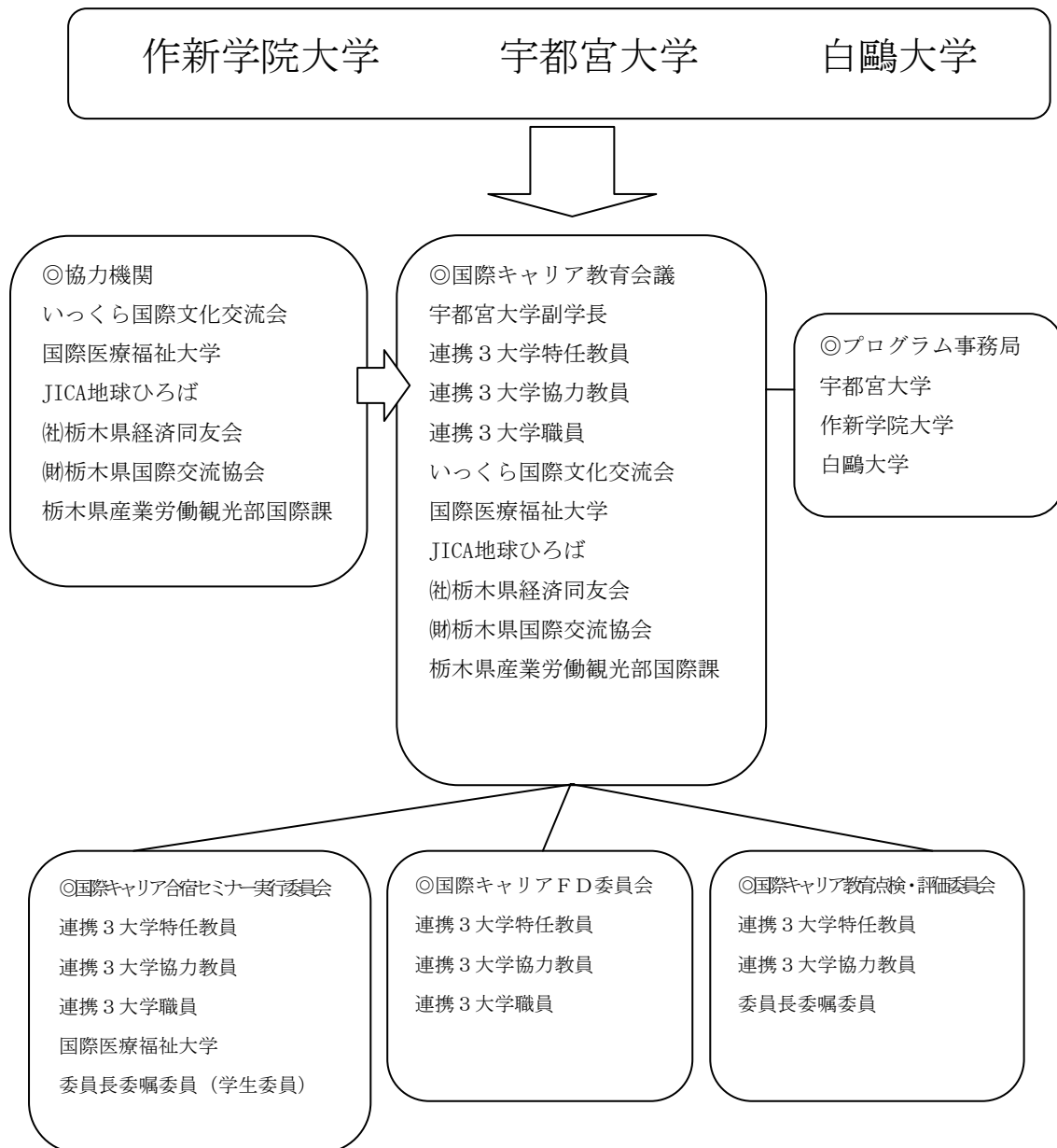
冬号



4. 事業の管理体制

宇都宮大学、作新学院大学、白鷗大学は、それぞれの大学が有する特色ある教育研究資源を活用し、学生に国際的学術分野の専門性を身につけさせ、地域の企業や自治体の国際化ニーズに応える人材を養成するための「地域の大学連携による学生の国際キャリア開発プログラム」を実施している。本プログラムを一定の方針と規律のもとで実施・運営するために、「地域の大学連携による学生の国際キャリア開発プログラムの実施に関する規程」を定め、同規定第3条により「国際キャリア教育会議」、規定第9条により専門委員会である「国際キャリアFD委員会」「国際キャリア教育点検・評価委員会」「国際キャリア合宿セミナー実行委員会」を設置し、プログラムに関し必要な事項を決定している。

地域の大学連携による学生の国際キャリア開発プログラム組織図



4-1 国際キャリア教育会議

(1) 役割

- ① プログラムの企画に関すること。
- ② プログラムの広報に関すること。
- ③ プログラムの実施に関すること。
- ④ プログラムの実施に伴う関係機関との渉外に関すること。
- ⑤ プログラムに係るFD（ファカルティーデベロップメント）に関すること。
- ⑥ プログラムの実施報告に関すること。
- ⑦ プログラムの点検・評価に関すること。
- ⑧ その他プログラムに関し必要な事項

(2) 活動実績

平成23年5月23日（月）第1回国際キャリア教育会議開催

平成23年12月9日（金）第2回国際キャリア教育会議開催

平成24年2月8日（水）第3回国際キャリア教育会議開催

4-2 国際キャリアFD委員会

(1) 役割

- ① 国際キャリア開発プログラムに係る授業の内容及び方法に関する企画案、調査、研究、実施に関すること。
- ② 国際キャリア開発プログラムに係る学生の支援・指導及び相談に関すること。
- ③ 国際キャリア開発プログラムに係る事業実施計画案の策定に関すること。
- ④ 国際キャリア開発プログラムに係る講演者・講師の人選に関すること。
- ⑤ 国際キャリア開発プログラムに係る授業の内容及び方法の改善のための方策、企画立案、調査、研究及び実施に関すること。
- ⑥ 国際キャリア開発プログラムに係る広報活動に関すること。
- ⑦ 大学改革推進等補助金(大学改革推進事業)実績報告書案の策定に関すること。
- ⑧ その他国際キャリア開発プログラムに関し必要な事項

(2) 活動実績

平成23年4月7日（木）第1回国際キャリアFD委員会開催

平成23年4月13日（水）第2回国際キャリアFD委員会開催

平成23年4月28日（木）第3回国際キャリアFD委員会開催

平成23年5月11日（水）第4回国際キャリアFD委員会開催

平成23年5月19日（木）第5回国際キャリアFD委員会開催

平成23年5月30日（月）第6回国際キャリアFD委員会開催

平成23年6月24日（金）第7回国際キャリアFD委員会開催

平成23年7月4日（月）第8回国際キャリアFD委員会開催

平成23年7月13日（水）第9回国際キャリアFD委員会開催

平成23年7月10日（木）第10回国際キャリアFD委員会開催

平成23年8月25日（木）第11回国際キャリアFD委員会開催

平成23年9月9日（金）第12回国際キャリアFD委員会開催

平成23年9月28日（水）第13回国際キャリアFD委員会開催

平成23年10月3日（月）第14回国際キャリアFD委員会開催

平成23年10月17日（月）第15回国際キャリアFD委員会開催

平成23年11月4日（金）第16回国際キャリアFD委員会開催

平成23年11月14日（月）第17回国際キャリアFD委員会開催

平成23年12月9日（金）第18回国際キャリアFD委員会開催

平成 23 年 12 月 22 日（木）第 19 回国際キャリア FD 委員会開催
平成 24 年 1 月 19 日（木）第 20 回国際キャリア FD 委員会開催
平成 24 年 1 月 26 日（木）第 21 回国際キャリア FD 委員会開催
平成 24 年 2 月 6 日（月）第 22 回国際キャリア FD 委員会開催
平成 24 年 2 月 14 日（火）第 23 回国際キャリア FD 委員会開催
平成 24 年 2 月 22 日（水）第 24 回国際キャリア FD 委員会開催
平成 24 年 3 月 8 日（木）第 25 回国際キャリア FD 委員会開催
平成 24 年 3 月 15 日（木）第 26 回国際キャリア FD 委員会開催
平成 24 年 3 月 23 日（金）第 27 回国際キャリア FD 委員会開催

4-3 国際キャリア教育点検・評価委員会

(1) 役割

- ① 国際キャリア開発プログラムに係る自己評価・外部評価（事業評価、授業評価）の方法に関すること。
- ② 国際キャリア開発プログラムに係る評価項目・評価内容・評価基準の策定に関すること。
- ③ 国際キャリア開発プログラムに係る評価報告書の作成に関すること。
- ④ 国際キャリア開発プログラムに係る公表に関すること。
- ⑤ 国際キャリア開発プログラムに係る評価結果に基づく改善方策に関すること。
- ⑥ 国際キャリア開発プログラムに係る改善の達成度の検証に関すること。
- ⑦ その他国際キャリア開発プログラムに係る点検・評価に関し必要な事項。

本プログラムの関係機関が多岐に渡り会議日程の調整が困難であること、また本プログラムの業務量が増加し業務の効率化が求められていることから、平成 22 年度に引き続き「国際キャリア教育点検・評価委員会」は開催せず、「国際キャリア教育会議」で審議することとした（「国際キャリア教育会議」の審議事項には、「本プログラムの点検・評価に関すること」が含まれる）。

(2) 活動実績

「国際キャリア教育点検・評価委員会」は「国際キャリア教育会議」（平成 24 年 2 月 8 日（水））と同時開催し、「国際キャリア合宿セミナー」に関する点検評価に関する審議を行った。

4-4 国際キャリア合宿セミナー実行委員会

(1) 役割

- ① 国際キャリア合宿セミナー実施計画案の策定に関すること。
- ② 国際キャリア合宿セミナーの実施に関すること。
- ③ 国際キャリア合宿セミナーの実施報告に関すること。
- ④ その他国際キャリア合宿セミナーに関し必要な事項

(2) 活動実績

平成 23 年 5 月 23 日（水）第 1 回国際キャリア合宿セミナー2011 実行委員会開催
平成 23 年 8 月 25 日（木）第 2 回国際キャリア合宿セミナー2011 実行委員会開催
平成 23 年 12 月 9 日（金）第 3 回国際キャリア合宿セミナー2011 実行委員会開催

4-5 国際キャリア合宿セミナー学生実行委員会

(1) 役割

・「国際キャリア開発基礎」・「国際キャリア開発特論」

国際キャリア開発基礎の実施運営にあたって宇都宮大学生 1 名が「国際キャリア実習 I」のインターン生として、また 3 人がボランティアとして関わった。「国際キャリア開発特論」では白鷗大学生 3 名が学生実行委員としてかかわった。どちらの合宿セミナーでも、裏方の作業に従事しただけでなく、

運営に主体的に関わることにより、学生のニーズやアイデアを内容に反映させることができた。またメールマガジン等を通じて、他学部や他大学への広報も行った。

・「国際実務英語Ⅰ」・「国際実務英語Ⅱ」

「国際実務英語Ⅰ・Ⅱ」の実施運営にあたって、白鷗大学の学生有志の10名が学生実行委員会として企画・運営に協力した。学生自身が企画・運營業務を経験し学ぶこと、また、セミナープログラムに関して学生の視点やアイデアを反映し、学生と本プログラムが協働で円滑なセミナー運営を実施することが目的である。

(2) 活動実績

・「国際キャリア開発基礎」・「国際キャリア開発特論」

「国際キャリア開発基礎」と「国際キャリア開発特論」の両合宿セミナー前に数回ミーティングを行い、国際キャリア合宿セミナーのプログラムと運営体制を整えた。学生実行委員は、合宿セミナー中のアイスブレイク、司会進行、アンケート回収と分析などを分担して担当した。

・「国際実務英語Ⅰ」・「国際実務英語Ⅱ」

合宿セミナー実施に向けて、昼休みや夏季休暇中にミーティングが実施され、合宿セミナーのプログラムや運営体制を整えた。学生実行委員は、配布資料作成、司会進行、講師紹介、交流会、移動バス内でのアクティビティなどを分担して運營業務にあたった。学生実行委員にとって、企画・運営の経験は組織力・企画力・運営力を高める機会となった。また、配布資料や合宿セミナー中の使用言語が英語であるため、学生実行委員が実践的な英語表現を学び、使う貴重な場となった。プログラム側にとっても、より多くの学生が様々な形でプログラムに関わることは、プログラムの継続性や広報の観点からも望ましい。

第2部 地域社会からの支援

第2部 地域社会からの支援

1. 物的支援

(1) 内容

本プログラムの趣旨に賛同して頂いた機関・企業・団体から協賛金を頂き、本プログラムの事業運営に役立っている。また、国際キャリア合宿セミナープログラムの一部である交流会は、参加する受講者にとって、講師とだけではなく、全国から集まる受講生同士で交流を図る絶好の機会でもあり、毎回、学生には好評である。交流会で提供されるドリンクや菓子類は、基本的には参加者の参加費から捻出するが、交流会の趣旨に賛同する協力機関・企業・団体からの寄贈もある。

(2) 実績

平成23年度は本プログラムの運営資金の一部に、JICA地球ひろば、大学コンソーシアムとちぎ、あしぎん国際交流財団から協賛金を、また「国際キャリア開発基礎」「国際実務英語Ⅰ・Ⅱ」「国際キャリア開発特論」のためにキリンビールからドリンク類の寄贈を受けた。

2. 人的支援

(1) 内容

本プログラムは、地域の企業や自治体の国際化ニーズに応える人材を育成するために、国際的な事業を展開している地域の企業・団体・機関などから本プログラムの講師、各種会議メンバーとして、また本プログラムの点検・評価のために、人材面での協力や支援を頂くなど、地域の人的資源の有効活用を図ってきた。

(2) 実績

本プログラム運営に当たっては、最高決議機関である「国際キャリア教育会議」、専門委員会である「国際キャリア合宿セミナー実行委員会」「国際キャリア教育点検・評価委員会」「国際キャリアFD委員」があるが、これらの会議のメンバーには地域の人材を積極的に活用している。

各会議の委員として、栃木県産業労働観光部国際課、(社)栃木県経済同友会、(公財)栃木県国際交流協会、いっくら国際文化交流会、JICA栃木デスク、アジア学院那須セミナーハウス、那須烏山市観光協会の協力を得ており、国際医療福祉大学や連携3大学からも協力教員として数名の教員にメンバーに加わって頂いている。

これら各種の会議では、こうした委員の方々から、インターンシップを受講する前に受講生に参加する意義を確認し、コミュニケーション能力やマナー教育を強化することで、より有意義な実習経験ができる、などの貴重なアドバイスを得ている。

また、講師2名を講演会に、講師7名を国際キャリア合宿セミナーに、栃木県内から招いた。

第3部 点検評価

1. 事業評価

1-1 達成状況の評価結果と判断理由

(1) 国際キャリア教育点検・評価委員会

本事業を公平な観点から点検・評価し、来年度以降さらに改善していくために「平成 23 年度国際キャリア教育会議」を開催し、事業評価を実施した。

評価の方法として、先ず、本事業を主に担当する 3 大学の特任教員と協力教員を中心に評価を実施し、その結果を外部の評価委員を含む国際キャリア教育会議が審議した。

「平成 23 年度国際キャリア教育会議」の詳細は、以下の通りである。

・「平成 23 年度国際キャリア教育会議」

「国際キャリア教育点検・評価委員会」と合同開催された平成 24 年 2 月の「国際キャリア教育会議」で「平成 23 年度総合報告書」が審議、決定された。

・主な議題

- ① 国際キャリア開発プログラムの自己評価・外部評価の方法について
- ② 国際キャリア開発プログラムの評価項目・内容・基準について
- ③ その他

平成 24 年 2 月の「国際キャリア教育会議」における、本プログラムの点検評価に関する主な意見は、次の通りであった。

・キャリア教育においてインターン実習は重要と考えるが、「国際キャリア実習 I・II」の参加者数が少なかった理由として、実習先との日程調整の難しさや学生の興味と相違する実習先が多いことを挙げていたが、自分の興味に合わない実習先で学んだとしても、将来全く役に立たない事はないので、自分の興味・関心に捕われないよう、学生には通常授業などでも周知・広報していく必要がある。また、実習に参加する学生には、実習に対するしっかりとした目的意識を持って参加するよう、より充実した事前指導を行うべきである。

・平成 24 年度以降の、担当者や状況が変わっても活用出来るようにマニュアルを作成するとあるが、資料を残すだけでなく口頭でも引継ぎを行う必要がある。また、事業の活動実績や記録を残すために、新聞や雑誌に記事を掲載してもらうようにもっと活動すべきであった。

・進路や本プログラムが与えた影響など、卒業生の追跡調査をアンケート方式の質的評価のみで行っているが、今後も継続調査を行う上で、5段階評価を含めた量的調査も必要であると考えられる。また、卒業後の追跡調査は連絡先の確保が難しいため、就職内定者の調査は指導教員と連携を図りながら在学中に完了させてほしい。

・個別指導（ポートフォリオ管理）は、特任教員のみが情報を保有するのではなく、指導教員やキャリア教育・就職支援センターとの共有を検討し、全体としてキャリア指導を行う必要がある。

(2) 定量的評価と判断理由

① 平成23年度に本取組は完成年度を迎える。「国際実務英語Ⅱ」及び「国際キャリア実習Ⅱ」(海外インターンシップ)が開講される。特任教員及び事務職員は継続雇用する。		
<評価項目>	5段階評価	判断理由
地域連携	4	地域の学生や社会人を対象に「国際実務英語Ⅱ」(国際キャリア合宿セミナー)を提供した。地域から招聘した講師は、白鷗大学と栃木県にある「風のがっこう」の2名であった。「国際キャリア実習Ⅱ」には、地域の学生や社会人(10名)が参加した。栃木県の市民団体「いっくら国際文化交流会」は国際交流基金から助成金100万円を獲得して、「国際キャリア実習Ⅱ」のためのモンゴルへのスタディツアーを企画し、3名が参加した。本プログラムで雇用された事務員2名と特任教員2名は、栃木県在住者である。
予算執行	4	「国際実務英語Ⅱ」では、会場費・講師謝金・旅費の支出が適正に執行された。「国際キャリア実習Ⅱ」では、モンゴル、ネパール及びルワンダでの実習の引率者に旅費が支給された。中国、カナダ、フィリピンの実習は募集定員に満たないため、実施しなかった。特任教員及び事務職員の人件費と福利厚生費は、各大学の会計基準に従い支給された。
人事・組織	4	「国際実務英語Ⅱ」では、学生実行委員10名が運営に協力した。「国際キャリア実習Ⅱ」は、連携3大学の特任教員、協力教員、並びに「国際キャリア教育会議」外部委員と密接に連携をとって実施している。特任教員、専任教員、雇用職員を本事業の実施主体として配置し、宇都宮大学を中心に運営する組織体制が継続された。
法令遵守	4	「国際実務英語Ⅱ」と「国際キャリア実習Ⅱ」は、「国際キャリア教育会議」の承認と助言を得て実施された。「国際キャリア実習Ⅱ」では、実習先と本プログラム間の協定書、実習先と実習生間の誓約書、また実習生と本プログラム間の覚書により、それぞれの遵守事項を規定した。特任教員と事務職員は、採用するそれぞれの大学の基準で引き続き雇用された。
説明広報	4	「国際実務英語Ⅱ」は、特任教員及び協力教員の学生への呼びかけ、ちらし、ポスター、メールマガジンやHP等を使った広報により、全国から学生や社会人の応募があった。「国際キャリア実習Ⅱ」は、連携3大学それぞれでインターンシップ説明会を開き、受入団体の担当者も招いて、制度や受入先の説明を行った。特任教員のプロフィールは、HPで紹介している。
継続性	4	「国際実務英語Ⅱ」の企画運営に学生が関わることにより、学生主体の運営スタイルが確立し、本プログラムの継続性が強化された。「国際キャリア実習Ⅱ」のインターンシップ協定書には、締結者のいずれからも申し出がない限り、自動的に1年間延長する条文を設け、継続性を確保した。各大学は特任教員、専任職員を確保して、事業を継続した。
全体評価	4	「国際実務英語Ⅱ」には31名の高い英語力を備えた学生や社会人が参加し、分科会では「クリーンエネルギー政策」「ビジネス文化の違い」「開発と人権」「紛争解決と国際司法」といった専門性の高いテーマが英語で議論された。外務省職員、青年海外協力隊経験者を含む社会人が全体の30%近くを占め、学生だけでなく社会人にも、全国でも稀な英語による合宿セミナーのニーズが高いことが実証された。「国際キャリア実習Ⅱ」には、初年度にも関わらず、ルワンダに8名(4名は大学コンソーシアムとちぎ加盟校以外の学生)、モンゴルに6名(3名は大学コンソーシアムとちぎ加盟校以外の学生)、ネパールに3名(1名は社会人)、インドに1名が参加し、海外での貴重な実務経験を積んだ。雇用の継続、人事、法令順守については、計画通り実施された。
② 「国際キャリアFD委員会」を開催し、平成23年度活動方針案を作成		
地域連携	—	—
予算執行	4	「国際キャリアFD委員会」は、連携3大学の特任教員、協力教員、事務職員で構成されているため、旅費のみが予算執行の対象となる。旅費の予算執行は、ほぼ計画的であった。
人事・組織	3	「国際キャリアFD委員会」は連携3大学の特任教員と協力教員、事務職員で構成されて会合を重ねてきているが、教育研究業務で多忙な協力教員の参加の少なさが課題である。

法令遵守	4	「国際キャリア FD 委員会」は、規定に従って運営されている。旅費は宇都宮大学の会計基準に従い、適正に支給されている。
説明広報	4	平成 23 年度活動内容は「国際キャリア教育会議」で審議、決定され、ちらし、ポスター、メールマガジン、HP を通じて全国に広報された。「国際キャリア FD 委員会」企画の講演会は、ちらし、メールマガジン、HP で広報し、講演会の内容は HP で報告された。
継続性	3	教育研究業務との両立が困難である協力教員が本プログラムの運営に携われるように、また平成 24 年度以降の引き継ぎを考慮して、「国際キャリア FD 委員会」は通常開催される宇都宮大以外に、白鷗大学で2回、作新学院大学で1回開催された。協力教員の継続的な参加が課題である。
全体評価	3	「国際キャリア FD 委員会」は合宿セミナー、実習、講演会、研修会等を実施してきたが、協力教員の「国際キャリア FD 委員会」への更なる出席が望まれる。「国際キャリア FD 委員会」が企画した講演会は、宇都宮大学 2 回(参加者は外部者7人を含む計 150 人)、作新学院大学1回(参加者 204 人)、白鷗大学 1 回(参加者 32 人)の計 4 回にのぼった。
③ 「国際キャリア教育会議」で平成 23 年度活動方針を審議・決定		
地域連携	4	地域の公的機関、経済団体・市民団体、自治体から委員を招き、地域のニーズやアイデアが反映された活動方針を決定した。
予算執行	4	宇都宮大会計基準に従い、委員への謝金や交通費が支給された。
人事・組織	4	会議は公的機関、経済団体・市民団体、自治体、各大学の特任教員・協力教員・事務職員で構成され、本取組の責任者が議長を務め、平成 23 年度の活動計画が審議、決定された。平成 24 年度以降の活動方針についても了承を得た。
法令遵守	4	「地域の大学連携による学生の国際キャリア開発プログラム」の実施に関する規定により運営された。
説明広報	4	専用 HP で規定や委員名簿を公表し、委員に異動があればただちに更新している。
継続性	4	「国際キャリア教育会議」での審議や決定には、「国際キャリア合宿セミナー実行委員会」の外部委員の意見や経験が活かされている。本補助事業終了後も、本会議は連携3大学と地域関連機関のネットワークとして継続される見込みである。
全体評価	4	地域のニーズやアイデアが反映された平成 23 年度活動方針が審議・決定された。3年間の運営により、国際キャリア教育会議の機能が確立された。
④ 「国際キャリア合宿セミナー実行委員会」の開催		
地域連携	4	公的機関、地域の経済団体・市民団体、自治体から委員を招き、地域のニーズやアイデアを企画や運営に取り入れた。
予算執行	4	宇都宮大会計基準に従い、委員への謝金や交通費が支給された。
人事・組織	4	委員会は公的機関、地域の経済団体・市民団体、自治体、各大学の特任教員・協力教員・事務職員、学生実行委員で構成され、特任教員が議長を務め、本取組の活動内容が審議、決定された。
法令遵守	4	「国際キャリア合宿セミナー実行委員会内規」により運営された。
説明広報	4	専用 HP で委員会内規や委員会名簿を公表し、委員に異動があればただちに更新している。
継続性	4	外部委員の経験や学生の意見が活かされている。本補助事業終了後も、本委員会は3大学と地域関連機関のネットワークとして継続される見込みである。
全体評価	4	地域や学生のニーズやアイデアを取り入れながら、国際キャリア合宿セミナーの企画・運営案を審議・決定する機能が確立された。
⑤ 平成23年度プログラムのパンフレット作成、「大学コンソーシアムとちぎ」構成大学、全国の大学への広報と参加依頼		
地域連携	4	「大学コンソーシアムとちぎ」発行の地域広報誌『とちぎキャンパスネット』の協力を得て、地域の大学・行政・産業界・団体にプログラムの広報を行った。また、パンフレットやメールマガジンなどの広報媒体を効果的に活用し、地域や全国の学生・社会人に応募を呼び掛けた。本プログラムの全6科目は、「大学コンソーシアムとちぎ」の公

		開講座として県内 19 大学に提供されている。
予算執行	4	パンフレットの改訂、ちらし・ポスターの作成に当たっては、ほぼ計画通りに予算を執行した。
人事・組織	4	特任教員と事務職員が中心になり、協力教員の協力も得て広報活動を行った。
法令遵守	4	宇都宮大学会計基準に従い、適正な価格で発注した。メールマガジンの取り扱いでは、個人情報保護を徹底している業者を選択した。
説明広報	4	各科目のコンテンツを「大学コンソーシアムとちぎ」及び宇都宮大学国際学部の平成 23 年度シラバスに掲載した。本プログラムの HP は、外部機関・団体とリンクを張っている。メールマガジンの登録者 184 人(平成 24 年 1 月時点)に適宜、特任教員から情報を発信している。パンフレットやチラシは、全国の国際関連学部を有する大学(約 160 校)及び協力教員・機関・団体へ配布した。さらに国際協力関連団体の HP 上の掲示版やメールマガジン等により、全国へ本セミナーの参加募集案内を発信すると共に、特任教員のツイッターやブログ等で積極的に情報提供を行った。これらの広報によって、特に「国際実務英語Ⅱ」や「国際キャリア開発特論」に連携3大学以外の学生や社会人の参加者が増えた(全参加者の 65%)。
継続性	4	「国際キャリア合宿セミナー」の申し込みフォームにメールマガジンの登録希望欄を設けて、読者数を増やした。メールマガジンの発信は、ほぼ定期的に行われた。
全体評価	4	「国際キャリア合宿セミナー」のちらしに、「国際キャリア開発基礎」「国際実務英語Ⅰ」「国際実務英語Ⅱ」全ての情報を統合し、分かりやすく効率的に広報活動を行った。また、写真を掲載して、セミナーのイメージがつかめるよう工夫した。さらに、連携3大学以外にも協力教員をおいて学生への直接的な呼びかけを行い、より効果的な広報を実施した。また、「国際キャリア開発特論」の分科会講師1名が所属大学学生への広報など、本プログラムへの継続的な協力を申し出た。
⑥ 「国際キャリア実習Ⅱ」に関する海外実習先の確定		
地域連携	4	海外実習先の選定に当たっては、栃木県内に本社を置いて海外展開している企業を優先的に選択した。
予算執行	4	宇都宮大学会計基準に従い、海外実習先の選定や交渉を行うための海外出張旅費の支出は適正に執行された。
人事・組織	4	全ての海外実習先について、相手側の責任者、本プログラム側の窓口担当者を明確にした。
法令遵守	4	実習先と本プログラム間の協定書、実習先と実習生間の誓約書、また実習生と本プログラム間の覚書により、遵守事項を規定した。
説明広報	4	海外実習先には本プログラムの趣旨を説明し、受入への協力を得た。学生に対してはチラシ、HP による広報を行うとともに、協力教員の授業時間を活用して直接学生に参加を呼び掛けた。
継続性	4	海外実習先と締結する協定書は、1年後に双方からの異議申立てがなければ自動的に1年間延長される、継続を前提とした協定内容にした。
全体評価	4	国際協力・国際理解・国際交流・国際ビジネス・観光まちづくりなどの分野で、アジア、アフリカ、ヨーロッパ、北南米 18 か国・37 か所の実習先を確保し、学生の選択肢を広げた。モンゴルとネパールでは、実習先の確保に加えて、現地での協力体制(緊急医療など)も整備した。
⑦ 教科書刊行の計画策定		
地域連携	4	『グローバルキャリア教育～グローバル人材の養成～』の著者 19 名には、国際キャリア合宿セミナー講師3名、特任教員3名、協力教員2名の連携3大学関係者と地域在住者の計8名が含まれる。
予算執行	—	—
人事・組織	4	本プログラムの取組責任者を出版企画の責任者とした。
法令遵守	—	—
説明広報	4	国際キャリア教育会議で出版計画とその進捗状況を関係者に説明した。

継続性	4	責任者は、執筆経験のない実務家に対して綿密な打合せを行い、出版企画を進めた。
全体評価	4	過去2年間に招聘した講師すべてに出版計画を通知し、そのうち19名(日本人17名、外国人2名)が執筆に同意した。
⑧「国際キャリア開発基礎」「国際キャリア実習Ⅰ」「国際キャリア実習Ⅱ」「国際実務英語Ⅰ」「国際実務英語Ⅱ」を開講。「国際キャリア実習Ⅰ」「国際キャリア実習Ⅱ」は随時開講		
地域連携	4	栃木県の学生や社会人が「国際キャリア開発基礎」75名、「国際実務英語Ⅰ」33名、「国際実務英語Ⅱ」9名、「国際キャリア実習Ⅰ」16名、「国際キャリア実習Ⅱ」10名参加した。栃木県にある作新学院大学、白鷗大学、足利工業大学、アジア学院、「風のがっこう」から講師7名を招聘した。会場には、白鷗大学と県内のNPO法人「昭和ふるさと村」を利用した。
予算執行	4	会場費・講師謝金及び旅費の支出は宇都宮大学会計基準に従い、適正に執行された。
人事・組織	4	「国際キャリア開発基礎」では学生インターン1名とボランティア3名を含む実行委員会が、「国際実務英語Ⅰ」「国際実務英語Ⅱ」では学生実行委員10名がそれぞれ運営に協力した。
法令遵守	4	「国際キャリア合宿セミナー実行委員会内規」に従って、運営された。
説明広報	4	HP、全国の大学、国際開発学会などへの広報と、特任教員及び協力教員の学生への呼びかけで、「国際キャリア開発基礎」に97名、「国際実務英語Ⅰ」に43名、「国際実務英語Ⅱ」に31名が参加した。また、「国際キャリア実習Ⅰ」に16名、「国際キャリア実習Ⅱ」に10名が参加した。
継続性	4	従来の国際キャリア合宿セミナーでは、全プログラムが宿泊会場で行われていた。今回は初めて「国際実務英語Ⅰ」「国際実務英語Ⅱ」の初日のプログラム(開会式及び全体講義等)を白鷗大で行った後に、会場を宿泊場に移した。この措置により、白鷗大学や宇都宮大学の一般教員15名が「国際キャリア開発基礎」「国際実務英語Ⅰ」「国際実務英語Ⅱ」を参観した。これにより、国際キャリア合宿セミナーの意義を理解する教員が著しく増加した。
全体評価	4	「国際キャリア開発基礎」で行われた全体講義「クリティカル・シンキング」の評判は大変高く、学生は質問する重要性を学び、分科会での活発な議論につながった。従来、扱わなかった建築文化、小型風車や映画作りの分科会を加えることにより、学生はより広い視野で国際キャリアを学んだ。東日本大震災の教訓も含めた「防災マネジメント(災害時の人道救援活動)」の全体講義で、学生はボランティア活動における安全管理、国内における災害救援活動の実態を学んだ。参加者は、「国際実務英語Ⅰ」では英語でのコミュニケーションの重要性を学び、「国際実務英語Ⅱ」では問題解決力や専門知識を英語で身につけた。どの合宿セミナーでも、白熱した議論や講師との交流は参加者に刺激を与え、キャリア意識の明確化に役立った。但し、「国際実務英語Ⅱ」では連携3大学生の参加が少なかったため、英語レベル、テーマ、プログラムの内容を再検討する必要がある。「国際キャリア開発基礎」「国際実務英語Ⅰ」「国際実務英語Ⅱ」に共通する課題として、講師の人选、分科会(グループワーク)の進め方、講師と実行委員間の調整が挙げられたため、「国際キャリア開発特論」の企画・運営に反映させた。「国際キャリア実習Ⅰ」では16名が10か所で、「国際キャリア実習Ⅱ」では実施初年度にも関わらず10名が4か所で、国際的な実務を経験した。「国際キャリア実習Ⅰ」の受講生が少なかった理由は、東日本大震災による受入れ先の被災、復興のための学生ボランティア活動の活発化、実習先の希望日程と大学行事の重複等であった。
⑨本プログラムの見直し、本プログラムのマニュアル整備に着手		
地域連携	4	「国際キャリア教育委員会」で地域の関係団体から助言を得ることで、プログラム改善に努めた。また、国際キャリア合宿セミナーでは、参加者のレポートとアンケート、講師・大学関係者へのアンケートにより、改善点を把握してプログラム改善に生かしている。
予算執行	—	—

人事・組織	4	プログラムの見直しについては、特任教員が中心となり、協力教員、事務職員、関係団体の協力を得て行っている。マニュアル整備は、特任教員と事務職員が協力し進めている。
法令遵守	—	—
説明広報	—	—
継続性	4	「国際キャリア教育委員会」の定期開催により、不断にプログラム改善に努めている。また、国際キャリア合宿セミナー、講演会やイベントを開催する際には必ずアンケートを実施して、プログラムに反映させている。
全体評価	4	本プログラムの見直しについては、「国際キャリア教育会議」、国際キャリア合宿セミナーや講演会を通じて関係者から助言をもらい、積極的に取り組んだ。国際キャリア合宿セミナーのアンケートやレポートから参加者の反響を読み取り、関心の高いテーマを取り入れるなど、国際キャリア合宿セミナーの内容を改善した。マニュアル整備については、教員用と運営用の2種類の業務マニュアルを作成中であり、来年度以降の企画運営に役立てる予定である。
⑩ 「国際キャリア開発特論」を開講		
地域連携	4	「国際キャリア開発特論」には、栃木県の学生や社会人が23名参加した。栃木県の「風のがっこう」と(株)東京フードから2名の講師を招聘した。
予算執行	4	宇都宮大学の会計基準に従って、会場費、講師謝金、旅費の支出は適正に執行された。
人事・組織	4	学生実行委員3名が「国際キャリア開発特論」の運営に協力した。
法令遵守	4	「国際キャリア合宿セミナー実行委員会内規」に従って、運営された。
説明広報	4	HP、メールマガジン等による全国の大学への広報と、特任教員及び協力教員の学生への呼びかけで、全国から54名が参加した。
継続性	4	「国際実務英語Ⅰ」「国際実務英語Ⅱ」に引き続き、初日を担当校(宇都宮大学)で行うように変更したため、宇都宮大の一般教員が多数参観し、「国際キャリア開発特論」の意義を広く伝えられた。
全体評価	4	「クリエイティブ・シンキング」の全体講義では、固定観念にとらわれない自由な発想でキャリアについて考える重要性を学んだ。国際キャリア合宿セミナーでは、今回初めて参加目標とキャリアデザインを書き込むシートを参加者に配布した。また、最終日のキャリアデザインに関する意見交換によって、参加者はより長期的なビジョンでキャリアを考えるようになったことは評価できる。課題としては、「国際キャリア開発基礎」と「国際キャリア開発特論」の明確な差別化、分科会の進行方法、参加者同士の意見交換の機会の確保などがある。また、事務的な理由で1月上旬に開催した「国際キャリア開発特論」が成人式と重なり、20歳の多くの学生が参加できなかった。連携3大学からの参加者(参加者54人中23人)が減少したことは、本プログラムの全国的認知を示すが、連携3大学にとってより適切な開催時期や分科会のテーマなどを再検討する必要がある。
⑪ 「国際キャリア教育点検・評価委員会」の開催(事業評価、教育評価)		
地域連携	4	「国際キャリア教育点検・評価委員会」の外部委員(栃木県の自治体、学校法人など)から本プログラムの評価を聴取した。意見は本報告書にとりまとめ、平成24年以降の本事業に反映させる予定である。
予算執行	4	宇都宮大学の会計基準に従い、外部委員の交通費、謝金を適切に予算執行した。
人事・組織	4	特任教員・協力教員に加え、外部からの評価委員を「国際キャリア教育点検・評価委員会」に迎え、点検・評価を行った。
法令遵守	4	「国際キャリア教育点検・評価委員会内規」により運営された。
説明広報	4	外部機関からの点検・評価委員を交えて、事業の成果や課題について率直かつ透明性の高い説明を行った。点検・評価結果は本報告書において公表される。
継続性	4	地域の団体や関連教員とはこれまで良好な関係が維持されており、点検・評価活動は今後も地域の団体や大学教員によって継続されていくことが予想される。

全体評価	4	「国際キャリア合宿セミナー」や「国際キャリア実習」の内容を熟知した外部委員により、本事業は厳正かつ客観的に点検・評価された。
⑫ 「平成 23 年度総合報告」を「国際キャリア教育会議」で審議・決定する		
地域連携	4	栃木県の外部委員の指摘は、本報告書に反映されている。
予算執行	4	宇都宮大学会計基準に従い、委員への謝金や交通費が支給された。
人事・組織	4	「国際キャリア教育会議」は公的機関、地域の経済団体・市民団体、各大学の特任教員・協力教員・事務職員で構成され、本取組の責任者が議長を務める。
法令遵守	4	国際キャリア教育会議は「地域の大学連携による学生の国際キャリア開発プログラム」の実施に関する規定により運営されている。本報告書の記載事項は個人情報保護等の観点から適正である。
説明広報	4	平成23年度総合報告書は HP で公開と共に、冊子として関係者に配布される予定である。
継続性	4	教育会議の委員は主に地域の団体や大学教員が担っているため、地域との良好な協力関係が続く限り、報告の作成や審議は継続される。
全体評価	4	「国際キャリア教育会議」で、外部委員の意見を取り入れた平成23年度総合報告書が審議・決定された。
⑬教科書の刊行		
地域連携	4	『グローバルキャリア教育～グローバル人材の養成～』（ナカニシヤ出版、平成 24 年3月出版予定）の刊行に協力して、連携3大学関係者と地域在住者の7名は原稿を執筆した。
予算執行	4	原稿料と教科書購入費は、宇都宮大学の会計基準に則り、適切に予算執行された。
人事・組織	4	本プログラムの取組責任者は、出版企画および刊行に関わる業務を適切に実施した。
法令遵守	4	原稿に引用資料がある場合は著作権法に留意して、当該資料の出版元に掲載の許可を取った。学生の個人名は個人情報保護法に留意して、掲載しなかった。
説明広報	4	国際キャリア教育会議で出版の進捗状況を関係者に説明した。HP で出版につき広報した。
継続性	5	教科書は今後、国際キャリア合宿セミナーで使用され、本プログラムの継続性を保証する重要な基盤（教材）となる。
全体評価	5	教科書は単なる講演記録集ではなく、本プログラムの成果を概括した国際キャリア教育に関する初めての理論書でもある。国際キャリア教育をグローバル人材育成の観点から理論化したのは、期待以上の成果である。国際的な舞台で活躍を目指す、あるいは、国際的なキャリアを学ぶ学生・社会人にとっての標準的教科書となる。
⑭ 総合報告書の作成		
地域連携	4	「平成 23 年度総合報告書」には、栃木県の協力機関・団体も構成メンバーとなる「国際キャリア教育点検・評価委員会」による事業評価・教育評価が盛り込まれ、地域の意見が反映されている。
予算執行	4	「平成 23 年度総合報告書」の作成、配布は、ほぼ計画通りに執行できる見込みである。
人事・組織	4	「平成 23 年度総合報告書」は特任教員と取組責任者を中心に原案を作成。事業実績は「国際キャリアFD委員会」で審議され、また平成 24 年2月開催の「国際キャリア教育点検・評価委員会」と「国際キャリア教育会議」で審議決定された。
法令遵守	4	個人、企業・法人に関する情報については、関連法令や企業・法人規定に違反しないよう、留意している。
説明広報	4	「平成 23 年度総合報告書」及び「国際キャリア合宿セミナー」（「国際キャリア開発基礎」「国際キャリア開発特論」「国際実務英語Ⅰ」「国際実務英語Ⅱ」と「国際キャリア実習Ⅰ」「国際キャリア実習Ⅱ」の詳細をまとめた「平成 23 年度国際キャリア開発プログラム報告書」は本プログラム関係者及び、全国の国際関連学部を有する大学 160 校に配布する計画である。
継続性	4	「平成 23 年度総合報告書」は、本補助事業終了後も各大学の予算と自助努力で継続的に刊行、あるいは HP 上に公開される見込みである。

全体評価	4	「国際キャリア教育会議」での地域の観点を含めた審議を経ることにより、また教員や学生の意見や考察を記載することにより、地域、教員、学生のニーズや実情に即した内容にまとめられた。また、本報告書の送付により、国際分野での初めてのキャリア教育を実践する本プログラムの成果や課題は、全国の大学や関係機関に公開される見込みである。
------	---	---

・評価対象とした 14 項目

① 平成23年度に本取組は完成年度を迎える。「国際実務英語Ⅱ」及び「国際キャリア実習Ⅱ」(海外インターンシップ)が開講される。特任教員及び事務職員は継続雇用する。
② 「国際キャリア FD 委員会」を開催し、平成 23 年度活動方針案を作成
③ 「国際キャリア教育会議」で平成23年度活動方針の審議・決定
④ 「国際キャリア合宿セミナー実行委員会」を開催
⑤ 平成23年度プログラムのパンフレット作成、「大学コンソーシアムとちぎ」構成大学、全国の大学への広報と参加依頼
⑥ 「国際キャリア実習Ⅱ」に関する海外実習先の確定
⑦ 教科書刊行の計画策定
⑧ 「国際キャリア開発基礎」「国際キャリア実習Ⅰ」「国際キャリア実習Ⅱ」「国際実務英語Ⅰ」「国際実務英語Ⅱ」を開講。「国際キャリア実習Ⅰ」「国際キャリア実習Ⅱ」は随時開講
⑨ 本プログラムの見直し、本プログラムのマニュアル整備に着手
⑩ 「国際キャリア開発特論」を開講
⑪ 「国際キャリア教育点検・評価委員会」の開催(事業評価、教育評価)
⑫ 「平成23年度総合報告」を「国際キャリア教育会議」で審議・決定
⑬ 教科書の刊行
⑭ 総合報告書の作成

・評価における 5 段階評価軸

5:期待以上の成果を挙げた
4:期待通りの事業成果を挙げた
3:概ね許容できる目標達成の状況である
2:目標達成に不満が残る状況である
1:目標がほとんど達成されていない

1-2. 平成 21、22、23 年度の総括

本事業は、平成 23 年度をもって終了することから、事務、運営、教育の 3 つの観点から、3 年間の総括を行った。

(1) 事務

①特任教員及び事務職員の配置

■実績
<p>連携 3 大学は、国連職員、産学官連携コーディネーター、青年海外協力隊経験者を特任教員にそれぞれ採用し、継続的に雇用した（1 名は異動）。宇都宮大学特任教員は、「国際キャリア開発基礎」と「国際キャリア開発特論」を担当し、他の特任教員や講師、関係者と連携して合宿セミナーを実施した。「国際キャリア開発特論」においては、担当特任教員が分科会講師を務めたため、分科会講師との調整、事前運営準備及び当日の運営は白鷗大学、作新学院大学特任教員の協力で行われた。作新学院大学特任教員は、「国際キャリア実習Ⅰ」と「国際キャリア実習Ⅱ」を担当し、実習プログラム制度の確立と実習プログラム全体のとりまとめ、学生への説明・広報を行った。白鷗大学特任教員は、「国際実務英語Ⅰ」と「国際実務英語Ⅱ」を担当し、英語合宿セミナーの企画や運営の中心となって講師や関係者と調整を図りセミナーを実施した。各大学特任教員は必要に応じて、各大学の担当分野を越え、協力して本事業に従事した。</p> <p>特任教員は合宿セミナー講師の候補を推薦し、いずれかの合宿セミナーにおいて自身も分科会講師を務め、講演会や研修等の企画運営も行った。また「国際キャリア実習」においては、各特任教員が実習先の確保と学生の派遣業務にあたり、場合により海外実習の企画・引率を行った。また、グローバルキャリア教育の教科書を分担執筆し、毎年、合宿セミナー・実習報告書、総合報告書、文部省提出用報告書を作成した。大学内では、随時、学生からのキャリア相談に応じた。</p> <p>各大学 1 名事務職員を採用し、継続的に雇用した（3 名は異動）。各大学の事務職員は合宿セミナー、講演会、研修会、会議等に関わる事務・運営業務や実習に関わる書類のとりまとめ、総務及び会計経理処理等に従事した。</p>
■課題
<p>平成 24 年度以降の専任教員を中心とする運営方法を各大学が検討している。特任教員および事務職員が培ったノウハウや経験、ネットワークを平成 24 年度以降にも活用することが望まれる。</p>
■対応策
<p>平成 24 年度以降、本プログラムを学内の人材と財源により運営する方法を各大学で検討している。プログラムを運営するための教員用と事務運営用マニュアルを作成している。</p>

②機材・備品の整備

■実績
<p>特任教員及び事務職員が通常業務に必要とする機材や備品(机、椅子、ロッカー、パソコン、プリンター等)が整備され、効率的な業務環境が整った。「国際キャリア開発基礎」「国際キャリア開発特論」「国際実務英語Ⅰ」「国際実務英語Ⅱ」においては、備品として購入したパソコン、プロジェクター、スクリーンが全体講義や分科会で利用されて、効率的で視覚的な授業が実施された。同機材は、グループ発表時のパワーポイントでの学生のプレゼンテーションにも利用され、合宿セミナーに不可欠な機材となった。</p>
■課題
<p>宇都宮大学が本プログラム実施にあたり購入したPCやプロジェクターは、平成 24 年度以降も「合宿セミナー」等で必要に応じて、連携3大学で共同利用できる協力体制がとられる必要がある。</p>

■ 対応策
平成 24 年度以降の本プログラム運営にあたり、機材の利用と管理を含めた引継ぎを行う。

③業務マニュアルの整備

■ 実績
<p>平成 23 年度には、「国際キャリア開発基礎」「国際キャリア開発特論」「国際実務英語Ⅰ」「国際実務英語Ⅱ」「国際キャリア実習Ⅰ」「国際キャリア実習Ⅱ」の全6科目が開講され、改善点の取り込みによって企画や運営の取り組みはほぼ確立した。これらの企画や運営の経験とノウハウの蓄積を継承するため、運営マニュアルが作成されている。運営マニュアルは、教員用と事務運営用に分かれ、時系列で業務内容や留意点が記されている。</p> <p>「国際キャリア開発基礎」「国際キャリア開発特論」「国際実務英語Ⅰ」「国際実務英語Ⅱ」のマニュアルの場合、教員用には、合宿セミナーの企画や講師決定、講師との調整、分科会や全体講義内容等に関わる業務と留意点が明記されている。また、事務運営用には、広報業務(セミナーのチラシ・ポスター印刷、申し込み受け付けHPの作成等)や後援・協賛団体への依頼、宿泊施設・移動手段(バス)の確保と調整、参加学生対応(参加費、旅行保険等)、しおりや報告書作成等の事務レベルでの合宿セミナー関連業務や手続きが把握できるよう記されている。</p> <p>「国際キャリア実習Ⅰ」「国際キャリア実習Ⅱ」のマニュアルについても、実習プログラム運営に必要な全ての業務が記載されている。</p>
■ 課題
平成 24 年度以降の担当教員や事務職員がマニュアルを活用出来るよう引継ぎが必要とされる。
■ 対応策
特任教員及び事務職員が、平成 24 年度以降の実施担当者にマニュアルを説明して引き継ぎを行う。

(2) 運営

①活動方針の作成、審議・決定

■ 実績
<p>活動方針は「国際キャリアFD委員会」で作成され、「国際キャリア教育会議」で審議・決定される。そして、活動方針や活動内容はHP、ちらし、メルマガ等の広報手段を用いて全国に発信される。</p> <p>「国際キャリア教育会議」は、宇都宮大学副学長、連携3大学教員・事務担当者及び地域の団体の16名から成る。「国際キャリア教育会議」は、平成21年9月に設置以降、同年度に3回、平成22年度に1回(1回は平成23年3月11日の東日本大震災発生により延期)、平成23年度に2回開催された。本会議の設置により、本事業に関して地域や産業界からの理解と支援体制を獲得でき、教育分野ではじめて産学官連携の具体的取組が行われることとなり、実習先の開拓にも役立った。こうした活動方針の作成、審議・決定によって、連携3大学がそれぞれ特色ある教育分野(作新学院大学－経営学部、白鷗大学－教育学部、宇都宮大学－国際学部)を活かしつつ、地域社会のニーズに立脚し、かつグローバルマインドを持った学生を養成する取組を、合宿セミナー、講演会、研修会やインターンシップを通じて実施した。</p>
■ 課題
本来の教育研究業務との両立が困難である専任教員や、地域の経営者団体などのより積極的な参加を促す仕組みを作ることが課題である。
■ 対応策
国際キャリア合宿セミナーの担当校での初日開催を継続して、連携3大学での協力教員を増やすとともに、地域の関連団体への働きかけを強化する。

②運営への学生参加

■実績
平成 21、22、23 年度の「国際キャリア開発基礎」「国際キャリア開発特論」「国際実務英語Ⅰ」「国際実務英語Ⅱ」では、インターンやボランティアなど計 39名が学生実行委員として合宿セミナー運営に協力した。学生は、講演会や公開講義の運営、講師と学生間のトークショーにも積極的に関わった。学生主体の実行委員会を組織することで、当プログラムへの学生の主体的参加を促し、学生自身の企画運営能力が向上した。また教科書作成のために、分科会の記録係の学生6人をアルバイトとして雇用した。
■課題
平成 24 年度以降は、学生実行委員を支援する専任教員の協力が必要である。
■対応策
平成 21 年度から 23 年度までの経験を活かすために、合宿セミナーの経験者を学生実行委員とする。

③点検・評価

■実績
「国際キャリア教育点検・評価委員会」から、下記の指摘を受けてきた。 1. カリキュラム全体目標の設定 2. カリキュラム全体目標達成のための手段 ①教員・講師は適切か ②各科目の設定は適切か(シラバス含む) ③教材は適切か 3. 学生の学習教育目標の達成度評価(カリキュラム修了後) ・学生の成長度が客観的にわかる方法 ・具体的な目標設定により、達成度が測れるような方法 ・目に見える評価だけでは評価しきれず、目に見えない教育効果に重要な価値がある。 2に関しては、シラバスや講師との打合せに反映し、各分科会の参考文献の公開を義務付けた。3に関しては、合宿セミナーの参加目標とキャリアデザインに関するアンケートを作成し、参加者に合宿セミナーの初日と最終日に達成目標度を記載してもらうこととした。ほとんどの参加者が目標達成度が高いと自己評価した。提出レポートや学生との意見交換をもとに教育効果を分析したところ、思考力、人間力、自己分析等に成果が認められた。その他、運営面で下記の改善がなされた。 1. 参加費を格安にするために、会場を県立施設に変更した。 2. キャリアの目標を考えてもらうために、合宿セミナー初日に思考力を高めるワークショップを導入した。 3. 合宿セミナーの分科会のタイトルを職種ではなく専門分野に統一した。 4. 外国出身者や援助を受ける途上国側の人を講師として招聘し、講師を多様化した。 5. 各分科会の最終発表項目を、学んだこと、その根拠とアクションプランとした。 6. プレゼン方法やレポートの書き方、安全管理の講義を導入した。 また、「国際キャリア教育点検・評価委員会」の効率化及び委員の負担軽減を図るため、平成 22-23 年度は「国際キャリア教育会議」と同時開催した。
■課題
「国際キャリア開発基礎」と「国際キャリア開発特論」の明確な区別化、分科会講師の人選、分科会の進行方法、「国際キャリア開発特論」の開催時期、合宿セミナーの開催期間(3泊4日を希望する参加者もいた)について再検討する必要がある。卒業直後に国際的な業務に関わることは一般的には稀であり、またキャリアは長期的に築かれるものである。卒業直後の進路と国際キャリアは直結しないために、大学卒業後の出口調査結果の評価は難しい。「国際実務英語Ⅰ・Ⅱ」の講師を探すことは、英語での講義となるため「国際キャリア基礎・特論」に比べて難しい。

<p>■ 対応策</p> <p>本プログラムが現在の仕事や生活にどう役立ったか等を分析・評価するために、現在行っている卒業生への聞き取り調査を継続し、改善策を検討する。分科会講師の人選、分科会の進行方法、「国際キャリア開発基礎」と「国際キャリア開発特論」の明白な差別化に関しては、講師との事前打ち合わせを綿密に行い、過去の分科会の内容や進行方法の事例を提供し、ワークショップのリハーサル等を通して分科会の進行方法を確認する。</p>

④連携 3 大学及び関係機関への広報

<p>■ 実績</p> <p>本プログラムでは、ハードコピー（パンフレット、ちらし、ポスター、フリーペーパー、新聞広告など）と電子媒体（HP、メルマガなど）を事業内容に合わせて、次のように使い分けてきた。</p> <p>パンフレットは平成 21 年度に本プログラムの概要説明と3年間の事業予定を入れて、二つ折りの総合パンフレットとして 15,000 部作成し、国際関係学部・学科を有する全国大学等に配布し、平成 22 年度にはさらに 8,000 部増刷した。</p> <p>ポスター・ちらしは毎年の国際キャリア合宿セミナーやインターンシップの募集に合わせてセットで作成し、各大学で使用し、また全国の大学へ発送した（ポスター2回、チラシ6回）。国際キャリア FD 委員会主催の講演会・セミナー、ミニ合宿セミナーでは、チラシを作成、県内大学等に配布した。</p> <p>電子媒体はリアルタイムで案内できるので、事業内容の募集案内を HP や本プログラム専用メルマガで適宜、情報発信を行なった。メルマガの場合は、他のメルマガにも掲載を依頼した。</p> <p>新聞広告として、県内の全大学・高校向けに計3万部を年4回発行の『Te-net』に国際キャリア合宿セミナー・インターンシップの募集案内の広告を載せた（5回）。</p> <p>広報効果については、合宿セミナーの参加動機として、2010 年、2011 年の国際キャリア合宿セミナー4回の参加者総数 357 名の内、ポスター・チラシを見て申し込んだ者が 107 名（30%）、HP・メルマガを見て申し込んだ者が 23 名（6.3%）、教員からの案内が 137 名（38.4%）、友人・知人からの口コミが 64 名（17.9%）、その他が 22 名（6.2%）であり、広報の直接効果は参加者総数の 37.5%となる。しかし、広報の効果のみを把握するのは難しく、例えば、ポスター・チラシとした者の中にはゼミ教員の勧め、友人からの紹介などの影響がある。</p>
<p>■ 課題</p> <p>平成 24 年度以降は予算が限られてくるため、コストパフォーマンスの良い広報を見極める必要がある。</p>
<p>■ 対応策</p> <p>HP やメルマガ以外にも、ブログ、ツイッター、フェイスブックなど、経費のかからない電子媒体の活用が考えられる。</p>

⑤報告書の作成

<p>■ 実績</p> <p>事業実績や点検評価をまとめた「総合報告書」、合宿セミナーや実習などの事業内容をまとめた「国際キャリア開発プログラム」を毎年度作成し、国際関係学部・学科を有する全国の大学に毎年 200～300 部発送している。また、HP にも全容を公開し、誰でも内容を確認できるようになっている。</p>
<p>■ 課題</p> <p>平成 24 年度以降は、経費を削減する必要がある。</p>
<p>■ 対応策</p> <p>平成 24 年度以降は、配布先を絞り込み部数を削減するか、HP 上に PDF 化して公開する。</p>

(3) 教育プログラム

①「国際キャリア開発基礎」「国際キャリア開発特論」「国際実務英語Ⅰ」「国際実務英語Ⅱ」の開講

■実績

「国際キャリア開発基礎」(平成 21, 22, 23 年度開講)に計 321 名、「国際キャリア開発特論」(平成 22, 23 年度開講)に計 130 名が参加した。いずれの科目も初日の全体講義に能動的学習、ロジカルシンキング、クリティカル・シンキング、クリエイティブという思考法を導入した。分科会では、活発な意見交換がなされ、レポートとアンケート結果を総合すると、参加者は意欲や問題意識が高まり、自己のキャリアを長期的な視点で前向きに考えるようになり、専門分野の知識を深めたことが伺える。

「国際実務英語Ⅰ」の参加者数は、平成 22 年度 54 名、23 年度 43 名の計 97 名であった。全体講義では、外国語習得スキルの授業、議論やプレゼンテーションに役立つ英語表現の演習が行われ、分科会では個別の専門的なテーマが取り上げられた。日常会話も英語で行うことで、授業中だけでなく日常生活でも英語を自然に話す環境が作られた。国際キャリア合宿セミナーの収穫として、「間違いを恐れずに積極的に英語で話す大切さ」「様々な人と出会いやコミュニケーションの大切さ」「他の参加者からの刺激」そして「英語学習への意欲」がアンケートに多く挙げられた。

平成 23 年度には「国際実務英語Ⅱ」を「国際実務英語Ⅰ」と同時開催し、「国際実務英語Ⅱ」には 31 名が参加した。全体講義では問題解決スキル、分科会では専門性の高いテーマを英語で学ぶ機会を提供した。他大学学生、社会人の参加が多く、様々なバックグラウンドと高い英語力を備えた参加者による活発な議論が行われ、専門知識の習得と実践的な英語力向上の場となった。

「国際実務英語Ⅰ・Ⅱ」では、英語を使った実践的コミュニケーションや国際的な仕事に就くことを強く希望する学生や社会人が多く、多様なバックグラウンドの参加者同士や講師との交流が、英語学習や国際的なキャリアへの意欲を高め、キャリア形成に向けた人的ネットワーク構築の機会となった。

宇都宮大学は「国際キャリア開発基礎」「国際キャリア開発特論」「国際実務英語Ⅰ」「国際実務英語Ⅱ」を国際学部専門科目(卒業単位)として、また「大学コンソーシアムとちぎ」の科目として県内 19 大学等に提供している。白鷗大学では、「国際キャリア開発基礎」と「国際実務英語Ⅰ」を経営学部専門科目(「専門特講Ⅰ」)として、他の 2 科目は自由選択科目として認定している(いずれも卒業単位)。作新学院大学では、いずれの科目も学生の所属学部の専門科目に振り替えて認定している(人間文化学部を除き卒業単位)。

■課題

「国際キャリア開発基礎」と「国際キャリア開発特論」の全体講義では国際キャリアの特色を説明する必要がある。分科会ではアフリカだけでなく他の地域も扱うよう配慮する。

「国際実務英語Ⅰ・Ⅱ」は英語の講義となるため、講師の候補やテーマが限られる。

「国際実務英語Ⅱ」においては、連携 3 大学からの参加学生数(全体の 20%)が少なかった。専門性の高いテーマを英語で学ぶ点で、ハードルが高いと感じた学生が多かったと思われる。また、分科会のテーマが連携 3 大学の学生に合ったものであったか、検討が必要である。

■対応策

全体講義の講師とその内容につき、密に事前打ち合わせを行う。「国際実務英語Ⅱ」については、求められる英語レベル、分科会テーマ、全体講義の内容等を連携 3 大学の学生のニーズに合ったものとなるよう、これまでの経験をもとに検討する。「国際実務英語Ⅰ・Ⅱ」の講師選出においては、専任教員の人的ネットワークを活用し、よりニーズにあったテーマを扱う講師を探し、対象地域の多様化も図る。

②「国際キャリア実習Ⅰ」「国際キャリア実習Ⅱ」の開講

<p>■実績</p>
<p>「国際キャリア実習Ⅰ」は22年度から受入先27か所を設け、13か所で延べ32名が受講した。「国際キャリア実習Ⅱ」は23年度から受入先37か所を設け、4か所で延べ9名が受講した。</p> <p>実習生の評価は高く、多くが5段階評価で4～5をつけている。想像と現実の違い、実社会の厳しさ、将来を改めて考えるきっかけなど、多くを学んだことが報告書から伺われる。受入先の実習生に対する評価も良好で、多くが5段階評価で3～5に集中していて、好意的なコメントを記している。</p> <p>宇都宮大学は「国際キャリア実習Ⅰ」「国際キャリア実習Ⅱ」を国際学部専門科目（卒業単位）として、また「大学コンソーシアムとちぎ」の科目として県内19大学等に提供している。この2科目は、白鷗大学では自由選択科目（卒業単位）として、作新学院大学では学生の所属学部の専門科目（人間文化学部を除き卒業単位）に振り替えて認定している。</p>
<p>■課題</p>
<p>実習先が多岐にわたり、実習希望者の選択肢は広いが、何年も実習希望者のいない受入先もあり得る。学生の希望や動向を探りながら、受入先の絞り込みが必要であろう。</p> <p>海外実習を希望する学生が海外渡航経験に乏しい場合、安全管理の面で丁寧な事前研修や旅行手配を行う必要があり、教員の十分な支援が不可欠である。</p> <p>大学でスタディーツアーを企画し、不特定多数に募集を呼びかけた場合、「募集型企画旅行」となり、実施には旅行業の登録が必要となる。無登録で実施した場合、旅行業務法違反にあたるという指摘がある。実際は、様々な団体が「旅行業」という認識なくツアーを実施しているといわれており、企画したツアー等が旅行業に当てはまるかどうかの判断も旅行会社によって異なるという（旅行会社に相談した場合）。海外実習を企画する際には、必要に応じて経験と知識のある旅行会社や関係者に相談するなどの対応が望まれる。</p> <p>旅行会社が実施する「募集型企画旅行」の場合、死亡事故の際の死亡補償金や賠償金（賠償責任保険に加入している旅行会社のみ）は旅行会社より支払われる。大学でスタディーツアーを企画・募集する場合、旅行会社による「募集型企画旅行」の形式をとり、責任の所在を明確にし、より確実な対応策を備えることも一つの方法である。しかし、費用や旅行スケジュールの自由度の点で課題もある。現在、実習生は必ず海外旅行保険に加入して実習に参加しているが、実習中に死亡事故や重大な事故等が起きた場合、責任はだれが負うのかという問題がある。実習に参加する際「参加者の自己責任を確認する書類」を参加者が大学や旅行主催団体と取り交わすことがあるが、法的にはあまり意味をなさないといわれている。</p>
<p>■対応策</p>
<p>連携3大学の協力教員をはじめ、多くの教員の意見を聴取する。学生に聞き取り調査を行い、ニーズや要望を探る。スタディーツアー形式の実習には、海外に慣れていない学生も参加しやすくなるため、このような形式を前向きに検討すべきであろう。また実習の事前研修だけでなく、事前勉強会を行うことにより、学生の関心や意欲が高まる。</p> <p>海外渡航経験の乏しい学生が海外実習を希望する場合、安全確保の面からグループで行動し教員が引率する形式や、引率者が日本から同行する外部のスタディーツアーに参加するなどの形式が望ましい。実習からリスクを完全に排除することは難しいが、リスクに対する認識と最善の安全管理、万が一の時の対応と責任の所在を大学とプログラム実施者の間で確認しておくことが重要である。</p>

③講演会、公開講義、研修会等の開催

<p>■実績</p>
<p>平成22-23年度に開催された講演会、公開講義、ブレインストーミングは計15回にのぼり、計1,134名(連携3大学以外の参加者を含む)が参加した。テーマはソーシャル・ビジネス、農業、人権、観光、キャリア、大学教育、合宿セミナーの運営とさまざまで、学生の知識と意欲が高まった。公開講義1回は英語で行われた。国際キャリア合宿セミナーの分科会ファシリテーターのために、事前研修が3回行われ、分科会の運営</p>

だけでなくサークル活動にも役立った。

■課題

連携3大学だけでなく、栃木県の地域関係者や市民にも参加してもらうように、広報を強化する。「国際実務英語Ⅰ」「国際実務英語Ⅱ」の開催後に、英語の講座等を企画すると、学生の英語コミュニケーション力が高まる。

■対応策

高校を含む、栃木県の教育機関などにチラシを送付する。英語の講座に関しては、教員が「国際実務英語Ⅰ」「国際実務英語Ⅱ」の参加者と共に企画したり、勉強会を開くなど工夫が求められる。

④教科書の刊行

■実績

平成 22, 23 年度の「国際キャリア開発基礎」「国際キャリア開発特論」「国際実務英語Ⅰ」「国際実務英語Ⅱ」に招聘した全講師 37 人に出版計画を通知し、そのうち 19 名（日本人 17 名、外国人 2 名）が執筆に同意した。教科書は単なる講演記録集ではなく、本プログラムの成果を概括した国際キャリア教育に関する初めての理論書でもある。国際キャリア教育をグローバル人材育成の観点から理論化したのは、期待以上の成果である。国際的な舞台で活躍を目指す、あるいは、国際的なキャリアを学ぶ学生・社会人にとっての標準的教科書となる。また、将来講師に依頼する時に教科書を見せることで学生との議論や進行方法等の詳細が理解しやすくなる。教科書にすることでプログラムの取組みとして記録に残る。

■課題

平成 24 年度以降の合宿セミナーにおいて、講師が教科書をどのように活用できるか検討する必要がある。

■対応策

平成 24 年度以降に担当する専任教員で、活用方法を話しあう。

⑤個別指導

■実績

特任教員と協力教員は、所属大学学生のみならず、連携3大学学生を対象に随時、合宿セミナーなどの機会を活用し、キャリア形成や国際問題に関するイベント開催などの相談にのり、適切に助言した。特任教員のネットワークや経験を学生と共有することにより、学生のニーズと希望にあったキャリアパスを指導した。個別指導の内容を記録し、学生指導を効率化するために、平成 21-22 年度に電子ポートフォリオのひな型が作成された。ポートフォリオ作成の対象者は、6科目のいずれかに参加した連携3大学学生である。個人面談では、当該学生の提出したレポートなどを納めたポートフォリオを参考に個人面談を行い、面談結果はポートフォリオに記録した。

■課題

合宿セミナーに参加していない学生は、特任教員よりも指導教員にキャリアを相談するケースが多い。学生への指導内容をその度に電子ポートフォリオに記載することが困難であった。

■対応策

キャリア指導では、指導教員とキャリア・就職支援センターが個別指導の内容を共有すると、より効果的な指導が期待できる。電子ポートフォリオの使用必要性を再検討する。「国際キャリア」の専用スペース設置を検討する。

2. 授業評価

合宿セミナー（「国際キャリア開発基礎」「国際キャリア開発特論」「国際実務英語Ⅰ」「国際実務英語Ⅱ」）と実習（「国際キャリア実習Ⅰ」「国際キャリア実習Ⅱ」）を経験した学生の思考や行動の変容を示す学生レポートやアンケートの記述には、つぎのようなものがあった。

2-1 合宿セミナーの成果

1. 質問力（「国際キャリア開発基礎」）

- ・クリティカル・シンキングを学んだことによって、相手の話を鵜呑みにすることなく、問題の所在を自分で深く考えるようになった。
- ・自分のキャリア像を決める前に、「なぜそう考えるのか？」と自己に問う重要性を理解した。

2. 問題解決力（「国際キャリア開発特論」・「国際実務英語Ⅱ」）

- ・固定観念にとらわれると思考の幅が狭くなり、自身のキャリアの可能性が制限されることを知った。
- ・クリエイティブ・シンキングは枠組みにとられない自由な発想法であり、新しい可能性を生み出す問題解決型の思考プロセスであることを理解した。

3. 自己分析力（「国際キャリア開発基礎」・「国際キャリア開発特論」）

- ・人は他者と接するなかで刺激を受け、自分の考えの甘さや行動力のなさを実感する。自分の強みや不足している点、自己の価値観等が分かれば、自分のビジョンや将来計画がより明確になることを知った。

4. 人間力（「国際キャリア開発基礎・特論」・「国際実務英語Ⅰ・Ⅱ」）

栃木県の大学では、その立地的から、他大学の学生や社会人とキャリアについて意見交換をする機会が少ない。全国から問題意識の高い学生とキャリア経験の豊かな講師が参加する本セミナーでは、知らない人と集中的に議論する機会が多いため、「コミュニケーション力が上がった」、「自分の視野や行動範囲が広がった」との記述が、随所に見られる。

5. 語学力（「国際実務英語Ⅰ・Ⅱ」）

日本の日常生活で「英語で」学ぶ機会はそれほど多くない。英語漬けの合宿セミナーで「文法や表現の間違いを恐れず、積極的にコミュニケーションをとる大切さを学んだ」、参加者自身が「英語で」コミュニケーションをとること、学ぶことの難しさや楽しさを他の参加者と体験することで、「英語学習への意欲が高まった」との記述が、少なくない。

【オブザーバーの意見】

- ・参加者の意欲が高く、最終発表の内容や質疑応答等、質の伴ったものであったが、3大学の参加者が少なかったことが課題である。分科会のテーマ、開催時期や広報方法を含めた検討が必要である。（教員）
- ・参加者の問題意識、意見交換での質問内容、プログラムの内容等から判断して、以前よりレベルの高いセミナーになったと感じた。（国際キャリア教育会議委員）

2-2 実習の成果

（1）仕事の大変さ（「国際キャリア実習Ⅰ」・「国際キャリア実習Ⅱ」）

- ・実習の過程において、様々な人たちが仕事に関わっていることに気づいた。

- ・仕事には事前の想像と実際にギャップがあり、実際に参加しないとわからないことが多かった。
- ・現場で働くことで、自分の勉強の成果が自分の将来にどのように結びつくか、方向性を確認できた。

（２）仕事に対する姿勢（「国際キャリア実習Ⅰ」・「国際キャリア実習Ⅱ」）

- ・実習を通して、受身過ぎず積極的に働き掛ける努力の重要性や、実践的な勉強の必要性を学んだ。
- ・実習先で計画通りにいかなかった場合に臨機応変な対応が取れるよう、常に先を見越して行動する重要性を学んだ。

（３）語学力（「国際キャリア実習Ⅱ」）

- ・語学力はもとより、日本とは異なる職業観や価値観を知ることにより、国際感覚やコミュニケーション力が身についた。

2－3 受講生の追跡調査

本カリキュラムのいずれかを受講した学生の内、卒業生及び平成23年度卒業見込みの学生に対面、電話あるいはe-mailによって、下記6項目に対する回答を求めた。対象者は宇都宮大学7名、白鷗大学3名、卒業年度は平成22年度4名、平成23年度6名、性別は男性3名、女性7名、総数10名であった。その結果を以下にまとめた。

（１）合宿セミナー、インターンシップの何がよかったか？また、今の（これからの）仕事・生活にどのように役立っているか？

積極性、視野の拡大

- ・以前は消極的で人前で話すのも苦手だったが、人前で素直に自分の意見を言え、以前より積極的になった。今後、視野を広げるため、様々な講演会やイベントに参加していきたい。

異なる意見を聞く大切さ、自己主張

- ・異なる意見を聞くことの大切さを学んだ。
- ・学年や年齢を超えて、他大学生や社会人と知り合いができ、一つのテーマをとことん議論したのは勉強になった。
- ・セミナーでは、同世代の人達と同じテーマを議論し、他の人の意見を認めることや人前で自分の意見をしっかり伝える事の大切さを学んだ。
- ・女性の生き方や仕事の価値観等講師や学生と話ができて良かった。
- ・異なる意見を持つ人々とどう議論を進めていくか、議論の中で自分の意見を伝えていく大切さ学んだことは、今後の仕事に役立つと思う。

刺激

- ・大学では得られない刺激を受け、交流ができた。

自信

- ・他の優秀な大学生と同じスタートラインにたち、勉強しながら皆と一緒に実習に取り組むことができ、自分自身に自信がついた。

人脈、交流

- ・セミナーやインターンで出会った、先生、参加者、インターン先の人との繋がりを今後も活かしていきたい。

グローバルな視点

- ・国際的なテーマを学んだことで、より広い視野で話すことが出来る

外国人とのコミュニケーション

- ・以前は、外国人と話すことに抵抗があったが、セミナー中やミニ合宿で外国人講師や参加者と触れ合う機会があり、今では外国人でも緊張せずに話せるようになった。

（２）合宿セミナー、インターンシップは、就職活動や就職先の選択、長期的な人生の設計にどう役立っていますか？

就職活動

- ・セミナーに参加し「質問する力、話を聞く力」をつけたことで、就職活動の面接等に役立った。
- ・セミナーで議論を重ねたことにより、就職活動でのグループディスカッションの際にグループ全体を見る事ができるようになった。
- ・インターンを経験していたことによって、業務体験することのイメージを持つことができた。
- ・インターンを通して業務体験することに慣れていたので、就職先での事前研修にすんなりはいることができた。
- ・分科会でファシリテーターを担当し、皆の意見を聞きつつ、初対面の人に話を振ることによって、周辺に気を配るようになった。就活の集団面接の際も冷静に自分の意見を言いつつ、周りが意見を言えるように心がけた。

就職先の選択

- ・「様々な人と関わることが自分自身の人生が充実させる」と感じ、より人との関わりのある仕事を選びたいと思った。
- ・セミナー等で講師の方々に出会い、様々な仕事があることを学んだ。
- ・地域で市民活動に取り組む講師等に出逢い、色々な仕事があることがわかった。

長期的な人生設計

- ・グローバルな視点で物事を考えることができるようになった。
- ・合宿セミナーは世界を知るためのファーストステップだった。
- ・将来のためにどのような経験が必要なのか、何を準備しておけば良いかなどを考えるきっかけになる。
- ・キャリアデザインについて学んだことは、節々で人生設計を考えるときに役立っている。
- ・人生経験豊かな講師方と話したことは、就職を含めて自分の人生を考えることにつながった。
- ・本セミナーで長期的な人生設計が劇的に影響を受けたという印象はないが、本セミナーの経験は長期的な人生設計にとって有益であった。

（３）現在の業種、職種、業務内容はどのようなものですか？また、あなたの業務に国際的な内容が含まれますか？

卒業生の就職先及び卒業見込み者の内定先は、民間企業を中心に多岐に渡っている（旅行業、旅客運送業、陸運業、自動車製造業、食品製造販売、飲食料点小売業、ガス製造販売業、農機具製造販売業、楽器販売・教育産業、公務員、団体職員）。また、JICA 青年海外協力隊に参加したり、大学院に進学した者もいる。

「現在の仕事において、国際的な業務が含まれる」と答えた者は回答者の 14.3%で、英語教育や途上国での村落開発（青年海外協力隊）の仕事がそれにあたる。「今後、国際的な業務に携わる可能性がある」と言及した回答者は（卒業見込み者を含め）回答者の 42.9%で、自動車製造業の営業、旅客運送業の海外事業展開、旅行業の海外旅行業務、陸運業・食品製造販売業における外国人客への対応業務がそれである。現在の仕事及び今後の業務の可能性も含めると、57.1%の回答者が「国際的な業務に関わる」と答えている。

（４）あなたは将来国際的な業務や活動に就くことを希望しますか？

将来、国際舞台で活躍すること又は日本国内において海外に関わる活動や仕事を希望する者は、回答者の 50%であった（無回答 42.9%）。以下、アンケートの回答を抜粋した。

- ・紛争予防に関心があり、国連職員になることを希望している。しかし卒業直後に入ることは難しい

ので、JICA や国際協力に関連する機関に就職した後、国連を目指したい。

- ・卒業後の仕事をキャリアのワンステップとして考えている。その後、オーストラリアに移住し、日本語教師になりたい。
- ・将来は日本の中学校で英語教師を目指している。英語を教えるだけでなく、青年海外協力隊の経験を活かし、異文化教育も行いたい。
- ・将来、小中学校の教師を目指しているので、一般企業での仕事の経験や世界の出来事、合宿セミナーで学んだことを子供達に伝えていきたい。
- ・将来大学院で民主主義に関して研究したい。学生時代模擬国連にも所属していたので、国際的な活動にも関心がある。
- ・将来国際舞台で活躍したいと思っているが、具体的な職種は決まっていない。人生は長いので、いろいろなことに挑戦したい。
- ・特に国際的な業務は希望しない。

(5) 国際キャリア合宿セミナーは、就職セミナーやその他キャリアセミナーとどのように違うと思いますか？

【就職セミナーやキャリアセミナーとの違い】

受け身と主体性

- ・就職セミナーは限られた時間内で企業が一方的に話すため、学生が受け身であり、しかも企業の長所や強みのみにしか触れない。本音で話す講師との議論やシミュレーションを通して、主体性を保ちながら現状や実務についてより理解できる。
- ・キャリアフェスティバルでは、限られた時間内で企業が一方的に話し、しかも長所や強みのみにしか触れない(インターネットで収集できる情報と同様)。学生も事前準備をしない限り、積極的に質疑応答をしない。しかし合宿セミナーでは、講師が本音で問題点について話してくれるのがよかった。
- ・就職セミナーには参加したことがなく、昨年の外務省のセミナーには一回参加した。合宿セミナーは、明白な目的がないまま何となく興味があって参加しても、必ず感じるものがあり、気持ちの面での刺激剤である。

短期的と長期的

- ・就職活動という短期的な目的達成に焦点を当てるが、それはキャリアデザインとは異なる。その一方合宿セミナーでは、社会で活躍する講師との対話を通じ、仕事の選択だけでなく長期的に人生を見ることができるので有益である。
- ・就職セミナーは就職活動にのみ焦点を当てているため、就職活動の効果的な方法という短期的に役立つことを学ぶことができるが、合宿セミナーでは教員やNGOなど企業以外に勤める人々との対話を通じ、将来的にどんな仕事をしたいのか、またどんな仕事があるのかなど就職セミナーよりも長期的な目線で役立つことを考えることができる点が違うと感じ。
- ・前者は恐らく「就職対策」で「キャリアデザイン」ではないと思う。私の場合、就職が人生の夢に直結しないので、就職セミナーなどで学ぶことは長期的に人生を見た場合にはあまり有益ではない。

講義的と実践的

- ・前者には1回しか参加していない。たまたま工学部生向けの第一回セミナーで、内定をもらった人の経験談を聞くなど一方的な講義で、学生が受け身。自分が求めていたもの(学生が発言する、あるいは主体となる)と違っていたので、参加しても仕方がないと思った。学外で行われている合同就職セミナーでは、エントリーシートの書き方など技術的な内容が多いが、宇大では「働くこと」といった基礎的な内容しか取り上げていなく、もっと技術的な面を入れてほしい。
- その一方で合宿セミナーの分科会では、実際に商品をつくって売る、部署間のぶつかりを通して学ぶことは多かった。また合宿セミナーの魅力はいろんな人と知り合いになれ、教員でない講師と出会えたこと。そのような人とは面会をお願いしても、おそらく会えないだろう。

【大学との授業との違い】

講師とのコミュニケーション

- ・ 授業は限られた時間内で教員と学生間の議論がほとんどないため、教員との距離感がある。授業では教員が一方的に話すことが多く、学生は出席しても欠席しても同様である。その一方で、合宿セミナーでは講師と学生が一日中一緒に行動するため、講師と親密な話ができる。合宿セミナーの分科会のような少人数でインターアクティブな授業が増えたらいいのではないだろうか。分科会のような専門的な内容に学ぶ機会は大学の授業にはないため、それを大学の授業に組み込むとよい。
- ・ 大学の授業は90分という限られた時間しかないため、教授と学生の間で議論する機会がほとんどないが、合宿セミナーでは講師と学生が一日中一緒に行動することになるため、コミュニケーションが多くなり、色々な話をするができる。講義では教員との距離感があるが、合宿セミナーの分科会では講師とかなり親密な話ができる。教員は正確な答えを学生に教えないため学生自身が模索するしかないが、分科会では正解に近いものが短時間にわかる。分科会のような少人数でインターアクティブな授業が増えたらいいのでは。

集中型と持続型

- ・ 週一回の授業では議論が温まった頃授業が終わるが15週間続く。合宿セミナーでは、あるテーマに関する議論を通して集中的に学べるが、その反面、せっかく築きあげた議論や人脈が合宿後薄れる。
- ・ 大学の授業と合宿セミナーの形態は異なるが、従来の授業に一年数回の合宿セミナーを加えると、学業のリズムに刺激が生まれるだろう。
- ・ 合宿セミナーは、参加型、集中型、少人数、発表のための準備の面で授業と違う。授業では教員から聞くことが多く、学生が出席しても欠席しても同じ。専門的な内容（「アフリカの紛争」のような専門的な内容の授業は国際学部にないため、一般的な内容の授業と専門的な内容の授業の両方を組み合わせるとよい。
- ・ 集中度の違い。大学の授業は週一度なので議論が温まってきた頃、授業が終わり続きは翌週にされるが、半年くらいじっくり続けるのがいい点。合宿セミナーではほとんどまで議論することができ、集中的に一つのテーマを学べる点がいい。その反面、合宿でせっかく創り上げた議論や人脈も合宿後薄れていってしまうのも否めない。大学の授業と合宿セミナーは、形態も恐らく目的も異なるので、普段の授業だけでなく一年に何度かの合宿セミナーにも合わせて参加することで、学業のリズムに刺激が出てきて双方によいと思う。

（6）合宿セミナー、インターンシップについて、改善点はありますか？

合宿セミナーの期間

- ・ 従来の合宿セミナーの期間が2泊3日で、交流や分科会における議論の時間(計6時間)が短いため、吸収する時間を増やすために3泊4日に延長してほしい。
- ・ 時間が足りなく、吸収する時間をもっと欲しかった。1泊増やして、3泊4日にしてほしい、
- ・ 3泊4日にしてほしい。
- ・ 3泊4日に時間を増やしてほしい、講師と話す時間も含めてもっといろんな人と話す時間が必要。

事前セミナー

- ・ 特に実務英語 II では専門分野を英語で学ぶために、合宿セミナー前に基礎知識のためのセミナーがあるといいだろう。

合宿セミナー分科会の内容

- ・ 女性の目線から結婚や出産後も続けられる仕事や活躍している方、そして大学外で活動する学生の話を知りたい。分科会の選択肢が一つしかないので、増やしてほしい。
- ・ 「国際」だけでなく、国内に焦点をあてても良いと思う。参加しようと思っても、国際的な事に関心がないといけないのではないかと、また英語合宿セミナーでは英語が話せないといけないのではないかと、参加のハードルを感じる。

インターンシップ

・インターンシップの経験を合宿セミナーや大学内で共有する機会をもつこと、そして栃木県の企業などのインターンシップを増やしてほしい。

「交流」に関して

- ・時間が足りなく、吸収する時間がもっと欲しかった。交流時間がないので物足りない。
- ・最終日に打ち上げや就活後に同窓会があってもいい（合宿セミナー後、白鷗生と飲みに行ったり、就活で合宿セミナーの参加者と再会した）。
- ・講師と話す時間も含めてもっといろいろな人と話す時間が必要。

附 表

1. 委員会規定

(1) 国際キャリア教育会議

「地域の大学連携による学生の国際キャリア開発プログラム」の 実施に関する規程

制 定 平成 21 年 9 月 11 日
(国際キャリア教育会議決定)

(目的)

第 1 条 宇都宮大学、作新学院大学、白鷗大学は連携して、それぞれの大学が有する特色ある教育研究資源を活用し、学生に国際的学術分野の専門性を身につけさせ、地域の企業や自治体の国際化ニーズに応える人材を養成するための「地域の大学連携による学生の国際キャリア開発プログラム」（以下「プログラム」という。）を文部科学省の「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」に基づき実施するものとする。

(プログラムの実施体制)

第 2 条 このプログラムは、次の大学の連携により実施する。

- 一 宇都宮大学
- 二 作新学院大学
- 三 白鷗大学

(プログラムの運営組織)

第 3 条 プログラムを運営するため、国際キャリア教育会議（以下「会議」という。）を置く。

2 会議は次の委員をもって組織する。

- 一 宇都宮大学から選出された者
- 二 作新学院大学から選出された者
- 三 白鷗大学から選出された者
- 四 国際医療福祉大学から選出された者
- 五 独立行政法人国際協力機構から選出された者
- 六 栃木県から選出された者
- 七 社団法人栃木県経済同友会から選出された者
- 八 財団法人栃木県国際交流協会から選出された者
- 九 いっくら国際文化交流会から選出された者
- 十 その他会議の運営に必要と認められる者

3 前項第 10 号の委員は、第 6 条第 1 項により選出した委員長が、会議の承認を得て委嘱する。

(委員の任期)

第 4 条 委員の任期は 3 年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議の任務)

第 5 条 会議は、次に掲げる事項を審議し実施する。

- 一 プログラムの企画に関すること。
- 二 プログラムの広報に関すること。
- 三 プログラムの実施に関すること。
- 四 プログラムの実施に伴う関係機関との渉外に関すること。
- 五 プログラムに係る F D（ファカルティーデベロップメント）に関すること。

- 六 プログラムの実施報告に関すること。
- 七 プログラムの点検・評価に関すること。
- 八 その他プログラムに関し必要な事項

(会議の運営)

第6条 会議に委員長を置き、委員の互選によって選出する。

- 2 会議に副委員長を置き、委員長が指名した者をもって充てる。
- 3 委員長は会議を招集し、議長となる。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代行する。

第7条 会議は、委員の過半数の出席をもって成立する。

- 2 会議の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第8条 会議は、必要に応じて委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(専門委員会)

第9条 会議に、必要に応じて専門委員会を置くことができる。

- 2 専門委員会について必要な事項は、別に定める。

(プログラム事務局)

第10条 連携大学との連絡調整、会議の庶務、その他プログラムに関する庶務を行うため、プログラム事務局（以下「事務局」という。）を置く。

(事務局の組織)

第11条 事務局は次の者をもって組織する。

- 一 宇都宮大学から選出された者
- 二 作新学院大学から選出された者
- 三 白鷗大学から選出された者
- 四 その他事務局の運営に必要と認められる者

- 2 事務局の総括は宇都宮大学において行う。

(雑則)

第12条 この規程に定めるもののほか、プログラムに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成21年9月11日から施行する。
- 2 この規程の施行後最初に選出される委員の任期は、第4条の規定にかかわらず、選出された日から、平成24年3月31日までとする。
- 3 第3条第3項の規定により委員長が委嘱する委員の任期は、第4条の規定にかかわらず、委員長がその都度定める。

(2)国際キャリア FD 委員会

国際キャリアFD委員会内規

制 定 平成 21 年 12 月 15 日
(国際キャリア教育会議決定)

(趣旨)

第1条 この内規は、地域の大学連携による学生の国際キャリア開発プログラムの実施に関する規程（以下「規程」という。）第9条の規定に基づき設置する国際キャリアFD委員会（以下「委員会」という。）の任務、組織及び運営等に関し、必要な事項を定めるものとする。

(任務)

第2条 委員会は、次の事項について審議し実施する。

- 一 国際キャリア開発プログラムに係る授業の内容及び方法に関する企画立案、調査、研究実施に関すること。
- 二 国際キャリア開発プログラムに係る学生の支援・指導及び相談に関すること。
- 三 国際キャリア開発プログラムに係る事業実施計画案の策定に関すること。
- 四 国際キャリア開発プログラムに係る講演者・講師の人選に関すること。
- 五 国際キャリア開発プログラムに係る業務の改善に関すること。
- 六 国際キャリア開発プログラムに係る広報活動に関すること。
- 七 大学改革推進等補助金(大学改革推進事業)実績報告書案の策定に関すること。
- 八 その他国際キャリア開発プログラムの実施及び業務の改善に関し必要な事項(組織及び運営)

第3条 委員会は、次の委員をもって組織する。

- 一 宇都宮大学、作新学院大学及び白鷺大学の特任教員
- 二 宇都宮大学、作新学院大学及び白鷺大学の協力教員
- 三 その他委員会の運営に必要と認められる者

2 第1項第三号の委員は、第4条第1項により選出した委員長が委嘱する。

3 委員の任期は1年とし、再任を妨げない。

第4条 委員会に委員長を置き、委員の互選により選出する。

2 委員長は委員会を招集し、議長となる。

3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。

第5条 委員会は、宇都宮大学、作新学院大学及び白鷺大学の特任教員全員の出席をもって成立する。

2 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員会は、必要に応じて委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(雑則)

第7条 この内規に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規程は、平成 21 年 12 月 15 日から施行する。

2 この規程の施行後最初に選出される委員の任期は、第3条第3項の規定にかかわらず、選出された日から、平成 22 年3月 31 日までとする。

(3)国際キャリア教育点検・評価委員会

国際キャリア教育点検・評価委員会内規

制 定 平成 22 年3月1日
(国際キャリア教育会議決定)

(趣旨)

第1条 この内規は、地域の大学連携による学生の国際キャリア開発プログラムの実施に関する規程（以下「規程」という。）第9条の規定に基づき設置する国際キャリア教育点検・評価委員会（以下「委員会」という。）の任務、組織及び運営等に関し、必要な事項を定めるものとする。

(任務)

第2条 委員会は、次の事項について審議し実施する。

- 一 国際キャリア開発プログラムに係る自己評価・外部評価（事業評価、授業評価）の方法に関すること。
- 二 国際キャリア開発プログラムに係る評価項目・評価内容・評価基準の策定に関すること。
- 三 国際キャリア開発プログラムに係る評価報告書の作成に関すること。
- 四 国際キャリア開発プログラムに係る公表に関すること。
- 五 国際キャリア開発プログラムに係る評価結果に基づく改善方策に関すること。
- 六 国際キャリア開発プログラムに係る改善の達成度の検証に関すること。
- 七 その他国際キャリア開発プログラムに係る点検・評価に関し必要な事項

(組織及び運営)

第3条 委員会は、次の委員をもって組織する。

- 一 宇都宮大学、作新学院大学及び白鷗大学特任教員
- 二 宇都宮大学、作新学院大学及び白鷗大学協力教員
- 三 その他委員会の運営に必要と認められる者

2 第1項第三号の委員は、第4条第1項により選出した委員長が委嘱する。

3 委員の任期は1年とし、再任を妨げない。

第4条 委員会に委員長を置き、委員の互選により選出する。

2 委員長は委員会を招集し、議長となる。

3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。

第5条 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立する。

2 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員会は、必要に応じて委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(雑則)

第7条 この内規に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規程は、平成 22 年3月1日から施行する。

2 この規程の施行後最初に選出される委員の任期は、第3条第3項の規定にかかわらず、選出された日から、平成 22 年3月 31 日までとする。

(4)国際キャリア合宿セミナー実行委員会

国際キャリア合宿セミナー実行委員会内規

制 定 平成 21 年9月 11 日
(国際キャリア教育会議決定)

(趣旨)

第 1 条 この内規は、地域の大学連携による学生の国際キャリア開発プログラムの実施に関する規程（以下「規程」という。）第 9 条の規定に基づき設置する国際キャリア合宿セミナー実行委員会（以下「委員会」という。）の任務、組織及び運営等に関し、必要な事項を定めるものとする。

(任務)

第 2 条 委員会は、次の事項について審議し実施する。

- 一 国際キャリア合宿セミナー実施計画案の策定に関すること。
- 二 国際キャリア合宿セミナーの実施に関すること。
- 三 国際キャリア合宿セミナーの実施報告に関すること。
- 四 その他国際キャリア合宿セミナーに関し必要な事項

(組織及び運営)

第 3 条 委員会は、次の委員をもって組織する。

- 一 規程第 3 条第 2 項に基づき選出される国際キャリア教育会議（以下「会議」という。）の委員のうち、第 1 号から第 4 号までの委員
- 二 同第 5 号から第 9 号までの委員のうちから会議の委員長が指名する委員
- 三 その他委員会の運営に必要と認められる者

2 第 1 項第 3 号の委員は、第 4 条第 1 項により選出した委員長が委嘱する。

3 委員の任期は 1 年とし、再任を妨げない。

第 4 条 委員会に委員長を置き、委員の互選により選出する。

2 委員長は委員会を招集し、議長となる。

3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。

第 5 条 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立する。

2 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第 6 条 委員会は、必要に応じて委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(雑則)

第 7 条 この内規に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規程は、平成 21 年9月 11 日から施行する。

2 この規程の施行後最初に選出される委員の任期は、第 3 条第 3 項の規定にかかわらず、選出された日から、平成 22 年3月 31 日までとする。

2. 委員会名簿

(1) 国際キャリア教育会議

所 属	役職等	氏 名
宇都宮大学	副学長兼理事	渡邊 直樹
宇都宮大学	国際学部教授	友松 篤信
宇都宮大学	特任教員	米川 正子
宇都宮大学	国際学部事務長	野澤 待子
作新学院大学	経営学部教授	劉 永鶴
作新学院大学	特任教員	大野 邦雄
作新学院大学	教務課長	山田 卓徳
白鷗大学	教育学部教授	結城 史隆
白鷗大学	特任教員	福田 わかな
白鷗大学	事務総括部長	島村 志津夫
国際医療福祉大学	国際交流センター長	北村 義浩
独)国際協力機構(JICA)	地球ひろば(広尾センター)地域連携課長	長谷川 敏久
栃木県	産業労働観光部国際課長	浅香 達夫
栃木県	産業労働観光部国際課長補佐	三上 聡
社)栃木県経済同友会	事務局長	小島 茂蔵
公財)栃木県国際交流協会	事務局長	鈴木 一好
いっくら国際文化交流会	会長	長門 芳子

学外有識者

学校法人アジア学院	教務主任	大柳 由紀子
学校法人アジア学院	セミナーハウス主事	山下 崇
株式会社上原園	会長	早乙女 勇
株式会社上原園	代表取締役社長	嶋田 一男
那須烏山市観光協会	会長	福田 弘平

学内協力教員

宇都宮大学	国際学部教授	高際 澄雄
宇都宮大学	国際学部教授	重田 康博
宇都宮大学	国際学部准教授	清水 奈名子

(2) 国際キャリア FD 委員会

所属	役職等	氏名
宇都宮大学	国際学部教授	友松 篤信
宇都宮大学	特任教員	米川 正子
宇都宮大学	特任事務職員	坂本 昌美
作新学院大学	経営学部教授	劉 永鶴
作新学院大学	経営学部教授	前橋 明朗
作新学院大学	特任教員	大野 邦雄
作新学院大学	事務局	野村 安子
白鷗大学	教育学部教授	結城 史隆
白鷗大学	特任教員	福田 わかな
白鷗大学	事務局	鶴見 佳代子

(3) 国際キャリア合宿セミナー実行委員会

所属	役職等	氏名
宇都宮大学	副学長兼理事	渡邊 直樹
宇都宮大学	国際学部教授	友松 篤信
独) 国際協力機構 (JICA)	栃木県国際協力推進員	屋代 英二
いっくら国際文化交流会	会長	長門 芳子
作新学院大学	特任教授	大野 邦雄
作新学院大学	経営学部准教授	鈴木 隆
作新学院大学	国際キャリア開発プログラム事務局	野村 安子
白鷗大学	教育学部教授	結城 史隆
白鷗大学	特任講師	福田 わかな
白鷗大学	国際キャリア開発プログラム事務担当	鶴見 佳代子
宇都宮大学	国際学部教授	高際 澄雄
宇都宮大学	国際学部教授	重田 康博
宇都宮大学	国際学部准教授	清水 奈名子
宇都宮大学	国際学部特任准教授	米川 正子
宇都宮大学	キャリア教育・就職支援センター教授	末廣 啓子
宇都宮大学	国際学部 事務長	野澤 待子
宇都宮大学	国際学部 専門職員	久野 秀和
宇都宮大学	国際学部 総務係員	小竹 章裕
宇都宮大学	国際学部 特任事務職員	坂本 昌美
宇都宮大学	キャリア教育・就職支援室係長	矢口 隼人
宇都宮大学	学務部 修学支援課国際学部係長	根津 宏毅

(4)国際キャリア合宿セミナー学生実行委員会

国際キャリア開発基礎	宇都宮大学(インターン)	川島 正恵
国際キャリア開発特論	白鷗大学	池田 あやか
	白鷗大学	似内 竜介
	白鷗大学	萩元 仁文
国際実務英語 I・II	宇都宮大学大学院 卒業生	ブレンデン パン ストーク
	白鷗大学	大谷 拓
	白鷗大学	大塚 綾奈
	白鷗大学	神谷 理恵
	白鷗大学	木村 有希
	白鷗大学	笹沼 恵
	白鷗大学	濱野 紗也加
	白鷗大学	東海林 志穂
	白鷗大学	谷田部 款之
	白鷗大学	吉田 尚代

3. シラバス

(1) 大学コンソーシアムとちぎ・宇都宮大学国際学部

・国際キャリア開発基礎

授業科目名	国際キャリア開発基礎 Introduction to International Career Development				
開講時期	未定	曜日・時限	不定時	時間割コード	K999997
学部・学科等	国際学部	標準対象年次	1, 2, 3, 4	必修・選択区分	選択
科目区分	専門教育科目	単位数	2	授業形態	実習
担当教員名	米川 正子				
電話番号	028-649-5180	電子メール	yonekawa@cc.utsunomiya-u.ac.jp		
オフィスアワー	研究室 火曜日 14:00-17:00、水曜日 14:00-17:00 他の時間帯は事前にメールで予約すること		科目等履修生の受入	受入可	

【授業の内容】

国際ビジネス、国際協力、国際交流・観光などの分野から第一線の実務者を講師陣として招き、講義及びワークショップ形式での合宿セミナーを行います。各講師の職務、働く意義、また各分野が直面する課題を学びます。事前に参考文献や専門用語で予習し、合宿後にレポート提出を課します。

【授業の到達目標】

1. 国際的な仕事で働く意義や面白さ、職業感を学ぶ、2. 国際的な仕事の知識と求められる能力、そこに至る具体的な道筋（キャリアパス）を学ぶ、3. 自分の専門性や関心分野をより明確にします。

【学習・教育目標との関連】

国際的な視野を持った人材の養成に不可欠な仕事の知識を身につける。

【前提とする知識、関連する科目等】

国際協力や国際交流などに関心を持ち、国際的なキャリアを考えていること。「国際実務英語Ⅰ」と「国際キャリア実習Ⅰ」と併せて受講することが望ましい。

【授業の具体的な進め方】

国際協力、国際交流、国際ビジネスなどで活躍する実務者のキャリアパスを聞き、テーマ別の分科会で様々な課題を学びます（2010年度のテーマは、人道支援、コミュニティー開発、観光まちづくり、ジャーナリズム、ビジネス等）。宿泊費・食費などの実費は自己負担となります（3泊4日）。

【授業計画】

3泊4日の合宿

1日目：国際キャリアに関する講義 2日目：安全管理の講義、各講師陣の講義、分科会

3日目：分科会、グループ発表の準備、中間発表 4日目：グループ発表、総括

合宿セミナー後にレポート提出

【教科書・参考書・教材等】

事前に参考文献を提示します。

【成績評価】

参加状況 40%、レポート 60%

【学習上の助言】

自分のキャリアについて考えながら、全国の学生と交流できる良い機会です。将来のキャリアで悩んでいる人は、是非積極的にご参加下さい。主体的に国際キャリア開発合宿セミナーを企画する実行委員やファシリテーターを募集しています。

・国際キャリア開発特論

授業科目名	国際キャリア開発特論 International Career Development (Advanced)				
開講時期	未定	曜日・時限	不定時	時間割コード	K999991
学部・学科等	国際学部	標準対象年次	1, 2, 3, 4	必修・選択区分	選択
科目区分	専門教育科目	単位数	2	授業形態	講義
担当教員名	米川 正子				
電話番号	028-649-5180	電子メール	yonekawa@cc.utsunomiya-u.ac.jp		
オフィスアワー	研究室 火曜日 14:00-17:00 水曜日 14:00-17:00 他の時間帯は事前にメールで予約すること			科目等履修生の受入	受入可
<p>【授業の内容】 国際的分野の第一線で活躍される講師を招き、演習を通して高度な専門知識や技能、問題解決力及び仕事への姿勢を学び、具体的な卒業後の国際キャリア形成を目指します。事前に参考文献で予習し、合宿後にレポートを提出を課します。</p> <p>【授業の到達目標】 1. 国際的な分野に必要な高度な専門知識と問題解決力を学び、2. 具体的な卒業後の国際キャリア形成を目指します。</p> <p>【学習・教育目標との関連】 国際的な視野を持った人材の養成に不可欠な高度な専門知識と問題解決力を身につける。</p> <p>【前提とする知識、関連する科目等】 国際協力や国際交流などに関心を持ち、将来国際分野における進路を考えている、または国際分野に関する専門性をより高めたいと考えていること。「国際キャリア開発基礎」を受講していることが望ましい。また、関連分野のボランティア活動やアルバイト経験があれば、高い学習効果が期待できます。</p> <p>【授業の具体的な進め方】 国際協力、国際交流、国際ビジネスなどで活躍する実務家を分科会の講師として招き、グループ・ディスカッションやシミュレーションを通して、国際的な課題への問題解決を探ります。合宿最終日には分科会で学んだことや提言をまとめ、グループ発表を行います。宿泊費・食費などの実費は自己負担となります。(3泊4日)</p> <p>【授業計画】 3泊4日の合宿 1日目：ロジカル・シンキングに関する講義 2日目：安全管理の講義、各講師陣の講義、分科会 3日目：分科会、グループ発表の準備、中間発表 4日目：グループ発表、総括 合宿セミナー後にレポート提出</p> <p>【教科書・参考書・教材等】 参考文献を事前に提示します。</p> <p>【成績評価】 参加状況 40%、レポート 60%</p> <p>【学習上の助言】 専門知識と問題解決力について学びながら、全国の学生と交流できる良い機会です。主体的に国際キャリア開発合宿セミナーを企画する実行委員やファシリテーターを募集しています。</p>					

・国際実務英語 I

授業科目名	国際実務英語 I International Career Development Seminar I (English version)				
開講時期	未定	曜日・時限	不定時	時間割コード	K110336
学部・学科等	国際学部	標準対象年次	1, 2, 3, 4	必修・選択区分	選択
科目区分	専門教育科目	単位数	2	授業形態	演習
担当教員名	米川 正子				
電話番号	028-649-5180	電子メール	yonekawa@cc.utsunomiya-u.ac.jp		
オフィスアワー	研究室 火曜日 14:00-17:00 水曜日 14:00-17:00 他の時間帯は事前にメール で予約すること	科目等履修生の受入	受入可		

【授業の内容】

「国際キャリア開発基礎」の英語版である本科目は、国際ビジネス、国際協力、国際交流・観光などの分野から第一線の実務者を講師陣として招き、講義及びワークショップ形式での合宿セミナーを行います。各講師の職務、働く意義、また各分野が直面する課題を学びます。事前に参考文献や英語の専門用語で予習し、合宿後にレポート提出を課します。

【授業の到達目標】

1. 国際ビジネスや国際協力・国際交流活動・観光業などにおける、実践的な英語運用能力を身につける、2. 異文化におけるコミュニケーション・スキルの向上を目指します。

【学習・教育目標との関連】

国際的な視野を持った人材の養成に不可欠な仕事の知識を、英語で身につける。

【前提とする知識、関連する科目等】

初級/中級の英語力、そして国際協力や国際交流・観光などに関心を持ち、国際的なキャリアを考えていること。「国際キャリア開発基礎」（国際キャリア開発・合宿セミナー）を受講しており、「国際キャリア開発特論」「国際キャリア実習1」を同時にあるいは将来受講することが望ましい。

【授業の具体的な進め方】

国際協力、国際交流、国際ビジネスなどで活躍する実務者のキャリアパスを聞き、テーマ別の分科会で様々な課題を英語で学びます [2010 年度のテーマは人道支援と平和構築、メディアと平和教育、食の安全保障、観光等)。また異文化でのコミュニケーション・スキルを強化します。合宿最終日には各分科会が発表を英語で行います。宿泊費・食費などの実費は自己負担となります。(3泊4日)

【授業計画】

3泊4日の合宿
 1日目：国際キャリアやプレゼンテーション・スキルに関する講義
 2日目：各講師陣の講義、分科会
 3日目：分科会の続き、発表準備、中間発表
 4日目：グループ発表、総括
 合宿セミナー後、レポート提出

【教科書・参考書・教材等】

事前にプレリーディングのためのテキストを提示します。

【成績評価】

参加状況 40%、レポート 60%

【学習上の助言】

自分のキャリアについて英語で考えながら、全国の学生と交流できる良い機会です。外国語習得のためには、まず慣れるのが一番で、英語漬けの合宿に参加すると、大分自信が付きまします。主体的に国際キャリア開発合宿セミナーを企画する実行委員やファシリテーターを募集しています。

・国際実務英語Ⅱ

授業科目名	国際実務英語Ⅱ International Career Development Seminar II				
開講時期	未定	曜日・時限	不定時	時間割コード	K110337
学部・学科等	国際学部	標準対象年次	1, 2, 3, 4	必修・選択区分	選択
科目区分	専門教育科目	単位数	2	授業形態	講義
担当教員名	米川 正子				
電話番号	028-649-5180	電子メール	yonekawa@cc.utsunomiya-u.ac.jp		
オフィスアワー	研究室 火曜日 14:00-17:00 水曜日 14:00-17:00 他の時間帯は事前にメールで予約すること	科目等履修生の受入		受入可	

【授業の内容】

「国際キャリア開発特論」の英語版である本科目は、国際的分野の第一線で活躍される講師を招き、演習を通して高度な専門知識や技能、問題解決力及び仕事への姿勢を英語で学び、具体的な卒業後の国際キャリア形成を目指します。事前に参考文献や英語の専門用語で予習し、合宿後にレポート提出を課します。

【授業の到達目標】

1. 国際的な分野に必要な高度な専門知識と問題解決力を英語で学び、2. 異文化におけるコミュニケーション・スキルの向上、3. 具体的な卒業後の国際キャリア形成を目指します。

【学習・教育目標との関連】

国際的な視野を持った人材の養成に不可欠な高度な専門知識と問題解決力を、英語で身につける。

【前提とする知識、関連する科目等】

中級以上の英語力、そして国際協力や国際交流・観光などに関心を持ち、国際的なキャリアを考えていること。「国際キャリア開発基礎」と「国際実務英語Ⅰ」を受講しており、「国際キャリア開発特論」「国際キャリア実習ⅡⅠ」を同時に、あるいは将来受講することが望ましい。

【授業の具体的な進め方】

国際協力、国際交流、国際ビジネスなどで活躍する実務家を分科会の講師として招き、グループ・ディスカッションやシミュレーションを通して、国際的な課題への問題解決を探ります。合宿最終日には英語でのプレゼンテーションを行います。宿泊費・食費などの実費は自己負担となります。(3泊4日)

【授業計画】

3泊4日の合宿

1日目：国際キャリアやプレゼンテーション・スキルに関する講義

2日目：各講師陣の講義、分科会 3日目：分科会の続き、発表準備、中間発表

4日目：グループ発表、総括

合宿セミナー後、レポート提出

【教科書・参考書・教材等】

事前にプレリーディングのためのテキストを提示します。

【成績評価】

参加状況 40%，レポート 60%

【学習上の助言】

専門知識と問題解決力について英語で学びながら、全国の学生と交流できる良い機会です。外国語習得のためには、まず慣れるのが一番で、英語漬けの合宿に参加すると、大分自信がつけます。主体的に国際キャリア開発合宿セミナーを企画する実行委員やファシリテーターを募集しています。

・国際キャリア実習 I

授業科目名	国際キャリア実習 I International Internship I				
開講時期	未定	曜日・時限	不定時	時間割コード	K999992
学部・学科等	国際学部	標準対象年次	1, 2, 3, 4	必修・選択区分	選択
科目区分	専門教育科目	単位数	2	授業形態	実習
担当教員名	米川 正子				
電話番号	028-649-5180	電子メール	yonekawa@cc.utsunomiya-u.ac.jp		
オフィスアワー	研究室 火曜日 14:00-17:00 水曜日 14:00-17:00 他の時間帯は事前にメールで予約すること	科目等履修生の受入	受入可		

【授業の内容】

国際ビジネスや国際協力、国際交流活動・観光業などで活躍することを目指して、国内の企業・NGO・公的機関・地方自治体、国際機関などでインターンとして実習経験を積み、実務能力を高めます。インターン後はレポート提出を課します。

【授業の到達目標】

現場体験あるいは実習経験を積み、実務能力、企画力とコミュニケーション力を高めます。さらに、自分の関心分野や専門性をより明確にします。

【学習・教育目標との関連】

国際的な視野を持った人材の養成に不可欠な仕事の知識を、現場の体験を通じて身につける。

【前提とする知識、関連する科目等】

国際協力や国際交流、国際ビジネスなどに関心を持ち、国際的なキャリアを考えていること。「国際キャリア開発基礎」を受講しており、「国際キャリア開発特論」「国際実務英語」を同時あるいは将来受講することが望ましく、また、NGOでのボランティアやアルバイト経験者や企業、自治体等でのインターンシップ経験者であれば、高い学習効果が期待できます。

【授業の具体的な進め方】

国内にあるNGOや市民団体、公的機関、地方自治体、企業などをインターン先として、業務補佐などの実務を経験します。場合により、担当者と相談しながら自分の関心分野に合った実習のプログラムもつくれます。長期休暇中の集中型、あるいは週に1～2回行う通勤型があり、最低80時間を実習時間とし、希望の分野や機関に合わせて派遣します。事前指導を行い、インターンシップ終了後には、実習報告書を提出します。

【授業計画】

1. 興味関心分野と受け入れ先機関とのマッチング
2. インターンシップに向けたオリエンテーション
3. インターン実習
4. 実習報告書提出

【教科書・参考書・教材等】

実習開始前に受け入れ機関や関連分野に関する資料を提示します。

【成績評価】

レポート 50% 受け入れ先の評価 50%

【学習上の助言】

「百聞は一見にしかず」と言いますが、「百見は一触にしかず」です。実習を通して実務と理論の間のギャップを埋めてみませんか。国内実習で、就職を乗り切る自信がつきます。

・国際キャリア実習Ⅱ

授業科目名	国際キャリア実習Ⅱ International Internship II				
開講時期	未定	曜日・時限	不定時	時間割コード	K999993
学部・学科等	国際学部	標準対象年次	1, 2, 3, 4	必修・選択区分	選択
科目区分	専門教育科目	単位数	2	授業形態	実習
担当教員名	米川 正子				
電話番号	028-649-5180	電子メール	yonekawa@cc. utsunomiya-u. ac. jp		
オフィスアワー	研究室 火曜日 14:00-17:00 水曜日 14:00-17:00 他の時間帯は事前にメールで予約すること	科目等履修生の受入		受入可	
<p>【授業の内容】 国際ビジネスや国際協力、国際交流活動・観光業などで活躍することを目指して、国内の企業・NGO・公的機関・地方自治体、国際機関などでインターンとして実習経験を積み、実務能力を高めます。インターン後はレポート提出を課します。</p> <p>【授業の到達目標】 英語などの外国語を用いて現場体験あるいは実習経験を積み、実務能力、企画力とコミュニケーション力を高めます。さらに、自分の関心分野や専門性をより明確にします。</p> <p>【学習・教育目標との関連】 国際的な視野を持った人材の養成に不可欠な仕事の知識を、現場の体験を通じて外国語で身につける。</p> <p>【前提とする知識、関連する科目等】 国際協力や国際交流、国際ビジネスなどに関心を持ち、海外で実地体験したいと考えていること。「国際キャリア開発基礎」(国際キャリア合宿セミナー)を受講しており、「国際キャリア開発特論」「国際実務英語Ⅰ」「国際実務英語Ⅱ」を受講しておくことが望ましく、また海外経験があれば、高い学習効果が期待できます。</p> <p>【授業の具体的な進め方】 国際NGOや市民団体、公的機関、栃木県内企業の海外事業所などをインターン先として、業務補佐などの実務を経験します。場合により、担当者とは相談しながら自分の関心分野に合った実習のプログラムもつくれます。H23年度夏、H24年度春の長期休暇中、また休学中の一定期間(最低80時間)を実習時間とし、希望の分野や機関に合わせて派遣します。事前指導を行い、インターンシップ終了後には、実習報告書を提出します。また、必要に応じて、事前研修を行います。</p> <p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 興味関心分野と受け入れ先機関とのマッチング 2. インターンシップに向けたオリエンテーション 3. インターン実習 4. 実習報告書提出 <p>【教科書・参考書・教材等】 実習開始前に受け入れ機関や関連分野に関する資料を提示します。</p> <p>【成績評価】 レポート 50% 受け入れ先の評価 50%</p> <p>【学習上の助言】 「百聞は一見にしかず」と言いますが、「百見は一触にしかず」です。実習を通して実務と理論の間のギャップを埋めてみませんか。海外実習で、就職を乗り切る自信がつかます。</p>					

(2) 白鷗大学経営学部

科目名	専門特講 I (国際キャリア開発基礎)
教員名	結城 史隆
【授業の内容】	
グローバル化の進展は世界経済の活性化に寄与する一方で、貧困層の一層の貧困化、貧富の格差の拡大をもたらしています。また、紛争・戦争・災害は終わるところを知らず、多くの民衆が災いの渦に巻き込まれています。このような状況の中で、さまざまな視点、理念、組織による国際協力・国際交流の推進がますます必要とされています。本講義では、国際ビジネス、国際協力、国際交流・観光などの分野から第一線で活躍する実務者を講師陣として招き、講義及びワークショップ形式での合宿セミナーを行います。各講師の職務、働く意義、また各分野が直面する課題を学びます。事前に参考文献や専門用語を予習し、合宿後にレポート提出を課します。広い世界に目を向けたい学生、国際協力やビジネス、国際交流・観光に興味がありその内容を知りたい学生、将来、国際社会で活動を希望している学生にとって、最適の講義です。	
【到達目標】	
1. 国際的な仕事で働く意義や面白さ、職業感を学ぶ。 2. 国際的な仕事の知識と求められる能力、そこに至る具体的な道筋（キャリアパス）を学ぶ。 3. 自分の専門性や関心分野をより明確にする。	
【授業計画】	
3泊4日の合宿 1日目：国際キャリアに関する講義 2日目：海外安全管理の講義、各講師陣の講義、分科会 3日目：分科会、グループ発表の準備、中間発表 4日目：グループ発表、総括	
【授業の進め方】	
国際協力、国際交流、国際ビジネスなどで活躍する実務者のキャリアパスを聞き、テーマ別の分科会で様々な課題を学びます。2010年度のテーマは、人道支援、コミュニティー開発、観光まちづくり、ジャーナリズム、ビジネス等。宿泊費・食費などの実費は自己負担となります（3泊4日で10,000円(予定)）。	
【教科書】	
事前に各分科会テーマに関する参考図書やHPを紹介します。合宿セミナーまでに読んで来て下さい。	
【成績評価の方法】	
①具体的な評価方法	
・授業への参加度：分科会における積極性(initiative)、コミュニケーション能力(communication ability)とチームワーク(team work building)の評価 ・レポート：合宿セミナー終了後、A4で2～3枚程のレポート提出	
②評価方法の比率	
・授業への参加度 40% ・レポート 60%	
【「成績評価の方法」に関する注意点】	
合宿セミナーの途中参加及び退席をした場合は、規定時間数に達しない為、評価の対象となりません。	
【履修上の心得】	
全国の大学生や社会人と交流でき、自分のキャリアについて考える良い機会です。合宿セミナーの企画運営に主体的に関わる学生ボランティアやファシリテーターも募集しています。	
【科目レベル、前提条件など】	
国際キャリア開発プログラムの授業として、「国際キャリア開発基礎」「国際キャリア開発特論」「国際キャリア実習Ⅰ」「国際キャリア実習Ⅱ」「国際実務英語Ⅰ」「国際実務英語Ⅱ」の6科目があります。「国際キャリア開発基礎」履修後、さらに発展した「国際キャリア開発特論」の履修が望ましい。	

科目名	専門特講 I (国際実務英語 I)
教員名	結城 史隆
【授業の内容】	
「国際キャリア開発基礎」の英語版である本科目は、国際ビジネス、国際協力、国際交流・観光などの分野から第一線の実務者を講師陣として招き、講義及びワークショップ形式での合宿セミナーを行います。各講師の職務、働く意義、また各分野が直面する課題を学びます。事前に参考文献や英語の専門用語リストで予習し、合宿後にレポート提出を課します。	
【到達目標】	
①国際ビジネスや国際協力・国際交流活動・観光業などにおける、実践的な英語運用能力を身につける ②異文化におけるコミュニケーション・スキルの向上を目指す	
【授業計画】	
3泊4日の合宿 1日目：国際キャリアやプレゼンテーション・スキルに関する講義 2日目：各講師陣の講義、分科会 3日目：分科会の続き、発表準備、中間発表 4日目：グループ発表、総括 合宿セミナー後、レポート提出	
【授業の進め方】	
国際協力、国際交流、国際ビジネスなどで活躍する実務者のキャリアパスを聞き、テーマ別の分科会で様々な課題を英語で学びます。2010年度のテーマは人道支援と平和構築、メディアと平和教育、食の安全保障、観光等。合宿最終日には各分科会毎に発表を英語で行います。宿泊費・食費などの実費は自己負担となります。	
【教科書】	
事前に各分科会テーマに関する参考図書やHP、英単語リストを提示します。合宿セミナーまでに予習してきて下さい。	
【成績評価の方法】	
①具体的な評価方法	
・授業への参加度：分科会における積極性(initiative)、コミュニケーション能力(communication ability)とチームワーク(team work building)の評価 ・レポート：合宿セミナー終了後、A4で2～3枚程のレポート提出	
②評価方法の比率	
・授業への参加度 40% ・レポート 60%	
【「成績評価の方法」に関する注意点】	
合宿セミナーの途中参加及び退席をした場合は、規定時間数に達しない為、評価の対象となりません。	
【履修上の心得】	
全国の学生や社会人と交流でき、生きた英語を使いながら自分のキャリアについて考える良い機会です。合宿セミナーの企画運営に主体的に関われる学生ボランティアやファシリテーターも募集しています。	
【科目レベル、前提条件など】	
初級/中級の英語力、そして国際協力や国際交流・観光などに関心を持ち、国際的なキャリアを考えていること。「国際キャリア開発基礎」を受講しており、「国際キャリア開発特論」「国際キャリア実習1」を同時にあるいは将来受講することが望ましいです。	

執筆・編集・担当

宇都宮大学（国際学部）

教授 友松 篤信
特任准教授 米川 正子
総務係 坂本 昌美

作新学院大学（経営学部）

特任教授 大野 邦雄
事務局 野村 安子

白鷗大学（教育学部）

特任講師 福田 わかな
事務担当 鶴見 佳代子

平成 21 年度文部科学省選定
大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム
「地域の大学連携による学生の国際キャリア開発プログラム」
平成 23 年度総合報告書

発 行 平成24 年3月